

## 四 治外法権問題

356 昭和6年1月(1)日

在中国重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

幣原外相の指導による日本の外交政策が日中両  
國に有意義である旨の王外交部長談話について

南京 発  
本省 1月1日前着

公第一三〇三號

三十一日王部(長)ト會談ノ節王ハ日支ノ大局ニ言及シ自  
分ハ御承知ノ通北京時代ヨリ亞細亞ノ二大國ノ提携即チ支  
那ハ經濟的ニ日本ヲ助ケ日本ハ政治的ニ支那ニ貢獻スルノ  
大体ノ方針ヲ以テ進ミ來レル次第ナルカ願レハ支那内部ノ  
狀態ハ一年前トハ大ナル改善ヲ見タリ又日本側モ強固ニシ  
テ賢明ナル政府ノ指導アリ日支兩國ノ關係亦過去一年ノ間  
前後ニ於テ隔世ノ感アリ依テ此ノ機ヲ逸セス益々兩國ノ親  
善關係ヲ促進セシメ度キ決心ナルニ依リ日本ニテモ同様ノ  
態度ニ依リ進ミ各種ノ問題ニ付テ援助ヲ與ヘラレシコトヲ

## 四 治外法権問題

第五號

本官發公使宛電報

第一號ノ一(極秘)

客年貴電公第四七號ニ關シ

北平 発  
本省 1月7日後着

一、英米共ニ當地出先官憲ノ關スル限り本件ニ付テハ出來  
得ル限り協調ヲ保タントスル希望ヲ有シ居ルカ如ク我方ト  
シテモ客年大臣發本官宛電報第六〇號及第六一號ノ訓令ニ  
基キ本官ヨリ英米公使ニ對シ切メテ法權問題ニ關スル主要  
點ニ付テハ同一歩調ニテ進ミタキ旨申入レ當地ニ於テ英米  
代表者非公式協議ノ結果大体我方ノ希望ヲモ參酌シタル試  
案ヲ作成シ前以テ右ニ對スル我方ノ意見ヲ求メタル後(客  
年大臣宛往電第二四一號及第二六五號等參照)英米共ニ夫々  
多少ノ修正ヲ加ヘテ之ヲ支那側ニ提出シ同時ニ英國ヨリ我  
方ニ對シテ右提出方ヲ催促シタル儘今日ニ至リタル經緯ア  
ルコト御承知ノ通ナリ從テ今後我方ニ於テ客年貴官發大臣  
宛電報公第一二八二號ノ趣旨ニ依リ別個ノ案ヲ作成スル  
本官發在支代理公使宛電報第一號ノ二(極秘)

切望スト述ヘタルニ付本官ヨリ右ノ趣旨ニハ全然同感ナリ  
自分ノ今日迄執レル態度ハ既ニ御承知ノ通ニシテ本年ノ末  
日ニ於テ貴部長カ本官ニ對シ右ノ如キ日支關係ヲ顧慮サレ  
居ル心裡ヲ吐露サレタルコトニ對シテハ本年最後ノ會見ヲ  
飾ル最モ善キ紀念トシテ深ク心ニ止ムヘシ幣原外相ニ依リ  
指導セラルル日本ノ外交政策ハ日支兩國ニ取リ特ニ有意義  
ノモノニシテ貴部長ノ御精神ト相俟テ兩國ノ友好關係ヲ進  
ムル上ニ貢獻スルコト多大ナルヘキヲ信ストノ趣旨ヲ述ヘ  
置ケリ

北平ニ轉電シ南京ニ轉報セリ

357 昭和6年1月(7)日

在中国矢野公使館參事官より  
幣原外務大臣宛(電報)

治外法権問題で英米協調が必要との重光宛意

見上申

場合ニ於テハ過去ノ經緯ヨリ見テ豫メ之ヲ英米ニ内示シ其  
ノ意見ヲ參酌シタル上支那側ニ提出スルコト一應ノ順序ナ  
ルヘキハ夙ニ御氣付ノコトト存ス依テ當方トシテハ貴見ノ  
如ク速ニ英米案ヨリモ一層適切ニシテ且ツ能フ限り支那ニ  
寛大ナル具体案ヲ作成ノ上右ヲ土臺ニ英米側ト腹藏ナキ意  
見ヲ交換シテ出來得ル限り「コンモン、グラウンド」ニ歩  
ミ寄り此ノ範圍ニ於テ少クとも各國共ニ拔駟的ニ讓歩セサ  
ルコト及出來得レハ支那力横車ヲ押サントスル場合ノ對案  
ニ付テモ話合ヲ遂ケ置クコト肝要ナルヘク又前記ノ如キ  
「プロセス」ニ依リ極秘裡ニ意見ヲ交換スルニ於テハ日本  
カ列國共同動作ノ先頭ニ立チテ支那ノ怨ヲ買フ惧ナカルヘ  
キハ恰モ曩ニ英米案作成當時英國力率先シタル事實アルニ  
拘ラス何等問題ヲ惹起セサリシト同様ナルノミナラス假リ  
ニ右内情カ支那側ニ判明スルトモ本件ノ如キ各國共通ノ重  
要問題ニ付テハ支那ニ於テモヨリ事態ヲ諒解スヘキ儀ナリ  
ト思考ス

二、唯右意見交換ノ際問題トナルヘキハ御意見ノ如ク讓歩  
ノ限度及支那側ノ横車ニ對スル對策ニ付意見ノ一致ヲ見ル  
コト容易ナラサル點ナルカ

本官發公使宛電報  
第一號ノ三(極秘)

第一ノ點ハ例ヘハ條約ノ效力發生時期、民刑讓歩ノ範圍、移審、外人顧問、不當課税及不當監禁ニ對スル保障等唯一致シ得ル點ニ付テノミ決定スレハ足ルヘク又第二ノ點ニ關シテハ過日「パーキンス」カ館員ニ對シ私見トシテ左様ノ場合ニハ斷然交渉ヲ打切り支那側ノ一方的行爲ニ對シテハ嚴然タル態度ヲ以テ之ヲ否認スルノ外ナキニ至ルヘシト漏ラセルニモ鑑ミ夫レ以上強硬ナル對策ニ付意見ノ一致ヲ見ルコト困難ナリトハ思考スルモ事ノ成否ニ拘ラス一應右等ノ點ニ付テモ豫メ充分協議ヲ試ムルコト得策ナラスヤト存ス

三、尙「プロトコール、パワース」ノ共同動作ノ不可能トナリタルコトハ全ク御説ノ通ナルモ法權問題ニ關シテハ利害關係密接ナル英米佛ト協調シ得レハ足ルヘク又帝國ノ重大利害ニ抵觸セサル限り支那ノ合理的要求ヲ認ムルコト已ムヲ得サルヘキモ法權ニ對スル支那側ノ主張ハ其ノ無條件撤廢ニ在ル如ク而シテ左様ノ主張ヲ以テ横車ヲ押サレテハ影響ヲ蒙ルハ我方ナルヘキニ鑑ミ此ノ際出來得ル限りノ手

本官發北平宛電報第二號

貴電第一號領承利害關係國トノ密接ナル聯絡ハ貴見ノ通又拙電第四七號ニテモ明カナル通充分必要ニシテ今回御來示ノ程度ノ協調ハ成ルヘク努力シタキ卑見ナリ尙右方針ノ運用ハ我方ノ成案ノ内容交渉方針ニモ關係スル意見ト思考セラル

大臣ヘ轉電シ上海、南京ヘ暗送セリ

(付記)

谷盟兄

上海にて

先以て新年慶賀奉候。

重光生

本年ハ国事を思ふものゝ祝すべき多クの理由を有志候特ニ対中国關係の政策ニ従事するものに於て然りとすべく候。吾々出先のものハ去年の元旦と本年の正月との間ニ餘りの多くの差あることを感じ申候。天祐とハ云ひ乍ら外務省上下ハ其ノ努力に對して多大の自負心と自重の精神を感じて可なるべく候。御同慶の到りに候。本年も各種の問題ニ付て御援助を仰ぐとも云ふは野暮終始一貫我難局の打開進路の開拓ニ一心全体の覺悟にて

段ヲ盡ス意味ニ於テ前記ノ如キ方法モ徒爾ナラサルヤニ思考セラル

差出カマシキ儀乍ラ爲念重ネテ卑見申進ス

代理公使ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

大臣、南京ヘ轉電セリ

編注 「リ」の箇所に「ク」との書き込み訂正あり。

358 昭和6年1月(8)日 在中国重光臨時代理公使より幣原外務大臣宛(電報)

治外法權問題で關係國との密接なる連絡必要なるは貴見の通なる旨在北平矢野参事官宛電報

付記 一月在中國重光臨時代理公使より谷重細重

局長宛私信

年頭に際し対中国問題交渉上の態度について

上海 発

本省 1月8日後着

第一五號(極秘)

進むべきこと改めて御挨拶の要も無之候

悲觀無用な里 本年ハ更ニ打ちひらけたる將來を期すべく候。

一、南京事件等の額の問題ハ御不満ハあらんも 御許

し被下度 小生ハとれる丈ハ取つたと信じ居候

一、電話交渉ハ先ヅく作戦萬事都合に運んだ様ニ

相感じ候

一、債務整理案觀早計なるも自信あり 愆氣禁物なり

一、財政顧問至急願ふ好機逸すべからず 將來の要なり

一、法權問題何卒意見御採用を請ふ内々本省も御全意

見かとも想像し居れ里 租界ハ後廻ハし 但シ不

要ノ分ハかもわぬ

一、其他クダラヌ懸案ハさつきと片付けてやる態度が

よろしく、北京支那政府時代とハ相手の氣分が違

ひ申候

一、天津混乱桑島グズくすべき時にあらざ

(欄外記入)

(欄外記入)

守嶋其他局員諸兄にそれ／＼一ツよろしく  
諸兄の時々の御高説ハ此上なきエンカレッジメントなり

359 昭和6年1月8日 守島(伍郎) 亜細亜局第一課長より  
在上海重光葵宛(半公信)

对中国交渉に宋藹齡利用について

昭和六年一月八日

守島 伍郎

在上海

重光 葵殿

宋藹齡夫人ニ関スル件

拜啓時下嚴寒々候益々御清勝ノ段奉賀候陳者先般佛國大使  
「マルテル」氏幣原大臣來訪ノ節國民政府孔實業部長夫人  
宋藹齡女士ハ同政府ニ於テ内面的ニ非常ノ勢力ヲ有シ外國  
ニテ同夫人ニ運動ノ結果解決シタル問題尠ナカラス現ニ仏  
國ニテハ曩ニ印度支那問題ニ付難関ニ逢着シタル際全夫人  
側ニ運動ヲ試ミタル処翌日王正廷氏ノ態度一変セル事實ア  
リ誠ニ偉キ婦人ナリトテ大笑シ居リタル趣ニ候右ハ貴台ニ

361 昭和6年1月12日 在奉天林総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

中国人を被告とする民事事件は中国側の主張  
通りに裁判される状況につき吉林宛電報

奉天 1月12日後発

本省 1月12日後着

第一九號

本官發吉林宛電報

第二號

貴電第二號ニ關シ

華洋裁判取扱變更ニ對シ支那主要各地駐在領事ハ主權ニ拘  
ラス數年來條約上ノ根據ニ依リ嚴重ニ抗議ヲ繼續シ來リタ  
ルモ支那側ノ態度頗ル強硬ニシテ我方ニ於テ徒ラニ條約論  
ニ拘泥スルニ於テハ支那人ヲ被告トスル民事事件ノ解決全  
然不可能ニ陥リタル結果近來各地共抗議ヲ中止シ實際上支  
那側ノ主張通りニ取扱ハレツツアル状態ナルカ如ク御問合  
ノ諸點ニ對シ當館管轄内ニ關スル限り

一、法院ノ設ケナキ田舎地方ニ於テハ縣長之ヲ處理ス  
二、法院ノ設ケアル地方例ヘハ奉天ニ於テハ法院之ヲ處理

於テモ既ニ御承知ノコトト存スルモ何等御参考迄谷局長ノ  
御依頼ニ依リ貴聞ニ入レ置キ候 敬具

360 昭和6年1月10日 在漢口坂根総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

漢口特別市党部等の各委員が漢口日仏租界回収

案等を討議予定について

漢口 1月10日前発

本省 1月10日後着

第一八號

當館謀報者ノ謀知セル所ニ依レハ湖北省黨部、漢口特別市  
黨部、軍官分校特別黨部、平漢及武長兩鐵路特別黨部、武  
昌市黨部、漢陽縣黨部等ノ各委員ハ本月十一日午后三時ヨ  
リ湖北省黨部ニ於テ連席會議ヲ開催シ黨務整理案及民衆團  
体組織ノ回復案ノ外漢口日佛租界回收ヲ目的トスル民衆運  
動案並ニ國貨提唱案ヲ討議スル筈ナリト云フ右不取敢  
公使ヨリ上海ヘ轉電アリタシ  
公使、北平、南京、天津ニ轉電セリ

ス

三、當事者タル本人ノ自由意思ニ依リ若ハ場合ニ依リテハ  
領事ノ非公式指圖ニ依リ直接ニ訴ヘ出ツルモノトス  
尙當地外交部特派員ハ説諭等ニ依リ極メテ簡單ニ解決シ得  
ヘキ華洋民事事件ニ限り之ヲ處理スルモ裁判事件ニ關シテ  
ハ全部法院ニ一任シ直接關與スルコトナシ  
大臣、支ヘ轉電シ在滿洲各領事ヘ暗送セリ

362 昭和6年1月15日 在吉林石射総領事宛(電報)

中国人王義之關係土地差押問題は暫く懸案と  
なし置く様尽力方訓令

本省 1月15日後7時15分発

第二號(暗)

(欄外記入) 客年十二月二十日附貴信機密公第八七六號ニ関シ

本件至急解決方然ルヘキ旨係官ヨリ河合ノ注意ヲ喚起シタ  
ルニ對シ同人ヨリ目下病中ナルモ二月中旬トナラハ吉林ニ  
到リ自ラ本件ノ解決ヲ圖ルヘキ旨申出テタル趣ナリ  
就テハ右御含ミノ上今暫ク本件ヲ懸案トシ置く様御盡力相

成度シ若シ法院側ニ於テ飽迄本件土地取上ノ意嚮ナルニ於テハ夫以前當方ニ於テ河合ト打合ヲナシ得ル様前廣ニ法院側ノ取上期日、王義之婦宅ノ日取ト共ニ回電アリ度シ

(欄外記入)

本電ノ次第一月十六日午後林ヨリ直接河合博士ト面談ノ上話シタルニ同博士ハ満足ノ上必ス二月中旬自己又ハ相當代人ニ於テ吉林ニ赴クヘシト語レリ

363 昭和6年1月15日 谷亜細亞局長より 在中国重光臨時代理公使宛(書簡)

对中国政策に関する所懐の一斑記述につき送付

拜啓陳者客年小生就任ノ際對支政策ニ關スル所懐ノ一斑ヲ別紙ノ通記述シ有田前局長ノ批判ヲ求メタル次第有之前局長出發前ニ大體論トシテ其ノ贊同ヲ得タルノミニテ詳細ノ批判ヲ仰ク違ナカリシ次第ニ候處小生トシテハ日常ノ執務モ大體別紙ノ趣旨ニテ之ニ當リ局員ニモ同様ノ心得ニテ執務セシメ居ル事情ニテ右貴臺限リ御含迄ニ及送付候條御覽被下度

爲ノ發生ヲ見ルコト稀ナラサルヘキ處斯ル場合ニハ事情ノ許ス限リ先ツ交渉ノ手段ヲ盡シテ事態ノ解決ヲ計リ萬止ムヲ得サル場合適當ノ自衛措置ニ出ツルトスルモ右ハ嚴ニ必要ノ限度ニ止メ以テ支那側ヲシテ我措置ノ動機ニ付キ無用ノ誤解ヲ抱カシムルコトナキヲ期スルト共ニ我公正ノ立場ニ對シ列國輿論ノ支持ヲ期待シ得ルノ用意アルヲ要ス  
今右大體方針ニ則シ當面ノ具體的問題ヲ考慮スルニ左ノ如シ

一、支那ノ國權回復問題

大戰以後國際情勢ノ變化ト支那ニ於ケル國權回復運動ノ興起トハ支那ニ深甚ノ利害關係ヲ有スル諸強ヲシテ舊來ノ對支關係ヲ墨守スルノ却テ不得策ナルヲ感知セシムルニ至レリ殊ニ國民政府ノ登極以來所謂不對等條約ノ調整ハ現實ノ問題トナリ我國トシテモ此ノ大勢ニ善處スルノ必要ヲ認メサルヲ得サルニ至レリ只問題ノ重點ハ支那側ノ要望ト我國ノ存立及發展ノ要求トト如何ニシテ調和スヘキヤニ存スル處此ノ點ニ關シ旅大租借權滿鐵及鐵道附屬地駐兵權ノ如ク我國ノ大陸ニ於ケル地位ニ關スルモノハ到底應求ノ餘地ナシト雖通商條

尙後段ノ滿洲問題ニ關スル部分ハ大體曾テ貴臺トノ間ニ意見ヲ交換シタル趣旨ニ依リタルモノニ付左様御承知被下度此段併而申進候

昭和六年一月十五日

重光 葵殿

敬具

(別紙)

對支方針ニ關スル件

第一、一般方針

抑モ我對支外交ノ基調ハ同國ノ獨立ヲ尊重シ之ト和親提携シテ同國ニ對スル帝國ノ平和的發展ヲ計ルニ在ルヲ以テ支那ノ現狀ニ鑑ミ其ノ國權回復ニ對スル正當ナル要望又ハ國內建設ノ爲ニスル努力ニ對シテハ之ニ同情シ適宜列國ト協調シテ出來得ル限リ其ノ實現ニ協力シ以テ同國ニ於ケル穩健分子ヲシテ國家建設ノ前途ニ希望ヲ繫カシムルト同時ニ自然赤化過激ノ分子ヲシテ乘スルノ機會ヲ尠カラシムルコト肝要ナリ而シテ支那ニ於ケル政治ノ現狀ト日支兩國關係ノ複雜ナルニ顧ミ我在留民ノ保護問題其ノ他諸種ノ侵害行

約關係諸問題就中治外法權及内水航行權撤廢ノ問題ノ如キハ通商條約廢棄問題結末ノ經緯並關稅協定成立當時ノ諒解等ニ顧ミ支那内争ノ一段落ト共ニ早晚問題トスルノ止ムヲ得サルモノアルヘク又租界返還ノ問題モ大勢ノ變化ニ照シ相當ノ考慮ヲ加フヘキ時期ニ到達セルモノト思考セラルル而シテ之等問題ノ處理ニ當リテハ日支經濟關係ノ大勢ヲ保持シ我國民ノ經濟活動ヲシテ新ナル環境ニ適應セシムルニ十分ノ餘裕ヲ有セシムカ爲凡テ漸進的調整ノ方針ヲ以テ進ムヘキハ勿論ナリト雖大局上差迄重要ナラサル方面ハ支那側ノ要求ニ應シテ潔ヨク之ヲ拋棄シ以テ必要ノ方面ヲ維持シ若ハ開拓スルニ資スルコト肝要ナリトス此ノ點ヨリ考フルニ我租界八ヶ所(天津、漢口、蘇州、杭州、厦門、福州、沙市、重慶)中前二者ヲ除クノ外殆ント租界トシテノ價值ヲ有セス就中厦門ノ如キハ三十年來未タ租界地ノ實測ヲ行ハサル有名無實ノ狀態ニシテ今日之等價值ナク若クハ少キ租界ヨリ適當ノ條件ノ下ニ漸次拋棄シ行クモ何等我對支發展ノ大勢ヲ阻害スルコトナシト思考セラルルモノ一面之等ノ租界ハ我方ニ於テ今後他ノ問題

殊ニ法權及内水航行ノ如キ重要問題交渉ノ際我地歩ヲ有利ニ導クヘキ代償物トナリ得ヘキモノナルヲ以テ之カ拋棄ノ時機及方法ニ至リテハ種々考量ヲ要スヘク從テ差當リ支那側ヨリ返還ノ要求ニ接スルカ如キ場合ニハ他日適當ノ機會ニ協議ニ應スヘキ旨ヲ答ヘ以テ支那側ヲシテ將來ニ望ヲ繫カシメ置クコト可然

## 二、支那側ノ建設的努力ニ對スル協力ノ問題

上述ノ如ク支那ノ國權回復運動其ノモノニ應スルコトノ時宜ニ適スルハ勿論ナルカ他方支那官民ノ建設的努力ニ協力スルハ同國ニ於ケル穩健分子ノ鼓舞獎勵トナリ當ニ國權回復運動ノ急潮ヲ緩和スル所以ナルノミナラス同時ニ又同國ニ於ケル破壞分子ノ活動ヲ抵制シ惹テ同國ノ安定ニ貢獻スル所以ナリトス此ノ點ニ關シ我方ニ於テ既ニ承認ヲ與ヘタル國民政府ノ態度ヲ見ルニ百戰苦闘ノ結果漸次穩健トナリツツアルコト看取スルニ難カラサルヲ以テ今後再ヒ反對分子トノ間ニ内爭ヲ構フルカ如キ場合ニ於テモ其ノ地位明ニ維持ノ見込ナキニ至ラサル限り事情ノ許ス限り之ニ對シ好意の態度ヲ持スヘク（斯クスルカ爲メ世上或ハ反對分子ノ怨ヲ

支那ニ當ルヲ得サルニ至レリ即チ目下支那ニ有力ナル發言權ヲ有スルハ殆ソト日英米ノ三國ニ過キサル處由來米國ニ於テハ他國トノ協同動作ヲ好マス國民政府ノ樹立以來同政府ノ外交方針ニ鑑ミ尙更此ノ傾向ヲ濃厚ナラシメタルノ感アリ而シテ英國ニ至リテハ結局米國ノ態度ニ逆行スルヲ得サルモノアルノミナラス一九二六年末所謂對支新政策ナルモノヲ發表シタル以來着々トシテ豫定ノ筋書ヲ實行シツツアリ故ニ坊間説ヲ爲ス者ノ云フカ如ク從前ノ對支列國協調殊ニ日英協調ノ回復ハ云フヘクシテ行ハレサル所ナルカ一方今日ノ狀況ニ於テモ關係國間或程度ノ協調ハ之ヲ必要トシ又之ヲ實現スルコト必スシモ不可能ニ非サルヲ以テ主トシテ日英米ノ間問題起ル毎ニ果シテ同一態度ニ出テ得ヘキヤ否ヤヲ検討シ出來得ヘキ場合ハ之ヲ行ヒ出來得サル場合ニモ其ノ出來得サル所以ヲ互ニ知り合ヒ置クノ方法ニ依リ關係國間無益ノ猜疑ヲ防クコト肝要ナリト思考セラルル處實ハ目下ノ狀態ニ徴スルニ此ノ以外ニ協調ノ方法ナシト云フモ不可ナカルヘシ前記國權回復ノ諸問題及建設關係ノ諸問題ニ照合スルニ於テ這般ノ關

買フ結果反對分子成功ノ場合之カ報復ヲ受クヘキヲ恐ルルモノアリト雖右ハ日本ノ支那ニ對スル威力ヲ知ラサルモノニシテ如何ナル黨派モ一度權力ヲ得レハ日本トノ國交ヲ疎外シ得サルコト從來ノ經驗ノ教ユル所ナリ）此ノ見地ヨリスルニ今次國民政府ト協調シテ立チタル東三省當局ノ態度ハ右我方針ト一致スルモノアルト同時ニ同當局今後ノ態度ハ東三省ノ治亂ニモ顧ミ特ニ深甚ノ注意ヲ以テ監視スルノ要アリトス尙支那ノ建設事業中焦眉ノ急ハ財政ノ整理（債務整理ヲ伴フ）法權撤廢ノ準備、鐵道ノ復舊、自治制度ノ實行等ナルカ之等ノ問題其ノ他行政各部ニ亘ル諸問題ニ付テモ支那當局ニ於テ最近漸ク範ヲ我方ニ取ラムトスルノ傾向アルヲ善導シ財政顧問ノ派遣、警官、法官ノ養成、法典編纂ノ援助其ノ他技師ノ派遣又ハ技術官ノ養成等技術的援助ノ方面ニ於テ出來得ル限り我誠意ヲ披瀝スルハ極メテ有意義ナリト云フヘシ

## 三、對支列國協調ノ問題

大戰以後列國ノ国内の事情ノ變化從テ國際關係ノ變動ハ從前ノ如ク同盟又ハ協商乃至外交團等ノ形ニ依リテ

## 四、各種事件ノ處理ニ關スル考慮

係愈々明瞭ナルモノアルヘシ  
支那政情ノ現況ニ顧ミルニ戰亂ノ勃發ノ爲我居留民ノ生命財產ニ危害ノ及フ虞アル場合若クハ諸種ノ約定ノ侵犯行爲又ハ突發の被害事件ヲ生スル場合アルヘキコト想像ニ難カラサル處斯ル場合我方ニ於テ一般の二留意スヘキ點ハ當該事態若ハ事件ヲ不必要ニ擴大セサル様努ムルト同時ニ之ヲ解決ニ當リテハ迅速且ツ公正ノ態度ヲ以テ臨ムコト之ナリ例ヘハ（イ）居留民保護ノ必要ヲ生スル場合ノ如キ先ツ嚴重支那側ノ責任感ニ訴ヘテ保護ノ手段ヲ盡サシムヘク而シテ支那側ノ力及ハサル場合ハ地方ノ狀態ニ應シ移動性ニ富ム海軍又ハ警察力ヲ以テ現地保護ノ方法ニ出ツルカ又ハ適當ノ安全地帯ニ避難セシムルコトトスヘク而シテ

（ロ）諸種ノ約定ノ侵犯行爲アリタル場合ニハ原則トシテ之ニ抗議シ支那側ノ反省ヲ促シ時宜ニ依リテハ相當ノ自衛手段ニ出ツルノ要アルモ事ノ極メテ輕微ナル場合ニモ一々之ニ抗議若ハ對抗スルハ當ニ實益ナキノミナラス或ハ徒ラニ事態ヲ紛糾セシムルノ虞アルカ故ニ狀

情懇スヘキ場合ニハ抗議ヲ提出スルコトナク當該約定ノ擴張解釋又ハ單ニ支那側ノ注意ヲ喚起スルノ方法ニ依リ其ノ他我國家トシテノ立場ヲ拘束セサル關係私人（會社）ノ自發的行爲トシテ右侵犯行爲ト適當ノ調和ヲ計ラシメ置キ以テ右不自然ノ事態ヲ調整シ得ヘキ時期ノ到來ヲ待ツコト可然尙

(イ)人命財産上ノ侵害アリタル場合ニハ機ヲ逸セス支那側ノ責任ヲ問フヘキモノニ關スル要求條件ハ飽迄公正寛容ナルヲ要シ殊ニ財産上ノ損害賠償ニ付テハ極メテ合理的ノ額ニ之ヲ止メ事件ノ迅速解決ヲ期スルコト肝要ナリトス從テ此ノ邊ノ事情ニ關シテハ豫メ領事ヨリ居留民ニ説示シ置クコト可然又適當ノ財源アラハ（例ハ西原借款ノ整理成功セシ場合ノ如キ）動亂保險制度ノ如キモノヲ設ケ豫メ居留民被害ノ場合ノ救済措置ヲ講シ置クコト可然

以上我方ノ公正寛容ナル態度ニ拘ラス萬一支那側ニ於テ我居留民ノ生命財産若クハ我方トノ約定ニ對シ組織的ノ侵害ヲ敢テスルカ又ハ之ヲ取締リ得サルカ如キ場合ニハ事ノ真相ヲ中外ニ明ニシ相當ノ報復若クハ自衛

ノ巢窟トナラサルコト(ハ)鮮人及邦人ニ於テ安全ニ諸般ノ經濟活動ニ從事シ得ヘキコトノ三者ヲ擧ケ得ヘシ)

ニ在リト思考セラルルカ故ニ支那政情急激ニ革ラサル限り右國民的要求達成ノ根據トナルヘキ租借地、滿鐵、同守備兵等ノ根本的問題ニ付テハ到底支那側ノ希望ニ應ジ得ヘキ限りニ非サル處支那側トシテモ正面ヨリ之等根本的權利ノ撤退ヲ希望スルモ我方ノ應ジ得サル所ナルヲ知ルカ故ニ所有間接ノ方法ヲ以テ結局其ノ目的ヲ達セント試ミ居ルコト看取スルニ難カラス滿鐵ヲ包圍スル競争線ノ建設ノ如キハ其著例ナリトス故ニ我方トシテモ支那側ノ此ノ態度ニ對シテハ相當ノ決心ヲ以テ臨ミ我方ノ容諾シ得サル諸點ハ豫メ素直ニ支那側（東三省當局ノ國民政府ニ對スル機微ナル關係ヲモ利用シ）ニ披瀝シ置キ仍テ之ニ對抗セムカ爲ニハ支那側ニ於テモ相當ノ結果ヲ豫期セサルヘカラサル所以ヲ覺ラシメ以テ彼レ是レ蠢動ノ餘地ヲ抵制スルト同時ニ右根本ニ觸レサル枝葉ノ問題ハ地方的實際問題トシテ努メテ支那側ト妥協調和シ旁々新ナル經濟的進出ノ關繫ヲラシムルコト肝要ナリ

然レトモ右方針ノ遂行ハ極メテ困難且機微ノ問題ニシテ先

手段ニ出ツヘキコト勿論ニシテ斯ル場合ニハ列國ノ輿論モ亦自ラ我方ト共ニ在ルヘキハ豫期スルニ難カラス  
第二、滿洲ニ對スル方針

滿洲モ亦支那ノ領土タルコトニ於テ支那本部ト何等異ル所ナク從テ支那ニ對スル一般方針ハ同時ニ滿洲地方ニモ之ヲ適用スヘキモノナリト雖同地方ニ於テハ我權益特ニ重要ナルモノアルノミナラス歴史的二國民的感情ノ極メテ敏銳ナルモノアリ且露國及朝鮮ト接壤シテ政治上經濟上我國ニ取り重大ナル利害關係ヲ有シ謂ハハ我國ノ大陸ニ於ケル地位ノ浮沈ノ係ル地方ナルヲ以テ同地方ニ對スル政策ニ就テハ更ニ一段ノ考慮ヲ要スルモノアリ而シテ同地方ニ對スル我國民的要求ト認ムヘキモノニハ少クトモ左ノ三者即チ  
一、滿洲カ赤化其ノ他如何ナル形ニ於テモ往年ノ如ク我國ニ對スル北方ヨリノ脅威トナラサルコト  
二、同地方ヨリノ物資ノ輸出並同地方ニ對スル製品ノ輸入カ我國トノ間ニ圓滑ニ行ハルルコト

三、日本國民（鮮人ヲ含ム）カ安全ニ居住營業シ出來得ヘクンハ土地ノ利用權ヲモ享有シ得ルコト（問島ニ關シテ右ニ準シイ）同地方カ赤化ノ根據地トナラサルコト(ロ)不逞鮮人

ツ内ニ於テハ滿洲關係我諸機關以下居留民ノ覺醒並一致團結ヲ要シ外ニ在リテハ國際輿論ノ支持ヲ得サル迄モ反對ナキヲ必要トスルカ故ニ此ノ際出先領事關東廳朝鮮總督府及新聞等ヲシテ政府ノ對滿方針ニ一致セシムルコト焦眉ノ急務ナルト同時ニ列國ニ對シテハ機會アル毎ニ一般的ニ滿洲ニ對スル我關係ノ特殊緊密ナルコトヲ理解セシムル一方特殊問題（例ハ鐵道問題）ニ就テモ必要ニ應ジ列國ノ輿論ヲ啓發シ置キ事態紛糾ノ場合支那側ヲシテ無稽ノ宣傳ヲ施スノ餘地ナカラシムルコト切要ナリ

（欄外記入）

昭和六年一月二十日香港ニ赴任ノ途次上海ニ立寄ルヘキ乘折副領事ニ托送済  
編注 本行下に「（谷正之自署）」との書き込みあり。

364

昭和6年1月21日

在吉林石射總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

奉天、問島、長春等各館においては既に滿州銀行類似の事件につき便宜上法院の取扱いに

委せている状況について

吉林 1月21日後発  
本省 1月22日前着

第六號

客年十二月十六日附機密公第八五六號拙信華洋裁判取扱變  
更ノ件ニ關シテハ未タ御回訓ニ接シ居ラサル處其ノ後施主  
任ヨリ滿洲銀行ノ件ハ直接法院ニ訴出テシメラレ度キ旨書  
面ヲ以テ正式ニ申越シタルカ(照會文寫十七日發送濟)一  
方當方面各公館ノ取扱振ニ付問合セタルニ奉天、間島、長  
春等ノ各館ハ大体ニ於テ便宜上現ニ既ニ法院ノ取扱ニ委セ  
居ル様子ナリ

當地ノ現況ハ引續キ當方從來ノ主張ヲ固持スルトモ實益ナ  
キコト既ニ御諒察ノ通ニテ此ノ上ノ問題ハ結局支那法院ニ  
委セテハ不安心ナラスヤトノ點ニ存スヘキモ此ノ點ニ付テ  
ハ出來得ル限リ「コントロウル」ノ方法ヲ講スルコトトシ  
不取敢法院ノ處理ヲ事實上認ムル方針ニテ折衝致シタシ何  
分ノ御回示ヲ仰ク

支、南京、北平ニ轉電シ奉天、天津、赤峰、長春、間島、  
齊々哈爾、哈爾賓、琿春、局子街、頭道溝、百草溝へ暗送

今年中に法権問題解決の決心との中央党部紀  
念週における王外長演説について

南京 2月10日後発  
本省 2月11日前着

第七五號

九日中央黨部紀念週ニ於ケル王正廷ノ演説要旨左ノ通  
領事裁判權ノ存在ニ依リ外國人ハ吾人ノ納付スヘキ税金ヲ  
モ納付セサル處在留外人ハ中國ノ爲ニ果シテ如何ナル義務  
ヲ盡セルヤ外人ノ經營スル銀行鑛山等ハ何レモ納稅セス此  
ノ種經濟上ノ壓迫ハ尙一部存在シ居レリ依テ國民政府ハ今  
年内ニ必ス法権問題ヲ解決スヘク非常ナル決心ヲナセル次  
第ナリ云々委細公信  
代理公使、北平、奉天へ轉電セリ

367 昭和6年2月13日

菅原(通敬) 東洋拓殖總裁より  
谷亜細亞局長宛

東拓対濟南電話公司貸付金請求訴訟に關し中  
國法院において内外人の別なく公正な取扱  
をなす様中央政府に嚴重交渉方依頼願

セリ

365 昭和6年1月24日 幣原外務大臣より  
在吉林石射總領事宛(電報)

滿洲銀行より自発的に法院へ訴訟提起方差し  
支えなき旨訓令

本省 1月24日後3時7分発

第三號(暗)

貴電第六号ニ関シ

我方ニ於テハ中國法院ニ於テ華洋訴訟事件ヲ管轄スルコト  
ニ付正式ノ承認ヲ與ヘ居ラス一方事實上會審權ヲ要求セサ  
ル現狀ニ顧ミ帝國臣民力任意ニ中國人ヲ被告トシテ中國法  
院ニ訴フル場合ハ強ヒテ之ヲ阻止セサルコト、為シ居ルニ  
付滿洲銀行ヨリ自発的に法院ニ訴訟ヲ提起セシメラレ差支  
無シ

本電貴電同様轉電アリ度シ

366 昭和6年2月10日 在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

付記 三月二日付堀切拓務次官より永井外務次官

宛殖一第一九七号

「東拓会社対中華民國濟南電話公司訴訟問  
題ニ関スル件」

調第六〇號 (2月25日接受)

昭和六年二月十三日

東洋拓殖株式會社

總裁 菅原 通敬(印)

外務省

亞細亞局長 谷 正之殿

謹啓時下益御多祥奉慶賀候陳者支那濟南電話公司ニ對スル  
弊社ノ貸付金四拾貳萬圓也ノ整理ニ付テハ大正十五年以  
來天津總領事館並濟南總領事館ヨリ多大ノ御配慮相煩居候  
處目下本件ニ關スル貸付金請求訴訟ハ濟南高等法院控訴審  
繫屬中ニ有之右ニ付テハ濟南總領事館ヨリ御報告アリタル  
趣ナレハ經過並事情等既ニ御承知ノコトト存上候得共弊社  
出張所ヨリノ報告ニ依レハ支那法院カ行政廳ノ壓迫ニ依リ  
不公平ナル審判方法ヲ採リツツアリ、第一審ニ於テ弊社勝  
訴シタルモ上訴審一部判決ニ於テ假執行ノ宣言ヲ取消サレ

タル有様ニテ電話公司ノ主張カ全然理由ナク且不正當ノモノナルニ拘ラス之ヲ庇護シツツアルコトハ甚タ心外ノ至リニ有之而モ今後ノ成行ニ不勘不安ヲ感セララルル次第ニ有之支那司法官ニ對スル信頼ノ程度ハ目下懸案トナリ居ル領事裁判權ノ撤廢問題ニモ重大ノ關係有之モノト存候ニ付何卒貴官ノ御盡力ニ依リ支那裁判所ニ於テ内外人ノ別ナク公正ナル取扱ヲ爲ス様中央政府ニ對シ嚴重御交渉相煩度茲許別紙願末書其他關係書類同封御懇請申上候 敬 具

(付記)

殖一第一九七號

(3月3日接受)

昭和六年三月二日

拓務次官 堀切 善次郎〔印〕

外務次官 永井 松三殿

東拓會社對中華民國濟南電話公司訴訟問題ニ關スル件首題ノ件ニ關シ本月十三日附調第六〇號ヲ以テ東洋拓殖株式會社ヨリ貴省亞細亞局長宛中國中央政府ニ對シ御交渉方依頼置候趣ノ處本件ノ推移如何ハ同社ノ此ノ種係爭事件ニ及ボス影響等モ尠カラズ延テハ中國ニ於ケル邦人權益ノ確

保ニ一大暗影ヲ投ズルノ虞有之ヤニモ被思料候條特ニ可然御高配相煩度此段及御依頼候也  
追而本件ノ詳細ニ付テハ前記亞細亞局長宛書信ニテ御了知相成度右爲念申添候

368 昭和6年2月15日

在中國重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

对中国法權交渉の開始時期に關する觀察について

上海 発

本省 2月15日前着

第一四四號(極秘)

法權問題ニ關スル形勢ハ果次電報ノ通ニシテ當方ノ意見(客年往電公第四一三號及公第一二八二號並ニ本年往電第四八號)ハ要スルニ政治的條約ニ依リ規定セラレ居ル特別ノ地域ノ法權撤廢ハ之ヲ別途ニ攻究シ(名義丈ノ租界ノ返還ハ速ニ着手スルモ不可ナシ)事態ノ緩和ヲ計ラントスル趣旨ニシテ先ツ内地ニ於テ法權ヲ撤廢セントスルモノナリ熟々本件現在ノ情勢ヲ按スルニ中國政府ハ其ノ權力ノ及フ範圍ニ於テ内外人ノ區別ナク各種法規ヲ強制適用セントシ

ツツアリ工場法及航海法<sup>海運</sup>ノ如キ營業稅法及特別消費稅法ノ如キ其ノ最近ノ事例ニシテ之ニ關聯シ各種ノ問題カ紛糾シ居ル次第ナルカ之等ノ事件ニ付一々條約ヲ楯ニ中國側ト抗爭スルコトハ

(2)一應之ヲ必要又ハ可トスヘキモ日本人及日本資本ノ中國ニ於ケル活動ヲ可能ナラシメ且之ヲ伸張セシメンカ爲ニハ飽迄條約ヲ楯ニ抗爭ヲ爲スコトハ事實上不利ナル場合鮮カラズ從テ右ハ寧ロ有利ナル妥協點ヲ見出ス爲ノ準備手段ニ過キサル實情トナリツツアリ中國側ハ今後モ引續キ前記方針ニテ列國ニ臨ムヘキコト明カナル一方之ニ對スル列國側ノ

意見ハ強軟區々ノ論ハアルモ大体已ムヲ得ストシテ中國側ニ引摺ラレ行キ唯差別待遇ヲ受ケサルコトニ腐心シ居ルニ過キサルヤニ觀取セラル而シテ我方ノ有スル莫大ナル利害關係ヨリ考フルモ差別待遇ヲ有效ニ阻止スルノ方法(事項ニ依リ或ハ内國民待遇又ハ最惠國待遇)サヘ講スルニ於テハ從來ノ如ク條約ヲ楯ニ

(3)一切ノ中國ノ權力ノ行使ヲ否認スル法權維持ノ建前ヲ捨ツルモ亦已ムヲ得サルヘキヤニ思料セララルル次第ナリ加之以上ノ形勢ヨリ推シテ考フルニ治外法權交渉ニ付時機ヲ失セ

サル様留意スルニアラサレハ撤廢ニ對シ我方ニ於テ最必要トスル條件ニ付中國側ノ承諾ヲ取付クルコト困難トナルヘク又法權撤廢ヲ機トシテ兩國ノ關係ヲ好轉スル利目モ少ナクナルニ至ルヘシ又或ハ法權撤廢ニ關シ英米等ニ依リテ造ラレタル既成事實ヲ押付ケラルル事態トナルヲ保シ難シ兎ニ角英米側等ニ於テ宣言モナク再ヒ第二段ノ交渉ヲ開始スヘキ此ノ際日本トシテモ本件交渉開始ヲ此ノ上遷延セシメサルコト宜シカルヘシ當方面ヨリ觀察セル最近ノ情勢報告旁右申進ス

編注 「航海」の箇所「工会」との書き込み訂正あり。

369 昭和6年2月20日

在中國重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

日本の対中交渉態度に關して好意的表示切望する旨の王外交部長談話について

南京 発

本省 2月20日前着

第一七〇號

往電第一六九號會談ノ際王部長ハ引續キ本官ニ對シ豫テ自  
分ヨリ申出居ル種々ノ問題ニ付幣原男ヨリ何等回訓ニ接セ  
ラレタルヤ我々ハ衷心ヨリ中日國交ノ改善ヲ希望シ且之ニ  
努力シ居ル積リナリ南京、漢口事件ノ如キ其ノ賠償額ニ付  
テハ雙方共ニ不満足ナルヤモ知レサルカ濟南事件ニ關スル  
主張ヲ曲ケテモ之カ解決ヲ計ラントスルハ支那側誠意ノ然  
ラシムル處ナレハ此ノ點充分御諒解ヲ願ヒ度ク今後法權問  
題租界問題等ニ付何トカシテ日本側ヨリ遲滞ナク意思ノ表  
示ヲシテ戴ケハ折角好轉シツアル此ノ機會ヲ惡化セシム  
ルコトナクシテ進ミ得ル次第ニテ右ハ兩國々交ノ爲衷心ヨ  
リ希望スル所ナリ中國側トシテハ濟南事件ヲ南京事件ト同  
時ニ解決セサリシトノ不平アリ之ヲ處理スルニ餘程困難ヲ  
感スル處今後日本カ永ク他ノ問題ヲ放任セラルルニ於テハ  
一層其ノ處理ニ窮スル理ニテ幣原男ノ中國ニ對スル態度ハ  
我々ノ充分諒解スル所ナルモ同時ニ中國ニ對スル好意ノ具  
體的表示ヲ切望スル次第ナリト述ヘタルニ付  
本官ハ日本政府ノ態度ハ幣原男ノ議會演說ニテモ承知セラ  
ルル通りニテ自分モ兩國ノ友好關係増進ノ爲努力シ居ル積  
リナルカ具體的問題ニ付テハ未タ政府ノ訓令ニ接セス濱口

長ノ決裁ヲ求メ直ニ發送スル様胡ヲ督促シ居ル次第ナルハ  
御承知ノ通ナル處廿七日日本官胡ヲ往訪シタルニ胡ハ王部長  
ハ最近頗ル多忙ナリシ爲昨日漸ク詳細ノ話ヲ爲シ得タル次  
第ナル處部長ハ案ニ付テハ大体異存ナキモ國內手續上支拂  
方法ノ點ニ付テハ財政部ノ諒解ヲ求ムルヲ要シ又金額ノ點  
ニ付テハ審計院ノ同意ヲ得サルヘカラス而シテ審計院ノ手  
續ハ少クトモ一週間ヲ要スヘキニ付旁部長ハ來週重光代理  
公使來京ノ際一應直接御話シタル上ニテ發送スヘシト申シ  
居レリト釋明セルニ付本官ハ王部長ハ曩ニ重光代理公使ニ  
對シ本件ニ付テハ案文ノ決定ヲ待チ居ルノミナリトノ趣旨  
ヲ述ヘ居ルニ今ニ及ンテ審計院ノ同意ヲ必要トスト言ハル  
ルカ如キハ其ノ意ヲ解スルニ苦シム次第ナリ尙又本件ニ付  
テハ既ニ話盡サレ此ノ上重光代理公使ト直接話ヲ爲ス必要  
アリトハ考ヘラレスト述ヘタルニ胡ハ審計院ノ方ハ單ナル  
手續ナルヲ以テ問題ナカルヘク其ノ方ハ安心シテ可ナリ唯  
部長ニ於テ代理(公使)ト御話シタキ點ハ實ハ度々部長ヨ  
リモ公使ニ御話シタル通日本ハ自分ニ利益ナル問題ノミノ  
解決ヲ計リ自分ニ都合惡シキ問題ハ遷延スルノミニテ  
本官發在支公使宛電報

首相遭難以來幣原男ハ國務ノ全般ヲ引受ケ議會ニ臨ミ居ラ  
ルル次第ニテ目下極メテ多忙ノ事ト存スルモ何レ政府ノ意  
嚮判明ノ上ハ早速貴方ニ申入ルコトスヘシト述ヘ置ケ  
リ  
王部長ハ尙モ南京事件等ノ解決ヨリ杜切レス次ノ重要問題  
ニ移ル必要アル所以ヲ力説シ居タリ  
奉天、北平ニ轉電シ、南京、上海ニ轉電セリ

370 昭和6年2月28日 在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

南京・漢口事件の賠償額に関する交換公文案が王  
外交部長の決裁未了のため遅延の事情について

南京 本省 2月28日前着

第一〇五號  
本官發在支公使宛電報第一〇四號ノ一(極秘扱)

(欄外記入)  
大臣宛電第一六九號及第一七〇號ニ關シ  
南京、漢口事件ノ賠償額ニ關スル交換公文ノ案文ハ胡世澤  
トノ間ニ於テハ既ニ一應決定シタルニ付胡ニ於テ速ニ王部

第一〇四號ノ二

少シモ誠意ヲ示サストノ議論相當盛ナリ(トテ青島測候所  
ノ問題ニセヨ厚田丸ノ問題ニセヨ日本ニ執リテハ甚々小問  
題ナルニ拘ラス年餘ニ亘リテ解決著カス測候所ノ問題ニ付  
テハ山東方面ヨリ頻々陳情シ來リ外交部モ頗ル困難シ居レ  
リ又厚田丸ニ付テハ部長等上海ニ赴ク毎ニ責メラレ困リ居  
ル事情ヲ縷々述ヘ)既ニ南京、漢口事件近々解決スヘシト  
ノ記事新聞ニ現ハルルヤ日本ハ何等中國ニ對シ事實上ノ好  
意ヲ示ササルニ中國側ノ賠償問題ノミヲ解決スルハ日本ニ  
屈スルモノナリトテ王部長ヲ攻撃スル聲各方面ニ揚リ來リ  
此ノ儘ニテ南京、漢口事件ヲ解決センカ王部長ノ地位サヘ  
危険トナル虞アリ就テハ部長ニ於テ重光代理公使ト懇談シ  
南京事件解決ト同時ニ日本側ニ於テハ爾餘ノ懸案解決ノ誠  
意アル次第ヲ明瞭ニ一般ニ知ラシムル様シタシト考ヘ居ル  
次第ナリト說明セリ依テ本官ハ斯カル交換條件ヲ出スモ重  
光代理公使ニ於テ到底承知セサル次第ヲ從來ノ實例等ヲモ  
擧ケ篤ト說明シ尙測候所問題及厚田丸問題ニ付テノ當方努  
力ノ事情ヲ懇々説明シタル上試ミニ王部長ハ南京事件ト交  
換のニ厚田丸問題ヲ解決セントシ居ル次第ナリヤト尋ネタ

ルニ胡ハ斯カル小問題ナラス條約問題ニ付何等カノ言明ヲ得之ニ依リ一般ノ不滿ヲ抑ヘント考ヘ居ル次第ナリト答ヘタリ

依テ本官ハ法権問題等ニ對スル態度ニ付テモ我方ノ誠意ニ付可然説明シ之等ノ問題ニ付テモ日本カ誠意ヲ示シ圓滿ナル交渉ニ依リ解決ヲ期セントシ居ル次第ハ何時ニテモ言明シ得ルモ南京、漢口兩事件ノ解決ト交換的ニ何等具体的ノ言質ヲ取付ケントスルカ如キハ主義トシテ我方ノ到底容認シ得サル處ナルニ付此ノ點篤ト王部長ニ説明セラレ斯カル小策ヲ弄スルコトナク南京、漢口兩事件ニ付テハ速ニ此ノ儘文書ノ交換ヲ了シ日本側ノ感情ヲ良好ナラシメ其ノ氣運ニ乗シ堂々他ノ問題ノ交渉ニ進マルル様説得アリタキ旨述ヘ置キタルカ結局王部長ハ貴代理公使ノ來京迄ハ本件ノ解決ヲ遷延スヘシト存セラレ

外務大臣、北平へ轉電セリ

(欄外記入)

厚田丸事件ハ何トカ至急解決ノ要アリ

ケルコトハ度々御説明セル通ナリト答ヘタリ

(二)滿洲ニ於ケル電信問題ニ關シ王部長ハ交通部ノ要求ニ基キ交渉事項トシテ大體曩ニ莊智煥カ吉野ニ提出セルト同様ノ七ヶ條ヲ提出シ日本政府ヨリ電信會議日本委員ニ對シ右問題ニ關シテモ中國委員ト交渉セシムル様訓令アリタキ旨ノ覺書ヲ手交セルヲ以テ本官ハ右御希望ハ之ヲ了承シ置クヘシト輕クアシラヒ置ケリ

(三)條約改訂(法權)問題ニ付テモ大體(一)ト同様ニ應答シ置ケリ

(四)<sup>2)</sup>青島測候所問題ニ關シ王ハ上村胡世澤間ノ話合ヲ繰返シ未タ何等結末ノ付カサルコトヲ「コンプレッ」セルニ付本官ハ右ハ折角上村胡世澤間ニ話合ヲ進メ居リ本問題ノ速ナル解決ハ素ヨリ自分ノ希望スル所ナルカ右ハ兩人ノ話合ニ讓ルコトトシタシト答ヘ置ケリ

(五)厚田丸事件ニ付王部長ハ日本側ノ不誠意ヲ詰リタルニ付本官ハ本問題ハ極メテ簡單ニテ本件ニ付話合ヲ付ケタル佐藤商會カ財政逼迫ノ爲支拂困難トナレル迄ニテ言ハハ一會社ノ取引ニ過キス本官トシテハ大局ニ顧ミ出來得ル丈本問題ノ解決斡旋ニ從事シ居ルニ過キサル旨説明シ置

371

昭和6年3月5日

在中国重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

王外交部長が日中間で懸案未解決のものが多  
いと一覽表を読み上げ説明について

南京 3月5日後発  
本省 3月5日後着

第二二七號

(四)日王外交部長ニ面會シタル際王部長ヨリ先ツ中日間各種重要問題ニ付日本政府ヨリ回訓ニ接セラレタリヤト尋ネタルニ付本官ハ日本政府ニ於テ法権問題其ノ他ニ付目下慎重考慮シ居ルハ自分モ承知シ居ルカ未タ具體的訓令ニハ接シ居ラス近々濱口總理モ健康回復ノ上議會ニ出席セラレ幣原外相モ首相代理ノ職ヲ解カルルニ至ル模様ナルモ目下ハ尙非常ニ多忙ナルト思ハルル旨述ヘタルニ王部長ハ最近中日間ニハ幾多ノ懸案アル處日本側ヨリ中國側公文ニ對シ未タ回答ニ接セサルモノ多シトテ右ニ關スル一覽表ヲ讀上ケ之ニ説明ヲ加ヘタルカ右ニ關スル説明及應答ノ要領左ノ通りヤトノ質問アリ本官ハ右中國側要求ヲ政府ニ取次キ置

ケリ

(六)龍野丸事件ニ關シ王部長ハ招商局カ上海法院ニ出訴シタル處日本側ハ之ニ應セスト詰リタルニ付本官ハ右ハ當然ノコトニテ招商局カ被告タル日本會社ヲ日本ノ裁判所ニ訴フルナラハ日本裁判所ハ正當ノ判決ヲ下スヘク右ノ措置ヲ執ルコト不可能ナルニ於テハ直接招商局ト郵船會社トノ間ニ話ヲ進ムルコト適當ナルヘシト應酬シ置ケリ

(七)北平日本公使館員ノ羊尾巴胡同住宅明渡シノ件ニ付王部長ハ右ハ家屋ノ新所有者ヨリノ請求ニ基クモノナルカ速ニ明渡サレタシト述ヘタルニ付本官ハ自分ノ部下タル公使館員カ中國人ノ家屋ヲ不當ニ占有シ居ラサルハ自分ノ確信スル所ナリ自分ノ館員ノ家屋明渡シニ付外交部長ヨリ請求ヲ受ケルハ相當非友誼的ノコトト感セラルル處斯カル問題ハ東京其ノ他ノ都會ニハ起ラサル問題ナリ何レニスルモ貴方ノ公文ニ付調査スルコトトスヘシト應酬シ置ケリ

(八)<sup>3)</sup>南滿洲日本郵便局撤退問題ニ付王部長ハ總テ支那ニ於ケル日本郵便局ハ撤廢セラレタルニ付滿洲鐵道附屬地ノ郵便局モ速ニ撤退セラレタシトノ外交部公文ニ對スル日本

373

昭和6年3月(6)日

在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

間島在住朝鮮人で中国への帰化を希望する者  
に対し詮衡の上承認方意見具申

一覽表ノ中ニハ安東營口奉天等ノ日本附屬地ヲモ記入シア  
リ王部長ハ之等ノ土地ハ滿洲ニ於ケル警察問題トモ類似シ  
條約上ノ根據ニ疑問ノ點モアル模様ナリ之等ハ中國側トシ  
テハ大体租界ト同様取扱フヘキモノト考フル旨説明セリ依  
ツテ本官ハ荒廢ニ歸シタル租界ノ問題ハ暫ク別トシ租界ノ  
問題ニ關聯シ滿洲ニ於ケル重要ナル日本ノ利權ニ手ヲ觸ル  
ルカ如キコトハ非常ナル危険ニシテ一時ニ「タンク」ニ火  
ヲ附クルカ如キモノナリ滿洲ノ問題ニ對スル日本國民ノ感  
情ノ特異ナルコトハ豫テヨリ説明セル通ナリ此ノ點ハ兩國  
ノ關係ノ改善ヲ計ラントスル貴部長ニ於テハ充分諒解シ置  
カルコト必要ナリト述ヘ置キタルカ此ノ問題ニ付テハ先方  
ニ於テモ深く論セス他ノ問題ニ移リタル次第ナリ  
北平、奉天ニ轉電シ上海、南京ニ轉報セリ

テ懸案ヲ漸次解決スルコトハ當方ノ最希望スル所ナルカ右  
ハ貴方ノ希望スル懸案ヲ掲ケラレタルモノニテ當方ノ希望  
スル懸案ニ付テハ追テ一覽表ヲ作り貴方ニ督促スルコトト  
致スヘシト述ヘタル後別ニ電報スルカ如ク南京漢口事件ニ  
移レリ  
北平、奉天ニ轉電シ南京、上海へ轉報セリ

372

昭和6年3月(6)日

在中国重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

王外交部長よりの租界回収の話に対し東北におけ  
る日本權益に手を触れぬ様申し入れについて

上海

発

本省 3月6日後着

第二三四號

往電第二二七號王ヨリ租界問題ヲ持ち出シタル際王部長ハ  
説明ヲ附シタル日本租界ノ一覽表ヲ有シ日本人ノ多數居ル  
租界ハ兎モ角全然荒廢ニ歸シ居ル租界可ナリ多シ夫レ等ヨ  
リ先ツ處置センコトヲ希望スルハ英國ノ例ニモ鑑ミ無理ナ  
ル注文トハ考ヘラレストテ豫テノ論旨ヲ繰リ返シタリ尙右

奉天  
本省 3月6日後着  
発

第一六〇號

<sup>(1)</sup>在滿鮮人ノ取締ニ關聯シ支那官憲カ我政府ノ鮮人歸化ヲ許  
可セサルニ對シ鮮カラサル誤解ヲ有スル次第ハ往電第六六  
號及第七五號王家楨及張學良等ノ談ニ依リ明白ナル處其ノ  
後奉吉兩省特ニ吉林省各地ヨリノ情報ニ依レハ昨春秋以來  
奧地在留鮮人ニ對スル支那側ノ態度頓ニ嚴重トナリ共匪討  
伐ノ下ニ愈壓迫的トナリツツアルヤニ觀察セラレ其ノ窮極  
ノ目的ハ鮮人ノ奧地發展カ我經濟侵略ノ先驅トナルヲ懼レ  
之ヲ妨ケントスルニ在ルモノノ如シ之等支那側ノ壓迫的態  
度ニ對シテハ在滿各領事ハ常ニ機宜ニ應シテ支那官憲ヲ勸  
説シ緩和ヲ計ルニ努力シツツアリト雖對外硬ヲ競フ現在支  
那ニ於テハ我方ニ些カナリトモ無理ヲ存スル場合ニハ彼等  
ヲ納得セシムルコト容易ニ非ス在滿朝鮮人取締ノ場合ニ於  
テ日支兩國官憲間ニ常ニ管轄權ニ關シ意見ノ相違ヲ生シ折  
衝困難ヲ來スハ支那側ヨリ言ヘハ之等朝鮮人カ二重國籍ヲ  
有スル爲ニシテ畢竟日本政府カ彼等ニ歸化ヲ許ササル爲ナ  
リ支那側ニ於テ國際事故發生ヲ避クル爲ニ彼等ノ奧地居住

ヲ喜ハサルニ至ルハ當然ナラスヤト爲シ居ル次第ナルカ  
實際問題トシテハ支那側ハ多クノ場合ニ於テ所謂墾民ト歸  
化人トヲ混交シ居リ合法的ニ支那國籍ヲ取得セル朝鮮人ノ  
數割合ニ少ク且事故發生ノ場合ノ例ハ大部分ハ支那側ノ不  
法ニ出テ居レルモ輿地發生ノ問題ナル爲我方ノ希望ヲ達ス  
ル能ハスシテ終ルモノ鮮カラス之等支那側ノ不法ハ飽迄之  
ヲ矯正セシムル様努力スヘキハ勿論ナルモ我方ノ態度ニモ  
出來得ル丈ケ無理ヲ存セサル様處置スル方今後ノ交渉上必  
要ト認メラレタル處朝鮮人歸化不許可力最近勃興セントシ  
ツツアル壓迫ノ主要ナル原因ノ一ニシテ少クトモ支那官憲  
ヲシテ之ヲ表面上ノ理由トシテ主張セシメツツアル事態ニ  
顧ミ此ノ際我政府ニ於テ速ニ不逞ノ徒ニ非スシテ平和的ニ  
外國ニ歸化セントスル朝鮮人ニハ詮衡ノ上之カ脱籍ヲ許可  
スルノ制定ヲ作ラレ支那側ヲシテ壓迫ノ原因ト口實ヲ少ナ  
カラシメンコト切望ニ堪エス  
本件ハ在滿鮮人壓迫ニ關スル内外ノ事態ヲ未タ極端化セサ  
ル間ニ處置スルノ必要痛感セラルルヲ以テ特ニ急速ニ御詮  
議ヲ仰ク  
公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

北平、奉天へ轉電シ南京へ轉報セリ

375 昭和6年3月7日 幣原外務大臣より  
在吉林石射総領事宛

王羲之關係土地差押問題に關しいつまで懸案  
のままとできるか至急回電方訓令

亜一機密第一九號

昭和六年三月七日

外務大臣 幣原 喜重郎

在吉林

総領事 石射 猪太郎殿

支那人王羲之關係土地差押ニ關スル件

本件ニ關シ三月五日河合博士代理笠尾二郎來省シ河合ハ二  
月上旬吉林ニ赴キ本件解決ニ努ムル心組ナリシモ其ノ後ノ  
病状面白カラス或ハ自身吉林ニ赴クコト能ハサルニ立到ル  
ヤモ知レス差当リ尚暫ク本件ヲ懸案ノ俛トナシ置ク様御配  
慮願度シト申出タルニ因リ係官ヨリ河合博士ノ希望スル事  
業ノ遂行ニ關シ支那側ニ於テ不当ノ壓迫等ヲ加フルカ如キ  
事態發生シタル場合ナラハ兎モ角モ目下ノ事態ニ於テ支那

哈爾濱、吉林、間島ヲ除ク在滿各領事（分館ヲ含ム）へ暗  
送セリ  
支、南京、北平、間島、哈爾濱、吉林、朝鮮總督へ轉電セ  
リ

374 昭和6年3月(7)日 在中国重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛（電報）

蔣主席と面談の際日本政府の現状および我が  
政府の対中方針に誤解なき様説明について

南京 発  
本省 3月7日前着

第二四四號

諸般ノ形勢ニ鑑ミ六日蔣主席ニ面會シ日支關係ノ大局ニ付  
テ種々談話ヲ交換シ且日本政界ノ現状及我政府ノ對華方針  
ニ付萬一ニモ誤解無キ様説明シ兩國友好關係ノ繼續増進ノ  
必要ヲ印象スルニ努メタリ蔣主席ハ其ノ節濱口首相ノ容態  
ヲ尋ネ濱口首相、幣原外相ノ健康ヲ祈リ日支兩國ノ根本的  
ノ問題ニ付テ主席ハ同様御斡旋ヲ願ヒ度キ趣旨ヲ述ヘ居タ  
リ

側ニ対シ干涉カマシキ措置ヲ執リ得ヘキ筋合ニ非ス要スル  
ニ河合博士又ハ確カナル代理人カ一日モ速ニ吉林ニ赴キ王  
羲之ト共ニ本件ヲ解決スルコト肝要ナリト申聞ケタル處笠  
尾ハ結局河合ノ女婿市河三祿（京都帝國大学農学部教授）  
吉林ニ赴キ王羲之トノ關係ヲ處理スルコトトナルヘキカト  
思考スルモ此際本件ヲ何時頃迄懸案トシテ未解決ノ状態ニ  
置クコトヲ得ル見込ナルヤ吉林總領事館ニ問合ハセラレ度  
旨述ヘタルニ付係官ハ前回河合ノ希望ニ因リ二月上旬迄本  
件ヲ懸案ノ俛トシ置ク様尽力方在吉林日本總領事ニ申送り  
置キタル次第ニテ此上全總領事ノ尽力方ヲ求ムルニ於テハ  
全總領事トシテハ当惑スルヤモ知レサルモ折角ノ御申出ナ  
ルニ付右見込ニ付問合セ見ルヘシト告ケ置キタル趣ナリ就  
テハ法院側ノ意嚮等然ルヘキ方法ニ依リ御探查ノ上本件ヲ  
何時迄未解決ノ俛トシ得ヘキヤ御見込至急回報アリ度シ

376 昭和6年3月(13)日 在中国重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛（電報）

間島の治外法権維持は困難につき東北で一律  
撤廃の方針にて交渉進行方意見具申

第二七七號(極秘)

貴電第八九號ノ(一)ニ關シ

間島ヲ一般交渉ヨリ除外スル事ハ四十二年ノ協約第八條カ  
大正四年ノ條約第四條、及第五條ニ依リ廢止セラレタルモ  
ノト解シ法權撤廢ニ際シ中國側ヲシテ此地ニ特例ヲ承認セ  
シメントスル御趣旨カトモ認メラルルモ右ハ隨分無理ナル  
解釋ニシテ且又一旦間島ニ於テハ或ル種ノ法權ヲ撤廢シタ  
ル次第ナレハ此地域ニ於テ逆ニ法權維持ヲ試ムル事ハ容易  
ナラスト認メラルル次第ニシテ此際寧ロ同地方ヲ滿洲ト一  
律ニ見治外法權撤廢ノ範圍ニ包含セシムルト共ニ中國側ヲ  
シテ警察其ノ他ニ關シ責任ヲ持タシムル建前ニテ同地ニ於  
ケル我方權益トノ調節ヲ計ルノ方針ニテ進ム事時宜ニ適ス  
ルヤニ思考セラル右貴電間島除外ノ御考慮ノ理由參考迄御  
垂(示)ヲ請フ  
北平、奉天へ轉電シ南京、上海へ轉報セリ

上海 尙  
本省 3月13日後着

不信ノ譏ヲ免レサルヘシト憂慮セラルルニ付此點モ充分御  
考量ニ入レラルル様致シ度ク卑見申進ス尙本官參考迄二代  
理公使宛貴電第八九號ニ關シ轉電ヲ煩ハシ度シ  
支、北平、南京ニ轉電シ吉林、間島ニ暗送セリ

378 昭和6年3月23日 在中国重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

今後の法權交渉の見通しに關し意見具申

上海 3月23日後発  
本省 3月23日後着

第三〇九號<sup>(編註)</sup>  
谷亞細亞局長へ(親展)

一、法權問題ニ關シ東京二十一日發ノ聯合ハ本官ト外交部  
長トノ十二日及十九日ノ兩日ノ交渉内容ヲ記載シ日本  
ノ獨自ノ立場ヲ高唱シ日本カ法權ヲ撤廢スル迄ハ最惠  
待遇ニ依リ外國モ之ニ均霑スルニ依リ他國カ法權ヲ撤  
廢スルトモ夫レ迄ハ意味ヲ爲サストノ日本側ノ法理論  
(實際ノ狀況ハ却テ反對トナラン)ヲ述ヘ「最後ノ一  
國トナルモ辭セス」ト結ヒ居ル報道ヲ掲ケ既ニ明瞭ナ

377 昭和6年3月(22)日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

間島での領事裁判權維持の方針は中國側の不  
信を招く恐れあり修正方意見具申

奉天 尙  
本省 3月22日後着

第二〇〇號

重光代理公使發閣下宛電報第二五七號ニ依レハ法權ニ關ス  
ル一般交渉ヨリ間島ヲ除外シ依然同地方ニ領事裁判權ヲ持  
續セントノ御趣旨ナルヤニ解セラルル處間島問題ニ關シテ  
ハ豫テノ御訓令ニ基キ支那側ニ於テ同地ニ於ケル治安維持  
ノ實ヲ舉クルニ至ラハ我方警察ヲ間島内地ヨリ撤去スルモ  
差支ナシトノ趣旨ヲモ本官並ニ吉林總領事ヨリ夫々支那側  
ニ説明シ居ルハ御承知ノ通ニシテ支那側ハ既報ノ如ク間島  
ノ行政改善ニ次第ニ意ヲ用ユルニ至レリト信シ得ヘキ事實  
アル折柄間島ニ於ケル領事裁判ノ存續方ヲ支那側ニ申入レ  
ラルル時ハ直ニ當地官憲ニ知レ亘ルニ至ルハ必然ニシテ左  
スレハ支那側ニ對スル本官等從來ノ申入ハ一時支那側ヲ欺  
ケルモノナルヤニ解セラレ今後ノ間島交渉ニ惡影響ヲ來シ

ル中國側ノ方針及之ニ對スル外國側ノ態度ニ對シ直接  
挑戰的態度ヲ示シタ<sup>(ニテ分テ)</sup> ハ中國語及英語ニ譯載セラレ  
内外各新聞ニ法權撤廢ニ關スル日<sup>(ニテ分テ)</sup>ノ強硬ナル態度ナ  
ル大見出ノ下ニ報道セラレ居リ爲ニ右聯合記事ハ各方  
面ニ大ナル反響ヲ伴フモノト豫想セラル

二、<sup>(2)</sup>右聯合ハ外務省ノ意嚮ヲ汲ミタルモノニシテ主トシテ  
對内的ノ關係ニ出テタルモノナルヘキハ最近ノ議會ノ  
空氣及國內ノ所謂對外硬論ナルモノニ徴シ首肯セラ  
ル次第ナリ然レトモ若シ右聯合報道カ中國ニ對スル宣  
傳ヲモ加味セラレテ行ハレタリトセハ右ハ極メテ拙策  
ニシテ其ノ結果ハ恐ラク豫期ニ反スルモノナルヘク無  
益ニ波瀾ヲ起スノミナラス斯ノ如キ宣傳ハ兩國ノ關係  
特ニ幾多ノ懸案解決ニ對シ重大ナル破壊的影響ヲ及ホ  
スモノト云フヘシ

三、<sup>(3)</sup>若シ政府ノ方針トシテ現ニ日本内地ニ流行スル(流行  
ハ變化ス)強硬論ノ影響ヲ受ケ聯合報道ノ如キ色彩及  
意氣込ノ政策ヲ樹立シタリトセハ其結果ハ小生屢次意  
見具申ノ通(往電第二一〇號第二七五號及第三〇一號  
尙矢野宛客年往電公第四七號及客年大臣宛電報公第一

二八七號參照) 日華兩國ハ法權問題ニ依リ直ニ暗礁ニ乗上ケテ子構ヘタル軍部系統ノ策動ノ乘スル所トナルヘク茲ニ複雑ナル列國トノ關係及世界ノ輿論ノ前ニ於テ日本ハ何等ノ用意ナクシテ日華兩國間ノ最後の場面ヲ招來スルニ至ラン而モ中國ノ反抗ニ遭ヒ世界輿論ノ積極的支持ヲモ受ケサルコト明カトナルニ及ヒテ我國ノ強硬論ナルモノモ對華經濟關係モ自然ニ變化ヲ餘儀ナクセラレ日本ハ遂ニ濟南事件ノ後始末乃至ハ關稅自主權ノ後始末ノ如キ措置ヲナササルヘカラス破目ニ陷ルナ(キ)ヤヲ慮ル

四、<sup>(4)</sup> 對外的大策ヲ實現スルニハ周到ナル準備手續ヲ要ス小生ノ見ル所ニ依レハ滿洲問題ニ付テハ日華兩國ノ關係ハ如何ニスルモ遠カラス行詰リトナルノ外無シ而シテ右行詰リニ當リテ如何ニ日本ニ有利ナル事態ヲ展開シ此ノ死活問題ヲ満足ニ解決シ得ル地步ヲ築クヤハ日本ノ將來ノ分岐點トナルヘシ日本カ對華關係ニ於テ列國ヲ首肯セシメ世界ノ輿論ノ支持ヲ受ケ得ヘキ唯一ノ問題ハ善用セラルヘキ滿洲問題ナリ(華府會議ニ顧維鈞ヨリ提出セル露支密約中滿洲ハ拋棄セラレタル中(國)

右篤ト上局ト共ニ御考量ヲ願ヒタシ

(別紙)

昭和十一年七月九日朝

坂根 準三

前略御免

御旅行の御障も無之候哉御伺申上候

過日御話承り候件當時の電報綴より

心當りのもの三通を選び秋山書記官に請ひて特に「タイプ」の上茲に御手許に差進申候

御蔭様にて獲難き参考と相成候段御禮申述候餘は拜眉の節万々申上度存候 敬具

重光次官閣下

編注 本文書は憲政記念館所蔵の『重光葵文書』より補填

引用したものである(本文書を含め三通あり)。

なお、本文書に添付されている書翰が別紙であり、参考のため採録した。

ノ邊陲地ニシテ日本ノ力ニ依リ始メテ開發セラレタル地域ナリトノ議論ハ有力ナリ) 法權問題ノ如キ寧ろ各國ト共通ノ事ニシテ他國ノ方針定マレル問題ニ付テ日本獨り争フトモ世界ノ輿論ニ勝目無キハ餘言ノ餘地無シ

<sup>(5)</sup> 之ハ適當ノ處(例ヘハ上海及滿鐵附屬地ノ除外位)ニテ我態度ヲ決定シテ世界ニ理解セシメ得ル地位ニ立テ將來必ス來ルヘキ中國側ノ滿洲ニ對スル要求ニ付テ今日ヨリ我立場ヲ世界ニ明カニシ輿論ノ指導ニ努メ更ニ尙隱忍ニ隱忍ヲ重ネテ主張ヲ鞏固ニシ徐ニ國內ノ右傾的輿論ヲ適當ニ利用シテ茲ニ我滿洲政策確立ノ機會ヲ擲ムコト然ルヘシ今日或ハ一時的ノ輿論迎合ノ政治ニ引摺ラレテ法權問題ニ付テ徒ニ強固ノ地位ヲ豪語シ以テ腹ヲ見透サルルハ如何ニモ拙策ト思考ス  
要スルニ今日ハ日華ノ關係ニ付テ火花ヲ散ラスヘキ時機ニアラス我國ニ其ノ準備ナシ徐ニ法權問題等ヨリ延ヒテ滿洲問題ニ付テ舞臺ノ展開スルヲ待チ夫レニ向ヒテ周到ノ用意ニ缺クコトナキヲ期セサルヘカラスト思考ス

379

昭和6年3月24日

在中国重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛

各種懸案問題に関する張群との会谈録送付に  
ついて

機密公第一四一號

(3月31日接受)

昭和六年三月二十四日

在中華民國

臨時代理公使 重光 葵(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

張羣談話要領送付ノ件

三月十七日張羣トノ會談録別紙寫ノ通り送付ス

本信寫送付先 北平 奉天 上海 南京

(別紙)

三月十七日約ニ依リ張羣來訪シ各種ノ問題ニ付互ニ腹藏ナキ意見ヲ交換シタリ要領左ノ通

(一)先ツ本官ヨリ南京漢口事件ノ解決ニ付テハ貴下ニ於テ日華兩國國交ノ大局上ノ見地ヨリ少ナカラサル斡旋ノ勞ヲ執ラレ其結果漸ク外交部長ト本官トノ間ニ意見ノ一致ヲ見ル

ニ至レリ尤モ右解決ノ結果タル賠償額ハ實ハ外交部長ノ申出ヲ殆ト鵜呑トシタル次第ニテ被害者ニトリテハ銀價下落ノ際ニモアリ極メテ不満足ノモノナルモ自分ハ中國側カ本件ヲ大局上ノ見地ヨリ速ニ解決セントスル誠意ニ對シ右様ノ處置ヲ執リタル次第ナリ何レニスルモ右兩事件カ將ニ解決セントスルハ兩國ノ爲慶賀スヘキコトニシテ此問題解決ノ爲貴下ノ爲サレタル御盡力ニ對シテハ改メテ感謝ノ意ヲ表シ度シト述ヘタル處張羣ハ本問題並ニ其他種々ノ問題ニ關スル全氏ノ苦衷ニ付語ル處アリタリ

次テ本官ヨリ日華間ニ現ニ交渉中ノ重要案件ハ法權問題ナルカ日華關係ニ付テノ日本政府ノ方針ハ御承知ノ通ニシテ殊ニ幣原外相ノ意嚮ハ其議會演說ニ於テ明カナル如ク極メテ公正ノモノニシテ其態度ハ各國ノ中國ニ對スル方針ノ指針タルノ狀況ニテ特ニ法權問題ニ關スル交渉ニ於テ其影響顯ハレ居レリ日本ニ於テハ種々ノ對内的關係アリ又中國ニ於テ錯綜セル利害關係ヲ有スル結果歐米諸國ト同様ニ法權問題ヲ見ル譯ニハ行カス從テ今回提出シタル通り日本側ノ意嚮ハ飽迄漸進の撤廢ニ在ル次第ナルカ其趣旨ニ於テ歐米各國ノ意嚮ト異ルトコロナシ尤モ王外交部長ハ即時無條件

ニ於テ具體的ニ好意及同情ヲ表シ居ラストノ印象ハ一般的ニシテ獨リ外交部長ニ限ラサルナリ自分ハ日華關係ヲ仔細ニ注視シ居ルモノナルカ御承知ノ通り嘗テ孫文カ常々日本側同志ト語ラヒ又最後ニ北上ノ際神戸ニ於テ演說シタル時「日本ハ宜シク不平等條約撤廢ノ如キ政治上ノ問題ニ付テ中國ヲ援助スヘシカクストキハ中國ハ必ス感謝シテ日本ニ對シ其必要トスル經濟上ノ援助ヲナスニ至ラン」トノ趣旨ヲ述ヘタルカ右ハ中國一般ノ輿論ナリ之ニ對シ日本側ハ先ツ中國側ヨリ經濟的援助ヲ爲サントコトヲ要求シツツアル狀況ニシテ此全体の差異ヲ調和センカ爲ニハ非常ナル努力ヲ拂ハサルヘカラス而シテ右調和實現ノ方法トシテハ現ニ貴代理公使カ執ラル、様懸案ヲ簡別的ニ處理解決シテ進ムヨリ外ニ途ナク一刀兩斷ニ根本的解決ヲ爲サントスルカ如キハ不可能ニ屬スヘシト述ヘタリ

本官ハ右ニ對シ假令御話通り日華兩方面ノ主張カ一ハ經濟的提携ヲ先ニシ一ハ政治上ノ要求ヲ先ツ行フコトニアリトスルモ自分ノ考フルトコロニ依レハ實際ノ政治ノ運用トシテハ適宜兩者ヲ混用シ兩者ヲ同時ニ實現スル様事々物々ニ付テ努力スルヨリ外ニ途ナカルヘシト述ヘタル後尙中國側

ノ撤廢ヲ要求シ居リ自分ハ此間ニ處シ調和點ヲ發見スヘク努力セント考ヘ居レリ

第三ノ懸案事項ハ滿洲ニ於ケル鐵道交渉ナルカ右ハ滿鐵ニ關係スル事項ニシテ滿鐵當局ト東三省當局トノ間ニ行ハレツツアリ其要項ハ主トシテ專門的事項ニシテ即チ兩國鐵道ノ競争防止必要ノ鐵道ノ建設ヲ中國側ニ於テ希望スル場合ニハ日本側ノ援助ヲ受クルコト運賃ノ協定及借款契約ノ整理等ニシテ要スルニ日本ノ希望スルトコロハ交渉ノ結果双方ノ利益ヲ計ラントスルニアリ自分ハ此等極ク普通ノ小問題ニシテ而モ兩國ノ利益トナルカ如キ事柄ヨリ話ヲ始メ之ヲ纏ムルコトトスレハ滿洲ニ於ケル空氣甚タ改善セラレ他ノ重要問題例ヘハ法權撤廢ノ問題ニ對シ好影響ヲ與フヘシト考フルヲ以テ右交渉ノ促進ヲ希望シ居ル次第ナリト述ヘタル後

懸案問題ノ一タル電信交渉ノ經過ヲモ説明シ置キタリ  
(一)更ニ進ンテ豫テ蔣主席ヨリモ話アリタル張羣ノ日本行ニ談及シタルカ張ハ此問題ヨリ引イテ左ノ通りノ意見ヲ述ヘタリ  
幣原外相就任以來其取ララルル方針ハ大体一般ニ了解セラレ居リ中國側ハ之ヲ歡迎シ居レルモ右ハ消極的ニシテ日本側

希望ノ一トシテハ大使交換ノ問題アリ御承知ノ通り日本側ニ於テハ大使館昇格ノ豫算ハ議會ヲ通過シ居リ今日ニテハ唯小幡問題ノ如キニ阻止セラレツツアルニ過キス但小幡問題ヲ無視スルトシテモ人繰其他ニ付困難生スヘキハ當然ナルヘキモ中國側ニ於テハ貴下カ日本ニ公使又ハ大使トシテ赴任セラル、コトノ内議ニテモ在ル次第ナリヤト尋ネタル處張ハ實ハ其問題ハ存在シ蔣主席モ之ヲ希望シタルコトアルモ自分ノ考フル處ニ依レハ自分カ若シ日本ニ常駐スルトスルモ中國ノ期待スルカ如キコトハ何事モ爲ス能ハス又必スシモ外交部當局ト意見合致セサルヤモ知レス日華間ノ關係ニハ前述ノ如キ困難アルヲ以テ急ニ之カ回轉スルコトヲ望ム能ハス現在ノ如ク問題ヲ箇々別々ニ取扱ヒ漸次ニ處理シ行クコト最モ實際的ナリ之カ爲東京ニ於テ汪公使カ局ニ當ルハ勿論不適當ナルヘキモ日本ノ駐華代表ト中國政府ト直接交渉ヲ行フコト甚タ適當ニシテ蔣主席其他中國側ヨリ特別ノ信賴ヲ受クル貴代理公使ニ於テ其衝ニ當ルノ現狀ヲ變更スルノ理由ナシ自分ハ東京ニ常駐スルヨリモ寧ロ中國ニ在リテ日華兩國ノ利益ノ爲盡力スル方然ルヘシト述ヘタルニ付本官ハ之ニ對シ御説ノ如ク或ハ中國ニ在リテ日華兩

國ノ關係ニ貢獻セラル、方勝レルヘク貴下ノ如キ人物ヲ蔣主席カ長ク手放スコトハ困難ナルヘシ自分トシテハ幸ニ中國側ニ知己多キモ自分ヨリ更ニ適任ニシテ兩國ノ關係ニ大ニ貢獻シ得ル如キ有力ナル大公使ノ任命アルハ希望ニ堪ヘサルトコロニシテ之カ爲自分モ努力シツツアル次第ナリト答ヘ置キタリ

(三)次テ本官ヨリ自分等ハ蔣主席ノ成功ヲ公人トシテモ私人トシテモ希望ス從テ全主席カ飽迄大成セラレンコトヲ願フト共ニ之ニ向テ援助ヲ爲スヲ惜マサルモノナリ一般日本人モ蔣主席ニ對シテハ極メテ好感ヲ有スルト共ニ中國ニ於ケル大人物トシテ尊敬ス然ルニ過日新聞ニ發表セラレタル濟南事件ニ關スル演説若ハ胡漢民事件ニ關スル日本新聞記事ニ付テ爲シタル演説等ヲ聞カサル、時ハ如何ニモ其大人物トシテ日頃敬慕シツツアルノ念ヲ裏切ラレ又同情ヲ減殺セラルヘキヲ以テ適當ノ機會ニ於テ右ノ如キ言動ハ充分慎重ニ御傳ヲ乞フ胡漢民事件ニ付テハ箇々ノ通信ニ付テハ不満足ニ思ハルル場合モ勿論有之ヘキモ日本新聞輿論ノ歸趨ハ蔣主席ニ對シテ極メテ理解アリト述ヘタル處張ハ其意ヲ了シ主席モ最近演説ノ機會多ク準備ニ乏シキ爲右ノ如

ニ出テシムルコトハ自分等ノ絶エス執リタル方針ナルカ貴下ノ如キ有力者カ右ノ如キ態度ヲ以テ進マル、ハ貴下ノ益々大ヲナス所以ニシテ此上共其方針ヲ以テ進マレタク自分等ハ外部ヨリ充分ノ援助ヲ致シ度シト述ヘ置キタリ 以上

380 昭和6年3月27日 幣原外務大臣より  
在中国重光臨時代理公使宛(電報)

間島では治安維持、朝鮮人保護のため暫定的  
特例を協定の方針であり治外法権永持の意向  
ではない旨回訓

本省 9月27日後4時30分発

第一〇九号(暗、極秘)  
貴電第二七七號ニ關シ

間島ニ關シ特殊ノ協定ヲ遂ケムトスルハ貴方杞憂ノ如ク同地域ニ限り永ク法權ヲ維持セムトスルノ趣旨ニハ非ス只御承知ノ通り同地方ノ朝鮮人ニ付テハ間島協約等ノ結果種々ノ點ニ於テ他地方朝鮮人ト同列ニ取扱ヒ難キ特殊ノ關係アルノミナラス殊ニ今日ノ如キ治安状態及中國側ノ保安能力ニテハ法權撤廢ノ當然ノ結果トシテ同地駐在ノ吾警察官全

キ結果ヲ來セルヤモ知レサルモ然ルヘキ機會ニ主席ニ對シ注意シ置クヘシト述ヘタリ

(四)尙張市長ハ此機會ニ自分ノ職務タル上海市政ニ付テ御話シタシト前置シ此點ニ關シテハ隨時御話ヲ伺ヒタルカ目下外國トノ關係ニ於テハ租界外道路ニ關シ困難ナル問題アリ警察權課稅權ノ如キ主權ニ關スル事項ハ自分ノ權限外ニ屬スルモ自分ノ爲シ得ル範圍内ノ事項ニ付テハ能フ限り工部局等ト調和的態度ヲ取り度ク思ヒ居リ工部局側モ同様漸次調和的態度ニ出テ來リツ、アル如シ交渉ハ目下尙秘書長ヲシテ當ラシメツ、アルカ最近租界外道路ノ修繕ヲ許スコトトシテ解決ヲ計ルコト、ナリタレハ此點ハ喜ンテ頂キタシ其他電燈水道モ暫定的ニ解決ヲ見ル豫定ナリ(中國側ノ準備整フ迄租界ヨリ供給ス)

尙其外自動車免狀ヲ共通ニスル等雜多ノ問題アリト述ヘタルニ付

本官ハ之ニ對シ御話ノ通り調和的態度ヲトラル、ハ誠ニ結構ナリ豫テヨリ述フル通り急激ニ上海ヲ恢復スルモ果シテ中國側ノ利益タルヤ疑ハシク實際の大政治家ハ必ズ調和的態度ヲ以テ徐々ニ實現ヲ圖ルヘシ工部局ヲシテ調和的態度

部ノ即時撤去ヲ許ササル等ノ事情ヨリ見テ治安ノ維持及朝鮮人ノ保護ニ關スル中國側ノ施設ガ吾方ノ一應満足シ得ル程度ニ改善ノ実ヲ挙クルニ至ル迄ハ現地ノ事情ニ最モ適合スル何等カノ特例ヲ協定シテ吾方權益トノ調節ヲ圖ルノ必要ヲ認ムルモノニシテ右特例ノ内容ニ付テハ當方ニ於テモ折角考究中ナルヲ以テ追テ何分ノ儀申進ムヘシ

尙同地方ノ治安維持ノ爲メニハ吉會鐵道ヲ完成セシムルコト必要ニシテ右ハ既ニ間島協約ノ一條項ヲ爲シ居ルニ鑑ミ本件特例交渉ヲ機會ニ豫テノ懸案タル同鐵道問題ヲモ解決シタキ所存ナリ御含迄

南京、上海ニ轉報アリタシ  
北平、奉天、吉林、間島ニ轉電シ貴電ト共ニ英米佛ニ轉電セリ

381 昭和6年3月28日 在中国重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

法權問題に關シ王外交部長は不平等關係を租借地および租界の回収問題等五つに整理の上  
解決したき希望について

第三三五號(極秘)

(1) (本電取扱特ニ注意ヲ請フ)

貴電第一〇六號ニ關シ

二十七日外交部長ニ會見篤ト御來示ノ趣旨ヲ申入レタルカ其ノ要領左ノ通

一、先ツ本官ヨリ前回ノ會見ニ於テ我々ノ談話ハ法權問題ニモ及ヒ其際貴部長ハ主要ナル主義上ノ數點ニ對スル中國側立場ヲ明カニセラレタルカ本使ニ於テモ日本政府提案ノ趣旨ヲ説明シ更ニ日本側ニ於テハ貴部長ノ所謂主要問題ニ付テモ意見ヲ變更スル趣旨ニハアラサルモ之等ノ問題ハ暫ク置キ其ノ他ノ問題ニ付非公式ナリトモ意見ノ交換ヲ爲スコトハ密接ナル兩國利害ノ調節上有効ナル旨ヲ述ヘ貴部長ニ於テモ結局右ニ異議ナカリシ模様ナリ今同接受セル幣原外相ヨリノ訓令ニ依レハ右本使ノ考案ヲ承認セルモノノ如シ元來日本政府ハ中國側多年ノ要望實現ニ付テハ終始同情的態度ヲ有シ法權問題ノ如キモ出來ルナラハ迅速且廣汎ナル妥結ヲ

見ルコトヲ希望スルモノナルカ他方兩國ノ隣接セル關係上密接ナル利害ノ錯綜シ居ル現實ノ方面ニ對シテハ實際的政治家トシテ深甚ノ考慮ヲ拂ハサルヘカラス貴部長ニ於テハ從來トモ日本ノ立場及其ノ重要ナル利害關係ニ付諒解ヲ有セラレ之ト中國ノ政治的理想の要望トノ調節ヲ念トセラレ居ル次第ナルカ右精神ハ法權問題ニ付テモ變リナキモノト信ス若シ右ニ變リナシトスレハ之等兩國關係ノ調節ノ爲双方トモ更ニ努力ヲ爲シ主義ノ問題ハ暫ク置キ何レニシテモ攻究ヲ要スヘキ在留邦人ノ生命ニ對スル保證ノ問題中國ニ於ケル日本人經濟生活ノ合理的の遂行ノ問題成ニ付非公式ニテモ交渉ヲ進メテハ如何ト述ヘタルニ

二、

外交部長ハ熱心ニ之ヲ傾聽シ右ノ趣旨ニ付全然同感ノ意ヲ表シタル後日本側提案ノ要點ハ要スルニ三點ニシテ即チ地理的及事項別ニ依ル漸進主義、保障條件及内地ニ於ケル居住營業及不動産所有權確立ノ三點ナリ第一ノ點ハ中國側ニ於テ承認シ難キコトハ前回説明ノ通ナリ第二ノ點ニ付テハ何等日本國民ヲ他國民ヨリ Less Favorable (Favorable?) ニ取扱フコトヲ期待シ居ラサルニ付

右ノ趣旨ノ一條項ヲ規定スレハ可ナリ第三ノ點ハ不平等關係ノ完全ナル撤廢ノ曉ニハ國際間ニ共通ノ原則ニ基キ内地ヲ開放シテ外國人ニ居住營業權ヲ與フルニ異議ナク白耳義其他ノ國トノ條約ニ於テモ既ニ規定シタル通りナリ然レトモ不平等關係ノ存在特ニ租借地及租界ノ存スル限リ其關係國ノ國民ニ對シ内地雜居ノ權利ヲ認ムル能ハス何トナレハ租借地及租界ハ其地域ニ限リ外國人ヲ居住セシムルノ趣旨ニテ設定セルモノニテ之等地域ノ存在ト内地開放トハ兩立シ得サル關係ニ在ルニ付内地ノ開放ハ之等特別ノ地域ノ消滅ヲ前提トスト説明セリ

三、

本官ハ之ニ對シ右ハ重大ナル問題ナルカ内地ニ於テ法權ヲ撤廢スル場合ニハ内地居住權ヲ認ムルコト當然ナラスヤ又租借地ヲモ租界ト同様ノ部類ニ入レラレタルカ租借地トハ日本關係ニ於テハ何レノ地ヲ意味スヘキヤ又不平等關係ノ完全ナル撤廢ヲ見ル迄ハ内地開放ハ不可能ナリト言ハレタルカ右ハ如何ナルコトヲ意味スルヤト尋ネタルニ

四、王部長ハ前述ノ説明ヲ繰返シ且租借地ハ租界ト同一ノ

「カテゴリー」ニ入ルヘキモノナルコトヲ述ヘ更ニ日本關係ノ租借地ハ旅大半島ヲ指ス次第二シテ不平等關係ト言フハ自分ハ五項目ニ分類シテ考ヘ居レリ  
其第一ハ既ニ解決セシ關稅自主權ノ問題第二ハ法權問題第三ハ租借地及租界回收ノ問題第四ハ中國ニ於ケル外國陸海軍全部ノ撤退問題第五ハ「カポタージ」ノ問題ナリ之等問題ノ解決シタル曉始メテ中國ハ外國ト平等關係ニ立ツモノニテ其際ハ外人ヲシテ中國ニ於テ實際上ノ通則タル總テノ權利ヲ享有セシムルニ異存ナシト述ヘタリ

五、

本官ハ右ハ重大ナル諸點ニテ容易ナラサル問題ナリト述ヘタルニ止メ先方ノ考ヘ居ルコトハ右ニテ明白トナリ來レルヲ以テ寧ロ深ク議論スルコトヲ避ケ置キタルカ尙他ノ問題ニ付話ヲ爲シタル後更ニ法權問題ニ話頭ヲ向ケ話ニ燃ヲ戻シ重要ナル主義ノ問題ニ付最初ヨリ議論スルコトハ却テ兩國ノ利益ヲ調和セントスル我々ノ努力ノ障害トナルモノト思ハルルニ付前述ノ如ク保障ノ問題在留民ノ權利ノ問題等ニ付意見ノ交換ヲ爲シテハ如何ト當初ノ所述ノ趣旨ヲ述ヘタルニ部長ハ之等

ノ問題ハ曩ニ述ヘタル通り簡單ノコトト思フカ如何ナル御考案ニテモ具體的形式ニ於テ提案セラルルニ於テハ自分ハ喜ンテ研究ヲ爲スニ異議ナシ就テハ日本側ノ案提出セラレタシト言ヘルニ付本官ハ兎ニ角自分ニ於テモ研究スルコトトスヘシト答ヘ置ケリ  
本日ノ會見ニ於テハ日支兩國間ノ根本的ノ重要問題ニ觸レタル譯ニテ民國側ノ究極ノ意向ヲモ突止メ得タル感アル處外交部長トノ談話ハ終始友誼的ニシテ何等感情的ナル調子ニアラサリシ次第ナリ爲念  
奉天へ轉電シ、南京、上海へ轉報セリ

編注 本文書は憲政記念館所蔵『重光葵文書』より採録した。

382 昭和6年3月30日 外務省 拓務省 協議 朝鮮總督府

間島問題に関する外務、拓務、朝鮮總督府第五回協議會議事録

昭和六年三月三十日 昭和六年三月三十日午前十時十五分開會同十二時

左ノ通り經費支出方稟請ノ次第アリ

第一、鮮人ノ直接被害救濟費

- 一、共匪ニ依ル被害ニ對スルモノ 一萬五千九百六拾壹圓
- 二、中國軍警ノ不法行爲ニ依ル被害ニ對スルモノ 三千六百九拾五圓
- 三、民會職員ナルカ故ニ共匪其他ヨリ被害ヲ被リタルモノニ對スル見舞金 壹千五百圓

以上合計 貳萬壹千五百五拾六圓

第二、民會自身ニ對スル臨時補助費

四千五百五拾圓

第三、鮮農ノ耕牛保持費補助

貳萬圓

第四、間島金融部ノ増資

貳拾萬圓

但拾萬圓ヲ東拓ヨリ借入  
レ残り拾萬圓ハ外務省朝鮮總督府ヨリ各五萬圓宛

半閉會

場所 外務省事務次官室  
列席者 外務省側

永井事務次官  
織田參與官

谷亞細亞局長

三浦亞細亞局長第二課長

拓務省側

小坂政務次官

堀切次官

田原書記官

小河朝鮮部第一課長

阪谷文書課長

兒玉政務總監

森岡警務局長

穗積外事課長

朝鮮總督府側

議事

谷局長『本日ハ先ツ朝鮮人救濟ニ關スル小河課長ノ報告ヲ承リ次テ森岡警務局長ヨリノ御話ヲ承リ最後ニ治外法權撤廢ニ伴フ鮮人問題ニ付テ述フルコトト致度』

小河課長『今般岡田總領事ヨリ間島問題ノ善後處置トシテ

支出スルコト

以上岡田案ニ對シ、第一、鮮人ノ直接被害救濟費、第二、民會ニ對スル補助、第三、鮮人耕牛保持費ノ合計四萬五千七百六圓ト之ニ一月分ノ被害救濟費ノ追加壹千七百四圓ヲ加ヘ合計四萬七千四百拾圓ハ既ニ外務省ニ於テ支出差支無キ旨回電セルニツキ殘ル處ハ金融部補助貳拾萬圓ヲ如何ニスヘキヤノ問題ナルカ右ノ中拾萬圓ハ目下成否ハ不明ナルモ外務省ニ於テ東拓ヨリ借入方交渉中ニツキ殘リ拾萬圓ヲ豫備金ヨリ支出スレバ可ナルヘキモ金利ノ關係モアリ貳拾萬圓全部ヲ豫備金ヨリ支出シ東拓ヨリノ借入金拾萬圓ヲ返濟スルコト適當ト思考セリ、然ルニ今般穂積外事課長ハ五萬圓支出ニ關スル案ヲ持シテ上京セラレ既ニ財務當局ト交渉ヲ開始シ今更之ヲ拾萬圓ニ増額シ得サル經緯アルヲ以テ結局朝鮮總督府側ヨリ五萬圓、外務省側ヨリ拾五萬圓豫備金支出方大藏當局ト交渉スルコトトシ若シ右目的ヲ達セサル場合ハ東拓ノ拾萬圓ハ返濟セス朝鮮總督府及外務省ニ於テ五萬圓宛負擔スルコトニ致度ク尙名義ハ双方同一歩調ヲ取ル必要上外務省ハ春ノ農耕資金ノ補助、朝鮮側ハ朝鮮人ノ副業ノ指導トシテ

耕牛ヲ買フノ名目ト致シ度シ（外務省ヨリ既ニ貳萬圓耕牛購入費トシテ支出サレタルコト前述ノ通りナルモ右ハ内部ノコトニツキ差支ナシ）尤モ以上ハ單ニ名義ノ問題ニ止リ目的ハ結局貳拾萬圓ノ資金ヲ金融部ニ補助セントスルニ在リ以上間島問題善後處置ニツキ關係當局間ニ於テ相談セル結果ナリトス

森岡警務局長『昨年十月ヨリ十二月ニ掛ケテ上京セル際間島問題ノ根本政策トシテ拓務省ヲ通シ朝鮮總督府ノ意向トシテ左ノ三點ヲ申出タリ

第一、間島總領事ヲ朝鮮側ヨリ任命シ得ル様任用令改正方ノ件

第二、警務力ノ充實問題

右ノ中ニハ人的及物的ノ兩方面ノ問題含マルル處現在ノ外務省警察官ニテハ不充分ニツキ平ク云ヘハ間島ノ警備ヲ總督府ニ委任サレタキコト

第三、間島總領事及總督府外事課ノ間ニ打合せヲ遂ケタル鮮人保護撫育施設案ノ實現

而シテ其ノ際外務省側ニ於テハ第一ノ總領事任用令改正方ニツイテハ殆ント御異議ナク又第三ノ保護撫育ニ付テ

森岡局長ハ共匪暴行地圖ニ葉ヲ示シ又朝鮮總督府側ノ調査トシテ左ノ移住者歸還表ヲ朗讀ス

昭和四年中	四〇〇六	三二七六	增	七三一
〃五年中	二八四二	三九一六	減	一〇七四
六年一月	四〇二	二〇三七		
二月				

『右表ハ嚴寒ノ候婦女、小兒ノ手足纏ヒノ爲メ移住ヲ見合セタルモノカ春先ニ至リ相當多クナリシコトモアルヘキモ重ナル原因ハ前述ノ通ナリ』

右ニ對シ三浦課長ヨリ外務省側ノ調査トシテ左ノ通り説明アリ

一月	出沒回数	出沒人員	朝鮮人	殺人	中國人	傷害	朝鮮人	中國人	放火	損害
二月	三〇	二五二	七	一	二	三	一	二	八	三

中國人	朝鮮人	強奪	中國人
一件(ナシ)	二七件(一七六圓)	二〇件(二〇〇圓)	六件(四三〇圓)
三件(四三圓)			

モ經費ノ關係上直ニ實現ハ出來サルモ最近ノ機會ニ於テ實現スルコトノ御諒解ヲ得今日ノ小河課長ノ御話モ其一端ト伺ハルル處第二ノ警備委任ノ件ニ付テハ當時三浦課長現地出張中ニツキ其ノ歸還ヲ待テ省議ヲ決シ度キ旨ヲ以テ之ヲ留保サレタリ之ニ對シ朝鮮側トシテハ右三者ハ相關聯シ如何ニ保護撫育ノ徹底ヲ期スルモ治安力保タレサレハ其ノ效ナク又如何ニ朝鮮ノ事情ニ通シタルモノカ其ノ局ニ當ルモ警備充實セサレハ目的ヲ達セスト考フル次第ヲ申述ヘ置キタリ其後間島ノ實情ヲ見ルニ昨年十一月、十二月相當共匪ノ檢舉アリ京城ノ刑務所ニ送致サレタルモノ約八十名ニ及ヒ目下一時小康ヲ保チツツアリト見ラレ又一般ニハ靜穩ニ向ヒツツアリト考ヘラレ居ルカ如キモ實際ハ決シテ然ラス、本年ニ入ツテ既ニ暴行事件二百件以上ニ及ヒ之カ爲メ朝鮮人ノ鮮内ヘノ歸還者シク増加シツツアリ之カ原因ハ穀價ノ暴落不景氣等ニヨル經濟的原因モアルヘキモ共匪及官憲ノ壓迫ノ力主タル原因ト認メラルルニ付テハ此ノ際救濟ヲ行フト共ニ充分治安維持ヲ全クシ間島ヲシテ鮮人安住ノ地タラシムルコト必要ナリ』

右朝鮮總督府側ト外務省側トノ調査ノ不一致ニ關シ或ハ朝鮮人被害者カ後難ヲ虞レ外務省警察官ニハ申告セサルモノ多キ爲メナルヘシトナスモノアリ（穂積外事課長）或ハ外務省側ニテハ共匪ニ依ル損害ト普通ノ殺人事件乃至民族運動ニ依ル損害ヲ區別シ前者ノミ計上セル爲メナルヘシト爲スモノアリ（此ノ點ニツキ三浦課長ヨリ更ニ馬賊、不逞團ノ表ヲ提出シ）其他種々ノ説出ツ

之等ノ數字ヲ離レテ大体ノ氣分トシテ如何ニ觀察サルルヤトノ永井次官ノ質問ニ對シ森岡警務局長ハ昨年外務大臣ノ演說中間島地方カ漸次靜穩ニナリツツアル旨述ヘラレタルニ對シ民會長等ハ不滿ノ意ヲ表セルコト一般ニハ爭亂ノ巷トナラスヤトノ懸念濃厚ナルコト極端ナルモノハ全部カ共匪トナルヘシト憂フル向キサヘアル旨ヲ答フ尚森岡局長ヨリ支那官憲ニ依ル被害減少セル事實指摘セルニ對シ穂積課長ヨリ支那官憲ニ依ル被害ハ殺傷等ヨリモ檢舉ニ際シ賄賂ヲ要求スル如キ壓迫カ問題ナリトテ白米及雜ノ例ヲ舉ケ此ノ方ハ一向減セサル旨補足説明アリ右ニ對シ谷局長ハ先般民會長二名上京セル際陳情セル處ニ依レハ結局撫育助長ノ問題ニシテ警察力ノ問題ニ非サリシ

旨述へ、鮮人移住歸還者ノ件ニツキ左ノ電報ヲ披露ス、  
外務大臣發岡田總領事宛電報

龍井村及局子街兩民會長六日着京陳情中ナルカ貴地方最近ノ實情トシテ共匪ノ跋扈及中國軍警ノ壓迫ニ堪ヘス鮮内ニ歸還スル者日々百名ヲ下ラサル有様ナリト述ヘ居ル處本月一日大連新聞ニハ間島鮮人六千名破産歸鮮シテ流浪シツツアリトノ記事ヲ掲ケ又五日北鮮日報ハ共產黨、馬賊、密偵等ノ横行ト出動中ノ中國兵力數箇月ニ亘ル給料不渡ノ結果共匪ニ劣ラサル兇暴ヲ逞シツツアル爲メ間島奧地ハ無警察状態ニ陥リ鮮内引揚者續出シ天圖鐵道ハ避難民滿載ニテ時ナラヌ盛況ヲ呈シツツアリトノ報道ヲ爲シ居リ右等ハ何レモ誇張ニ過クルモノトハ察セラルルモ前記往電民會長等運動ノ次第モアリ議會ノ問題トナル虞モアルニ付實情詳知シ置キ度尙歸還鮮人相當多數アリトセハ右ハ共匪又ハ中國軍警ノ行動ヲ恐ルルコト主タル原因ナリヤ又ハ經濟不況カ主因ヲ成スモノナリヤノ關係ニ付テモ至急御取調ノ上回報アリタシ

岡田總領事發幣原外務大臣宛電報  
貴電ニ關シ

メラレ特ニ共匪ノ被害ハ客年末ニ於テ低減シ中國軍警モ漸次我方ノ眞意ヲ了解シ現ニ各地共相當緊張シテ檢舉ニ努メツツアルヲ以テ不法行動モ最近殆ト之ヲ認メサル状態ニ在リ

尙三浦課長モ左ノ電報ヲ朗讀ス  
田中副領事發幣原外務大臣宛電報

本官客月末ヨリ二週間出張管内共產黨及農家經濟ニ付各分署及民會ノ所見ヲ敲キ直接部落ヲモ問ヒ視察シタル處左ノ通

一、共產黨ハ依然潛行ノ運動ヲ續ケ居ルモ中國側ノ檢舉取締稍々嚴重トナリタルト我方不斷ノ檢舉ニ依リ再起不可能ノ状態ニアリ加フルニ今ヤ春耕期迫リ食糧ト耕牛ノ缺乏ヲ告グル等實際苦ニ直面セル鮮人中ニハ共產運動ニ參加セル不善ヨリ覺醒セントスル空氣モアリ住民ノ被害著シク減少セリ

二、客年收穫後共匪ノ害ヲ虞レ居住地ヲ引揚ケタル有産階級者多數アルモ是等ハ土地ヲ所有シ居ル關係上比較的安全ナル商埠地ニ移住シ形勢ヲ觀望シ居ル向多シ當地金融部ノ貸出シ記録ニ依ルモ鮮内ニ引揚ケタルモノナ

共匪及軍警ノ迫害ニ依リ在住鮮人ノ鮮内退去ニ關シテハ夙ニ深甚ノ注意ヲ拂ヒ居レルカ例年收穫後解氷期ノ間ハ當地方鮮人ノ移動時期ニシテ五、三〇暴動事件後六月以降本年二月迄九ヶ月間ニ鮮内ニ避難歸還シタル鮮人ハ三百四十八戸一六七四名ニ上レル處之ヲ前年ノ同期間歸還者一一一八名ニ比シ僅ニ五六名ノ増加ニ過キサルノミナラス此期間内四百五十六戸一九六七名ノ新移住者アリタルヲ以テ全体ヨリ見テ敢テ大ナル動搖ト認メ難シ

又兩民會長ノ當地出發ハ既ニ二ヶ月半ヲ經過シ其後事態一變シ居ルヲ以テ陳情ノ事項ハ最近ノ實情ニアラサルハ勿論新聞記事ノ如キモ亦誇張甚タシク現ニ天圖鐵道ノ乘客ハ此期間九ヶ月間ノ統計ヲ前年同期間ニ比スルニ三割九分強ノ激減ヲ示シ營業不振ノ状態ニアリ避難民滿載ノ盛況云々ノ如キハ全ク事實ニ反シ又朝鮮側三峰警察官ノ調査ニ徵スルモ十二月中旬以降三月上旬迄約三ヶ月間ニ鐵道通過ノ避難鮮人ハ七百六十餘ヲ計上シ居ルニ過キスシテ日日百名ヲ下ラス云々ノ如キハ更ニ聲ヲ大ニシ運動ノ爲ニセントスルモノト認メラル尙歸還者ノ大部ハ一樣ニ時局避難ヲ云爲シ居レルカ如キモ主タル原因ハ既往ノ經濟不況ニ依ルモノト認

シ  
三、小作階級ハ穀價暴露ノ影響ニ依リ食糧及耕牛ノ缺乏甚タシク一方中國人地主ハ鮮人思想ノ變化ニ鑑ミ食糧ノ供給ヲ躊躇シ居ル者アルカ大体ニ於テ兩者間ノ關係良好ニシテ引揚ヲ要セス從テ食糧暴動等ノ起ル事無カラルヘシ

四、昨今鐵道ニ依ル鮮人ノ往來ハ春耕期ヲ目的トスル毎年解氷期前後ニ於ケル鮮内トノ移動ニ依ル處多ク偶々ニ三歸鮮者アルモ傳ヘラルルカ如キハ誇張宣傳ニ過キス

五、今後小作階級ノ間島内ニ於ケル移動ハ多少有之ヘキモ當館管内ハ人心最動搖セル昭和五年總人口ニ於テ前年ヨリ却テ二千人増加シ居リ現在ニ於テモ同數ヲ維持シ居レリ

實情右ノ如ク鮮内歸還者ノ多寡ハ寧ロ市場ノ治安ト食糧供給ノ如何ニ係リ此際鮮人一般ノ輿論タル中國側ノ亂(暴)ナル檢舉ヲ控ヘシメ食糧ト耕牛ヲ供給セハ現居住地ヲ移動スル者無カルヘシト觀測サル御參考迄

織田參與官ヨリ現地ニ於テハ多少事實ヲ誇張スルコトニヨリ安全感ヲ得ントスル傾向アルヘク、又過般議會ニ於ケ

ル質問ニ見ルモ間島ハ素々朝鮮ノモノナリトスル者ト飽迄支那ノ領土トシテ論スル者ト兩派アルカ如クソレニ依ツテ對策モ自ラ異ナルヘシト述ヘ之ニ對シ  
森岡警務局長ハ間島ニ關シテハ相當強硬說ヲナスモノアリソレ等ヲ押フル爲メニモ前述ノ如キ朝鮮總督府ノ案ヲ採用スルコト必要アルヘキ旨ヲ述フ

兒玉總監ハ外務省警察ト朝鮮警察トハ連絡不十分ナルカ如ク現ニ過般應援隊引揚ノ際ノ如キ引揚ト同時ニ檢舉ヲ行ヒタルカ我々トシテハ應援隊滞在中ニ檢舉ヲ行ヒシナラハ一層效果アリシコトト思考ス、引揚後兩者ノ間ニハ何等情報ノ交換モ連絡モ無キカ如シ此ノ點ハ一應虚心担懷ニ連絡スルコトト致シ度シト述ヘ

森岡局長モ最近ニハ檢舉ノ報告アルモ被害ニ關スル報告ニ接セサルカ如シト述ヘ之ニ對シ

谷局長ハ過般下村威北警察部長上京ノ際情報モ交換シ連絡モ取レ居ル旨答ヘ<sup>編注四</sup>三浦課長モ情報ヲ出先ヨリ威北警察部長ニ送付シ居ル旨答フ

織田參與官ヨリ司法上ノ連絡ニ付テモ一層密接ニシタキ趣旨ヲ述ヘ之ニ對シ、森岡及小河課長ヨリ單ニ共產黨員タ

不況ト支那市場ニ對スル列國ノ着目、米支借款說、聯盟ノ「ソルター」「ハース」派遣等ニ付キ説明シ治外法權問題取扱ニ關スル注意ヲ述ヘタル後日本ノ特殊地位就中滿洲ニ於ケル鮮人問題、間島問題ニ言及シ滿洲ニ於ケル鮮人問題並間島問題ト治外法權トノ關係ニツイテハ未タ具体的ニ拓務省トモ御相談シ居ラス本件ニ付テハ特殊ノ考慮ヲ要スル次第ナルニツキ支那側トノ交渉ニ際シテハ不取敢之ヲ留保スヘキ旨訓令シアルカ要ハ前述ノ如キ大勢ニ鑑ミ現實ニ即シタル解決ヲナスニ在リ警察官問題ノ如キモ右前提ノ下ニ御研究ヲ願度キ次第ナリト述ヘタリ右ニ對シ兒玉總監ヨリ撤廢ノ時期、間島ノ除外、國民投票ニツキ質問アリ其他二三應答ノ結果、兒玉總監ヨリ治外法權ノ撤廢サルヘキコト（從ツテ場合ニヨツテハ間島ヨリ警察官撤廢サルルコトアルヘキコト）乍併其ノ時期ハ本年中ト云フカ如キ殺急ノモノニハ非サルコト、右前提ノ下ニ朝鮮總督府側ニ於テモ對策ヲ講究スヘキモノナルコトト諒解セル旨述ヘタリ

編注一 「同一歩調ヲ取ル」の箇所に「歩調ヲ合スル」との

ル名義ノミニテハ單ナル暴行犯タルニ止リ我治安維持法ニ觸レサルヲ以テ是非共、朝鮮解放トカ我國ノ安寧ニ關スルモノナルヲ要シ此ノ點ヲ聽取書調製ノ際明ニセラレタキ旨申出テアリ

最後ニ治外法權ノ撤廢ト鮮人問題ニツキ谷局長ヨリ左ノ通り説明アリ

谷局長『前回協議會ニ於テ森岡局長ヨリ

第一、間島警察權ヲ朝鮮ニ委任スルコト

第二、間島總領事任用令改正

第三、撫育助長ノ擴大

ニツキ御申出アリ外務省側トシテモ第二、第三ハ御同感ナルモ第一ノ點ハ重大ニシテ支那側トノ交渉ニモ關聯シ居リ三浦課長出張中ニテモアリシ爲メ之ヲ留保セル次第ナルカ其ノ後治外法權問題カ急角度ニ進展シ來レル爲メ此ノ點ヲ考慮セスシテハ第一ノ點ハ無益トナル惧アルニ至レリ本問題ニツイテハ一應治外法權問題全般ニツキテ御説明ヲ要スヘシ』トテ大戰後ニ於ケル獨露境ノ國情ノ變化、英國勞働黨内閣ノ對支新政策、米國ノ支那市場獲得ニ關スル傳統的政策ヲ述ヘ列國ノ對支協調難、世界的

書き込み訂正あり。

編注二 「提出シ」の後に「説明スル所アリ」との書き込みあり。

編注三 「現地」の後に「在留民側」との書き込みあり。

編注四 「答へ」の後に「タル旨述べ」との書き込みあり。

383 昭和6年3月30日 在吉林石射總領事より 幣原外務大臣宛

中国人王義之關係土地差押問題の見通しにつ

き答申

機密公第二〇八號 (4月6日接受)

昭和六年三月三十日

在吉林

總領事 石射 猪太郎 (印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

支那人王義之關係土地差押ニ關スル件

(編外記入) 本件ニ關シ三月七日付亞一機密第一九號閣下御來信ヲ以テ河合鈿太郎氏代人ノ申出ニ基キ本件ヲ何時迄未解決ノ儘トシ置キ得ヘキヤノ見込答申方御來示ノ次第敬承然ル處當時

當館ニ於テハ債權者タル益民儲蓄會ニ對シ法院ヨリ王ノ土地ノ保管證書ヲ交付スルコトナリタル旨聞知シ居リ右民國九年八月八日司法部令第五四四號ヲ以テ發布セラレタル民事訴訟執行規則第七十三條ニ依ルモノノ如ク一年以内ニハ原價買戻シ出來得ル次第ナリト解セラレタルヲ以テ河合氏ノ債權確カニシテ且同氏ノ該土地ニ對スル執着相當強キモノアル以上多少ノ犠牲ヲ忍フコトニ依リ仍ホ土地權挽回ノ望ナキニ非ラス（本邦人ノ商埠地以外ニ於ケル土地入手ニ關スル種々困難ノ點ハ姑ク別トス）ト思考シ一層狀況ヲ確メタル上答申ノ手筈ト致シ置キタル間ニ新聞報道ニテ河合氏ノ死去ヲ承知スルニ至リタルカ其後王義之ヨリ館員<sup>(編注)</sup>ヘ會見ヲ求メ來リタルヲ以テ畢竟王ニ於テ河合氏ノ死去ヲ知り善後措置ニ關スル申出ヲ爲サント欲スルモノナルヘシト思考シ三月三十日之ヲ當館ニ召致シ館員ヲシテ引見聽取セシムルコトト爲シタリ

然ルニ王ハ館員ヨリノ申聞ケニ依リ<sup>(編注)</sup>初メテ河合氏ノ死亡ヲ知り困却ノ狀ヲ示シ、河合氏ニハ子息有ラルヘキヤ、子息ニ於テ引キ續キ本件ヲ處理シ吳ルヘキヤ否ヤ等ヲ尋ネ<sup>(編注)</sup>法院ニ於ケル繫争狀況ニ關シ左記ノ通り語リタル後此際再應當

約二週間前法院ニ於テ開庭、債權者益民儲蓄會ヨリ問題ノ土地引渡方（前顯民事訴訟執行規則第七十三條ニ依ルモノト解セラル）ヲ申請シ法官ハ直チニ之ヲ許可スヘキ旨ノ決定ヲ爲シタルニ依リ自分ハ

一、益民儲蓄會對長盛店ノ事件ニ付從來出庭ヲ命セラレタルコトナシ

二、一昨民國十八年中自分名義ノ吉林省密山縣所在荒蕪地ヲ保證ノ爲メ益民側ニ差入レアリ、第一ニ之ヲ處分スヘキモノナルニ之ヲ差置キ、本件問題ノ土地ニ手ヲ付ケントスルハ不都合ナリ

三、自分ハ長盛店ノ資本ノ十分ノ三ノ出資者タルニ過キサ<sup>ル</sup>ヲ以テ、負債ニ對シテモ十分ノ三ノ負擔ヲ爲セハ足ル次第ナリ

四、右土地ハ河合氏ニ抵當トシアルヲ以テ益民側ニ對シ後日河合氏ヨリ貸金返還ヲ迫ルコトアルヘク、其際益民側ハ責任ヲ取ルヤ否ヤ等ノ理由ヲ擧ケテ抗辯シ更ニ之ヲ文書ニ認メテ法院ニ差出シタル處法院ヨリハ「法ニ依リテ詮議ノ上處置スヘシ」（依法核辦）トノ批示アリタルカ其後法院ハ長盛店ノ他ノ出資者等ヲ召喚尋問

館ヨリ支那側ニ對シ書面交渉ノ取計ヲ願ヒ得サヤト申出タルヲ以テ館員ヨリ此上何等ノ措置ヲ講スルコトハ當館限リニテハ出來難キニ付折角債權者側ト和解ヲ計ルコト肝要ナルヘシト答ヘ置キタル趣ナリ

本件<sup>(編注)</sup>ハ既ニ段々申進メアル通りノ事情ニテ當館トシテハ直接法院側ニ就キ其意向ヲ確ムルコトハ些カ面白カラサル節アリ又王義之ヨリノ直接申出ニ對シテハ引續キ前述ノ如キ應待振ヲ爲スコト最モ適當ナリト思料シ居ル次第ニ付右様御承知ノ上將來河合氏側ヨリ何等申出テアリタル場合ニモ可然御申付ケ相成ル様致サレ度尙又本件今後ノ成行如何ハ遽カニ豫斷スルコト能ハス<sup>(編注)</sup>且當方ニ於テ積極的援助ノ態度ニ出テサル以上或ハ急ニ王ノ不利ニ轉回スルヤモ計リ難キモ（當館ノ支持アルトモ急速且截然タル王ノ勝利ニ歸スルモノトハ限ラレサルコト亦勿論ナリ）左記王ノ談レル狀況ヨリ察スレハ法院側ニ於テモ相當措置ニ窮シ居ルカ如キヲ以テ結局ハ債權債務兩當事者ノ妥協和解ニ依リテ解決ヲ見ルニ至ルヘキカトモ存セラルル次第ナリ

右答申旁々報告ス

記（三月三十日王義之ノ談）

シ居ル等ノ狀況竝法官ハ日本人ニ抵當ニ差入レアル點ヲモ相當顧慮シツアルヲ以テ自分ハ未タ右土地ノ保管ヲ益民側ニ移ス手續ハ完了シ居ラスト思考ス云々

（欄外記入）

本信要領河合博士未亡人ニ通知スミ

編注一 「館員ヘ會見々王ハ館員ヨリノ」の箇所に「來訪ノ際館員ヨリ右河合氏死去ノ事實ヲ」との書き込み訂正あり。

編注二 「ニ依リ初」の箇所に「タル処王ハ右申聞ケニ依リ始」との書き込み訂正あり。

編注三 「法院ニ於ケル」出來難キニ付」の箇所に「結局館員ヨリ」の書き込み訂正あり。

編注四 「ハ既ニ」又本件」まで手書きにて抹消されている。

編注五 「ス且當方」勿論ナリ」までの箇所に「サルモ」との書き込み訂正あり。

384

昭和6年4月1日

在中国重光臨時代理公使より幣原外務大臣宛（電報）

王外交部長の法権問題に關する日本への態度は妥協的態度から理想的急進的方面に変化した模様について

南京 4月1日後發  
本省 4月2日着

第三四六號(極秘)  
往電第三三五號二關シ

一、外交部長ノ法権問題ニ關スル態度ハ恰モ臨時法院問題ノ場合ニ於ケルカ如ク徹底的ニシテ日本トノ條約ハ滿期ト看做シ無効論ヲ維持スルコト何等變リナク(從テ他國カ日本ノ利益ニ均霑スルノ根據ヲ認メス)法權交涉ハ寧ロ之ヲ放任シ現狀維持ノ約束ノ如キハ四圍ノ形勢ニ依リテ自己ニ有利ニ展開セントスル術策ト認メラル本官ヨリ持出シタル問題中特ニ所謂内地開放ノ問題ニ付テハ到底我方ニ於テ妥協ノ餘地ナキ旅大還附ヲモ對償ニ要求スル次第ニテ假令右ハ交渉ノ作戰ヨリ出テタルモノトスルモ由來王正廷ノ遺口ハ「ベルサイユ」條約調印以來常ニ革命的ニシテ只今モ革命外交家ヲ以テ任シ機ニ投シテ煽動的手段ヲ弄スルコト多シ法権問題ニ付テハ當初英米ノ方針ノ保守的ナルニ鑑ミ何トカ

掛ケ行クコトノ如キハ外交専門事項ニ暗キ蔣介石等ノ考ヘ居ラサル處ナルヤモ知レス或ハ前記黨部及政府ノ根本方針ノ下ニ活躍シ居リ且理窟一遍ニ猪突シ居ルノ實情ト認ムルヲ寧ロ至當トスヘキモ右ノ如ク矢ハ既ニ弦ヲ離レタル以上追々輿論ノ策動モ亦之ニ乘スヘク茲ニ日華兩國ノ關係ハ法権問題ヨリ延テ重大ナル危機ヲ孕ムコトナルハ當然ノ歸結ナリ  
加之茲ニ注意ヲ要スルハ張學良ノ勢力カ中央ニトリテハ尊重且利用スヘキ最大ノモノニシテ滿洲ニ關シテハ蔣介石モ自ラ遠慮スヘキ點ナリ而シテ東三省ノ中央ニ於ケル經驗ナキ代表者(王家楨等)ハ滿洲ニ於ケル對日惡感情ヲ其儘運ヒ來リテ大局ヲ顧ミス策動シ日本ノ權益壓迫ノ行動ヲ以テ手柄ナリト考フル傾向無キニ非ス此ノ點ハ今後法権問題ニ關シテハ危險性ヲ增加スル原因ト思考セラル  
今日迄持越サレタル法権問題ハ遂ニ民國ニ於ケル我方基本的權益ノ問題ニ波及シ延テ日民兩國ノ利害ノ調節ハ殆ト望ミ無キコトヲ覺悟セサルヘカラサル狀況ナリ此難局ニ處シ如何ニシテ兩國ノ關係ヲ誘導シ列國輿論

シテ日本方面ヨリ展開セント極力努メタルモ其意ヲ果サス英國其他ノ態度變化ヲ來シタル今日形勢ヲ見透カシ日本ニ對シテハ妥協的態度ニ出ツルノ必要ナシト爲シ理想的急進的方面ニ變化セルモノノ如シ右ハ滿洲問題特ニ旅大問題ニ付テ之迄常ニ言辭ヲ慎ミ來レル彼カ容易ニ且露骨ニ過日ノ如キ説明ヲ爲シタルニ見テ看取セラルル處ナリ

右ノ態度ハ王正廷一己ヨリ出テタルモノナリヤ將又南京政府一致ノ方針ナリヤハ本官ノ苦心探知ニ努メタル處ナリ蔣主席カ出來得ル(限り)日本トノ良好ナル關係ヲ維持センコトニ努メ居ルハ其周圍ノ言動ニ見ルモ確カニシテ且國民政府ノ有スル將來ニ於ケル幾多ノ難關ニ鑑ミ當然ノコトナルカ法権問題ニ關シテハ孫文ノ遺訓ニ絡ミ又五月初頭ノ困難ナル國民會議ニ直面シ局面展開ノ一方法トシテ蔣主席始メ強キ決意ヲ爲セルハ從來報告ノ通ナリ王正廷ハ右方針ニ基キ活動シツツアル次第ナルニ付王ノ態度ハ其背景ノ反映ニシテ政府一致ノ方針ニ出テタルモノト認ムルヲ正當トスヘシ併シ滿洲特ニ旅大ノ問題迄ヲモ今日直ニ法権問題ニ引

ノ理解ヲ進メ行キ萬一ノ場合ニ於テモ我立場ヲ有利ナラシムヘキヤノ方途ヲ講スルハ當面ノ急務ニシテ之ニ對シ今日充分ノ決意ト準備トヲ爲スノ要アルヘシ

二、法権問題ノ日民兩國ノ主張ニ於テ地域保留ノ問題以外ニハ事項別漸進主義ノ如キハ左迄重キヲ置ク必要ナシトシテモ法權撤廢區域ニ於ケル日本人ノ居住營業ノ權利(所謂内地開放ノ問題)ハ我主張ノ根本ヲ爲スモノト認メラルル處内地開放ノ問題カ租借地ハ兎モ角租界ト兩立シ得ストノ民國側議論ハ其根據相當強キ様思ハル(往電第二六號「ランブソン」ノ談話モ同様ニシテ且内地開放ノ問題ニ付テハ英米主義ハ我主張ト觀念ヲ異ニシ居ルハ北平法權委員會末期ニ於テモ經驗セリ)此間我主張ヲ有利ニ展開センカ爲ニハ内地開放ノ主張ヲ維持スルト共ニ租界ノ返還ハ順次之ヲ辭セサルノ態度ヲ示シツツ(少クトモ事實上不要ナル租界ノ返還ニ着手ス)滿洲問題ノ特殊性殊ニ旅大租借地ニ對スル我方ノ決意ハ常ニ民國側及英米佛其他外國ニ徹底セシメ萬一ノ誤解ヲ避クルニ努メ同時ニ民國本土ニ付テハ成ルヘク民國側主張ニ對シ調和的態度ニ進ミ行クニ於テ

ハ恐ラク將來滿洲ニ關聯スル抗争ニ於テ我立場ヲ世界ニ對シ有利ニ導クヲ得ヘシ蓋シ他ノ主要國ノ態度既ニ最近ノ狀態ナリトセハ我（方）ニ於テ眞ニ世界ノ理解ヲ得ヘキ唯一ノ點ハ過去ノ歴史ニ基ク滿洲問題ヲ出テサルヘケレハナリ

三、民國側主張ノ明白ナル此際法權問題ニ對スル漸進主義ナル我方主張ヲ幾度持出スモ無益ニシテ要ハ今後如何ニ有利ニ我方立場ヲ展開シ行クヤノ點ニ在リ就テハ兎ニ角外交部長ニ於テ我方具體案ハ考慮スルコトヲ言明セル以上之ヲ利用シテ出來得ル丈問題ヲ輕クセン（ト）セハ我主義ニ關スル双方ノ主張ヲ一時保留シ保障ノ問題及法權撤廢地域ニ於ケル日本國ノ權利義務ノ問題（所謂内地開放）ヨリ漸次持出シ夫レト共ニ租界返還ニ付テ順次話ヲ進メ以テ双方主張ノ調和ニ對シ我方ニ於テ有ユル努力ヲ爲シツツアルコトヲ現實ニ表示シ一方國內及外國側ノ輿論ノ啓發ニ努メツツ進行スルコト可ト思考ス氣傲レル民國側ハ必スヤ國民黨年來ノ主張實現ニ焦リ一ニ所謂二十一條條否認問題ヨリ旅大回收ノ問題ニ突進シ來ルヘク我方ハ茲ニ至リテ黑白ヲ世界

ノ輿論ニ問フテ不利ナラサル迄ニ其立場ヲ展開シ得始メテ和戰兩様ノ手段ヲ講シ然ルヘキ時期ニ達スヘシト思考セラル

奉天へ轉電シ上海、南京へ轉報セリ

編注 本文書は憲政記念館所藏『重光葵文書』より採録した。

385 昭和6年4月(3)日 在中国重光臨時代理公使より幣原外務大臣宛（電報）

各懸案交渉の停滞は国民會議乘り切り困難なためと宋子文内話について

南京 本省 4月3日前着

第三五三號（極秘）

<sup>(1)</sup>法權問題ニ關スル外交部長トノ交渉ハ御承知ノ通ナルカ中國側ハ既ニ解決セル南京、漢口事件ニ付テモ最後の決定ヲ遷延シ居ルノミナラス電信交渉ニ付テモ既ニ「イニシャル」濟ノ佐青線ニ付テサヘ正式調印ヲ延期シ頻リニ滿洲電信交

#### 四 治外法權問題

涉ノ開始ヲ督促シ居リ之等ニ關シテハ外交部長ニ於テモ別ニ内部ニ故障アル譯ニハ非スト言ヒ居ルモ法權問題交渉ノ現狀ニ鑑ミ何等カ總テ問題カ關聯シ居ルニ非スヤトモ疑ハレタルヲ以テ主トシテ此間ノ消息ヲ探知スル爲一日宋子文ニ會見シ各種ノ問題ニ付意見ノ交換ヲ爲シタリ

先ツ本官ヨリ電信交渉遷延ノ理由ヲ夫レト無ク尋ネタルニ宋ハ貴官限リ極秘トシテ御話ストテ實ハ本件ニ付テハ新聞其他ニ於テ種々喧マシキ問題起リタレハ國民會議終了迄待ツコトナレルカ右ハ只サヘ喧シキ國民會議ヲ無恙通過シタキ希望ニ基クモノナリト説明セリ

<sup>(2)</sup>本官ハ南京事件ニ付テモ同様ノ態度ヲ執ラレテハ誠ニ當惑スルニ付問題ノ促進方考慮アリタシト言ヘルニ宋ハ濟南事件喧シクナレル爲若シ國民會議ニ於テ之ヲ攻撃スルモノアルニ於テハ政府トシテモ苦境ニ立ツヘキコトヲ懼レ居ルモノモアリト答ヘタルニ付本官ハ我南京漢口事件ノ最後の處置ヲ執ルハ中國側ハ總テノ問題ヲ法權問題ニ關聯セシメテ遷延シ反日ノ態度ニ出ツルモノニ非サルカトノ日本側誤解ヲ解クニ於テモ必要ナルヘク亦本件解決ノ次第ハ當方公表セサルノ方法モアレハ速ニ解決方考慮アリタシト言ヘルニ

宋ハ此點ニ關スル貴下ノ立場ハ自分モ充分了解シ居ルニ付蔣主席ニ對シ盡力シ見ルヘシト言ヘリ

又宋ハ債務整理ノ問題ニ付テモ國民會議以前ニ會議ヲ促進スルハ西原借款ニ對スル新聞宣傳等ニ鑑ミ困難ナルカ如キ口吻ヲ漏シタルカ右ノ如ク諸種ノ問題ノ遷延ハ主トシテ國民會議ニ對スル蔣主席及其周圍ノ意嚮ノ反映ト認メララルコトハ右宋ノ内話ニ依リ大体推測セラレタリ

尙本官ハ宋ニ對シ法（權）交渉ノ概況ヲ説明シ特ニ日本ニ對スル居住營業權ニ付租界ノミナラス租借地ノ回收其他ヲモ持出サルルコトハ殆ト解決ノ不可能ナルヲ感シ自分トシテハ甚タ當惑シ居ル旨ヲモ附加シ述ヘ置ケリ

南京上海へ轉報セリ

編注一 「ト」の次に「ト」の書き込みあり。  
編注二 「方」の箇所に「分」との書き込み訂正あり。

386 昭和6年4月13日

外務省 拓務省 協議  
朝鮮總督府  
間島問題に関する外務、拓務、朝鮮總督府第

六回協議會議事録

(昭和六年四月十三日)

時 日 昭和六年四月十三日午前十時半開會午後一時閉會  
場 所 外務省次官室  
列席者 外務省側 永井事務次官  
谷亞細亞局長  
鹽崎條約局第二課長  
三浦亞細亞局第二課長  
堀切次官  
拓務省側  
北島書記官  
小河朝鮮部第一課長  
阪谷文書課長  
朝鮮總督府側  
森岡警務局長  
穗積外事課長

議 事

三浦課長ヨリ四月七日及十日小委員會ノ經過ヲ述ヘ別紙甲案及乙案ニ付各項逐次審議ニ入ル

(一)間島ニ關スル特殊協定交渉ニ關シ先決問題トシテ執ルヘキ措置(甲案冒頭記載)

三浦課長ヨリ一ノ一般交渉トハ間島問題ニ關スル一般交渉ノ意味ニシテ治外法權ニ關スル一般交渉ニ非サル旨注意セル後各項ニ付キ説明ス

劈頭永井次官ヨリ一ノ「決意」ノ意味ニツキ質問アリ三浦課長ヨリ右字句ハ間島問題一般交渉ニ關スル訓令中ニ存スル旨ヲ答フ

堀切次官ヨリ三、四ハ特殊協定ニ關スル交渉ノ前提トシテノミナラス其ノ以前ニテモ可成早キ機會ニ於テ抗議アリ度旨述ヘ谷局長ヨリ從來機會アル毎ニ出先領事ニ於テ抗議シ居ル旨並三浦課長ヨリ早晚一括支那側ニ抗議ノ必要アル旨並本件前提條件中一、二、三、四、五ノ各項ハ何レモ間島問題一般交渉中ニ含まレ居ル旨答フ

(二)次テ谷局長ハ各項審議ニ入ルニ先チ一般の説明トシテ「治外法權ハ支那全体一律ニ撤廢スルモノニシテ間島ニ於テ地域の除外例ヲ設ケントスル趣旨ニハ非ス乍併支那全体ニ一遍ニ治外法權ヲ撤廢スルトキハ各種ノ難問續出スヘキヲ以テ東三省ニ於テハ一般鮮人問題ニツキ更ニ東三省中ノ間島ニツキテハ同地方特殊ノ事態ニツキ三重ノ考慮ヲ要スヘク譬ヘハ支那全体ニ紙ヲ張ルトスレハ其ノ

(本文)

一、一般交渉ヲ繼續シ間島ニ關スル帝國ノ關心及決意ヲ充分中國側ニ了解セシムルコト

二、中國共產黨ノ滿洲方面ニ對スル策動ニ付材料ヲ示シテ中國官憲ノ深甚ナル注意ヲ喚起シ之カ取締ニ付有効ナル手段ヲ講セシムルコト

三、滿洲在任朝鮮人ニ對スル中國官憲ノ不法壓迫ノ事例ヲ擧ケ嚴重警告ヲ發シ理由無キ壓迫手段ノ絶滅ヲ期スルコト

四、右ノ目的ノ爲我方ニ於テ蒐集シ得タル各種ノ密令ヲ一括指摘シテ中國側ノ注意ヲ喚起スルコト

五、間島地方ニ於ケル中國軍警及其他官憲ノ朝鮮人ニ對スル非行ノ事例ヲ指摘シ中國側ヲシテ軍警其他ノ素質ヲ改善シ朝鮮人ニ善政ヲ施スコトニ付充分ノ責任ヲ自覺セシムルコト

六、間島ニ關スル協定ノ交渉ハ直接南京政府ヲ對手トセス東三省當局トノ間ニ實際ノ事情ニ即シタル折衝ヲ遂ケ得ル様法權交渉ニ際シ中國側ヲ誘導スルコト

(議事)

上ニ滿洲地方ニハ第二ノ紙ヲ張り間島地方ニハ更ニ第三ノ紙ヲ張ラントスルモノナリ、從テ本件間島特殊協定モ其ノ前提トシテ支那全般ニ關スル治外法權交渉及滿洲全体ニ於ケル朝鮮人問題ニ關スル交渉ノ存在スルコトヲ御考慮ノ上御審議アリタク尙本件交渉ノ相手方ニ關シテハ前提條件第六項ニ記載ノ如ク鐵道交渉ト同様東三省當局ヲ相手トスルモノナルモ南京政府ヲ無視スルモノニハ非ス場合ニヨリ治外法權一般交渉ト合流シ南京ト聯絡シテ交渉スル必要モ起ルヘシ以上ハ自分ノ想像ナルカ、多分交渉ハ斯カル段取ヲ取ルナルヘント思考スル旨述フ

(三)次テ特殊協定ノ内容ノ審議ニ入ル(乙案)

一、國民待遇ニ關スル保障

(本文)  
帝國臣民ニ對シ一律ニ我法權ヲ撤廢スルコトヲ認ムル代ハリ中國側ヲシテ之ニ對シ中國民ト同様ニ待遇シ納稅其他一般行政上ノ處分モ中國民ト同様タルヘキコトヲ一般のニ保障セシムルコト

(議事)  
谷局長ヨリ「帝國臣民」ト記載シ「朝鮮人」トセサリシ

ハ内鮮人ヲ區別扱セサル爲ナルモ主旨ハ鮮人ニ存スル旨述ヘ「最惠國待遇ト國民待遇ノ双方ヲ記載セス國民待遇ノミ記載セルハ他ノ地域ニ於テハ最惠國民待遇ト國民待遇ト双方要求スヘキモ間島ニ於テハ特ニ立入ツタル權利ヲ得ントスルモノナルノミナラス既ニ間島協約ニ於テ治外法權ヲ撤廢シ（立會權及覆審權ヲ除キ）其代リ懇民ハ支那人同様土地所有權ヲ得ラルル旨規定セル行懸モアリ此ノ際已ムヲ得サルニ於テハ國民待遇ノミニテ甘ソスル外ナク即チ最少限度トシテ國民待遇ヲ要求セントスル趣旨ナル」旨述ヘ尙森岡局長ノ質問ニ對シ滿洲ニ於テハ最惠國待遇ヲ要求スルモノナル旨又鹽崎課長ノ質問ニ對シ國民待遇ヲ保障セシムルハ無用ノ如キモ支那ニテハ朝鮮人ヲ支那人以下ニ取扱フ悞アルヲ以テ之ヲ保障セシムルノ要アル旨答フ

二、中國側ノ裁判及行刑上ノ施設

（本文）

局子街又ハ龍井村ニ新式裁判所ヲ設ケ尙少クトモ現在ノ商埠地五箇所ニハ新式監獄ヲ設置セシメ民刑裁判ニ於テハ我領事官ニ觀審權ヲ與ヘ人命ニ關スル重要案件ニ付テ

ハ設備ヨキ爲メ居タガルモ支那ノ監獄ニハ居タガラサル旨述ヘ穂積課長ハ本協定案ハ内鮮人ヲ區別シ居ラス從ツテ邦人モ收容サルヘキ場合アルヲ指摘ス

三、土地所有權

（本文）

法權撤廢ノ當然ノ結果トシテ一律ニ私權ノ享有ヲ認メシムルヲ要スルモ特ニ土地所有權ハ完全ニ之ヲ認メシムルコト但シ内地人ニ付テハ所有權ヲ許與スルコトニ付中國側ニ於テ反對スルコトアルヘキニ鑑ミ已ムヲ得サレハ内地人ノ關スル限り大正四年條約所定ノ如キ商租權ノ形式ヲ用フルヲ妨ケサルコト尤モ此ノ場合ニハ内地人ニ對シ最惠國民待遇ヲ認メシムルコト

（議事）

三浦課長ヨリ「土地所有權ハ間島協約ニ於テ認メラレ居ルモ實際上ハ鮮人ニ對シ直ニ所有權ヲ許與セス歸化鮮人ニ限り之ヲ許與シ居ルヲ以テ間島ニ於ケル現在十二萬町歩ノ鮮人所有地ハ何レモ佃民制度ニシテ歸化鮮人名義ニテ得タル土地ヲ分ケテ貰ヒ居ル情況ナルノミナラス最近支那側ニテハ鮮人ノ土地所有ニツキ各種ノ手心ヲ加ヘツ

ハ立會權ヲ認メシムルコト右觀審權及立會權ニ付テハ期間ヲ限ルモ差支無キコト

（議事）

三浦課長ヨリ治外法權撤廢後ハ裁判沙汰多クナルヘク其場合龍井村又ハ局子街何レニテモ一ヶ所新式裁判所ヲ又現在ノ商埠地五ヶ所ニ新式監獄ヲ設ケシムルコト（從來ノヲ改善セシムルヲ以テ足ルヘシ）尙觀審權及立會權（又ハ覆審要求權）トアルハ間島協約ニ規定スル二ツノ權利ヲ徹底セシムル趣旨ナル旨述フ

谷局長ハ「本項ハ一見間島協約ニ歸ルカ如クニ見ユルモ實際ハ後出ノ如ク警察方面ニ於テ間島協約以上ニ進ミ居ル爲單純ニ間島協約ニ歸ルト云ヒ得ス殊ニ大勢ハ治外法權撤廢ニ至リツツアルヲ以テ此ノ點ハ交渉ノ際困難ナルヘク殊ニ交渉相手方カ實權者ニ似テ實權者ニ非サルヲ以テ鐵道交渉ト同様永引クモノト考ヘサルヘカラス」ト述ヘ森岡局長ノ質問ニ對シ法務顧問ヲ邦人ヨリ傭聘セシムル件ハ治外法權一般交渉中ニ含マレ居ル旨答フ

尙本件ハ監獄ノ設備ヨリモ收容者ノ取扱ニ關スル問題ナリト小河課長ノ說ニ對シ三浦課長ハ鮮人ハ日本ノ監獄ニ

ツアリ旁々之ヲ完全ニ認メシムルノ要アリ尤モ内地人ニ對シ之ヲ認メシムルコト困難ナルニ於テハ内地人ニ限り商租ノ形トシ其ノ代リ本來ノ立場ニ歸リ最惠國待遇ヲ求ムルノ趣旨ナル旨」説明ス

谷局長ハ「本件ニ關シテハ治外法權ニ關スル一般交渉ノ際滿洲問題ヲ留保シツツ行クヨリ外ナク一般交渉ノ具合ヲ見タル上ニテ本件ヲ持出ササレハ一般交渉カ不利トナル惧アリ即間島問題ヲ先議シ土地所有權ヲ得ル代リニ國民待遇ニテ甘ソスル旨持出ストキハ逆ニ他地方ニ於ケル内地人ハ最惠國待遇ヲ受クル代ハリ商租權以下ノ土地利用權ヨリ得ラレサルコトトナルヘク旁一般交渉ト本件交渉トハ相關聯セシメテ行ク要アル」旨述ヘ次テ森岡局長カ「本項ノ但書ハ内地人ノ場合ノミ言及シ居ル處鮮人カ土地所有權モ得ラレシテ國民待遇ノミヲ受クルカ如キコトナカルヘキヤ」トノ質問セルニ對シ谷局長ハ「國民待遇ヲ受ケントスルハ其ノ利益ニモ均霑スル意味ヲ御指示ノ如キ場合ニハ寧ろ現狀ヲ維持シ問題發生毎ニ外交交渉ニ讓ル方得策ナルヘク實際ニ即セサル解決ハ無益ト思惟スル」旨述ヘ森岡局長モ現在間島ニ於テハ内地人ヨリモ鮮人カ有利ノ地位ニアル旨述フ

四、中國警察制度ノ改善

(本文)

協定ニ於テハ中國警察制度ノ改善ヲ約セシムルニ最モ重キヲ置クヲ要スルコト

警察制度ノ改善ハ警察官ノ素質ノ改良、警察機關ノ充實、警察法規ノ整備、警察機能ノ練達等各項ヲ含ム處之力爲メニハ吉林省全省警務處又ハ間輝四縣各公安局等ニ我警察專門家ヲ傭聘シテ改革ニ參劃セシメ又是等當該官廳ヨリ我カ警察講習所等ニ講習生ヲ送ル等ノ方法ヲ講セシムルコト

又警察機關ノ充實ニ付テハ朝鮮人ノ多數居住スル箇所、又ハ匪賊ノ危險最モ大ナル箇所等我方ニ於テ必要ト認ムル地ニ出來得ル限り速ニ必要數ノ警察官ヲ駐派又ハ増員セシムルコト

以上ノ具體的事項ハ協定ノ体裁上之ニ掲記スルコト面白カラストセハ別ノ約定ト爲スヲ妨ケサルコト

(議事)

三浦課長ヨリ「現在巡警八月三、四圓位ノ薄給ナル爲各種ノ役得ヲ行ヒソレカ無錢飲食其他鮮人ニ對スル不法行

(本文)

中國側ニ於テ治安維持ニ當ル上ニ於テ該鐵道ノ完成ハ必須條件タルニ鑑ミ間島協約ノ規定及其後兩國間交渉ノ趣旨ニ依リ速カニ之カ完成ヲ約セシムルコト

(議事)

谷局長ヨリ「吉會鐵道交渉方ニ關シテハ鐵道交渉中新線敷設ノ項目中既ニ記載セラレ居ルコト拓務省側ニテモ御承知ノ通りニテ本件交渉ト重複スルカ如キモ實際上ノ問題トシテ如何ニ作ルカハ滿鐵ノ援助又ハ借款ニ依ルコトトナルヘク旁鐵道交渉ノ夫レト矛盾セサルノミナラス合流スルモノト思惟スル」旨説明アリ

(本文)

民會、金融部、學校、病院等我方施設ハ朝鮮人ノ生活安定及向上ヲ目的トスル外他意無キモノナルヲ以テ法權撤廢後中國側ノ管轄下ニ入ルハ已ムヲ得サルモ其ノ平穩且合法ナル業務遂行ニ對シテハ中國官憲ニ於テ不當ニ壓迫干涉ヲ加ヘサルコトヲ保障セシムルコト

(註)

爲トナツテ現ハルル爲メ素質ノ改善ニハ給與ヲヨクスル

コト第一ナリ又現在支那側警察官ニハ巡警ノ外保安隊、自衛團、緝私隊、游巡隊等各種アリ統一トレサル爲メ鮮人ニ迷惑ヲ及ホシツアルヲ以テ之ヲ統一スル必要アル旨述ヘ又堀切次官ノ質問ニ應ジ支那側當局ハ昨年六月聯

席會議ヲ三回催シ間島ニ於ケル警備問題討議ノ結果何レモ充實ノ必要ヲ認メタルモ經費ノ都合付カス其後十二月ニ入り張壽備處長吉林省政府ト相談ノ結果十二萬元(五、六萬圓)ノ支出ヲ得テ多少改善ノ跡見ユル」旨答ヘ谷局長モ「支那側ニテハ金サヘ出セハ警察官ノ日本觀光團組織ニ異議ナキ旨述ヘ居ル程ニテ本項ハ遣リ方ニ依ツテハ

實現ハ左程困難ナラス何レニスルモ日本ノ協力ヲ要スル次第ナルニ付場合ニ依ツテハ閣議ノ決定ヲ求メ現在ノ內務省ノ支那警官養成組織ヲ擴大シ度キ」旨述ヘ森岡局長ハ「南支ノ警察官ハ別トシ、間島地方ノ支那側警察官ノ養成ハ(場合ニヨツテハ外務省巡查ノ養成モ)鮮人ヲ知ル上ヨリ見テ內務省ヨリモ朝鮮總督府力適當ナルヘシ」ト述フ

五、吉會鐵道ノ完成

「民會、金融部共ニ現在ノ組織ニテハ其ノ地位甚タ不確

實ナルヲ以テ速カニ法人格ヲ具ヘシムルヲ要ス右ノ場合中國法ニ依リ中國當該官憲ノ許可ヲ受ケ之ニ登記スルヲ

要スヘキヲ以テ事前ニ其ノ形式內容ヲ整備シ中國側ニ干涉ノ口實ヲ與ヘサル様措置スルヲ要ス現在ノ朝鮮總督府直轄學校ハ法權撤廢後ハ其儘存續スルヲ許サレサルヘキヲ以テ私立學校ニ改編セララルコトトナルヘシ右ノ場合他ノ私立學校(補助書堂ヲ含ム)ト一律ニ中國教育行政ニ服スルコトトナルヘシ中國側ニ於テハ從來ノ遣リ口ニ鑑ミ或ハ之ニ對シ三民主義ニ基ク黨化教育方針ヲ強制スルコト無キヲ保セス右ハ歸化鮮人經營ノ學校ニ付テハ或ハ強イテ爭フノ必要無カルヘキモ然ラサルモノニ付テハ

一般文明國間ノ通例及我國ノ外國人學校ニ對スル監督方針ト同様中國ノ安寧秩序及風俗ヲ紊スカ如キ廉無キ限リ寬容且公正ナル方針ヲ以テ管轄スヘキコトヲ認メシムルヲ要ス之カ爲メニハ是等學校ノ教育方針及經營ノ内容等ニ於テ中國側ニ干涉ノ口實ヲ與ヘサル様整備改善ヲ加フルノ要アルヘシ

朝鮮總督府ノ直接經營ニ係ル病院ノ如キモ大体學校ニ於

ケルト同様措置スルヲ要ス

尙民會及學校ニ對スル補助金及金融部ニ對スル援助ノ如キハ之ヲ繼續スルノ必要アル處法權撤廢後依然我政府トノ關係ヲ公然繫屬スルコトハ中國側ノ感觸上面白カラサル關係モアルニ付要スレハ政府ヨリノ直接支出ノ形式ヲ避クル爲メ内部的ニ何等カノ便法ヲ案出スルヲ必要トスヘシ」

(議事)

三浦課長ハ「原案(甲案)ニハ我出先官憲ノ指導權ヲ認メシムル文句アリシモ之レハ當然出來ルコトニテモアリ之レヲ約束スルハ面白カラスト思惟セル爲メ除キタル次第ナルモ指導ハ續クル積リナルカソレニハ内部的ニ種々考慮スヘキ事項アルヘク其等ノ事項ヲ註ニ著セル」旨說明ス

此ノ時穂積課長ハ「大正十年外務省ト朝鮮總督府トノ間ニ豫算ヲ取ル場合鮮人ノ保護取締ニ關スル事項ハ外務省側ニテ又撫育助長ニ關スル事項ハ總督府側ニテ取ル諒解成立セラルモ其ノ後ノ事態ヲ見ルニ必スシモ其ノ通行ハ居ラス此ノ點ハ支那側ニ交渉スル以前ニ外務省ト總督府トノ間ニ

リ又日支相對峙シテ連絡取レサル場所モアリ旁々スル協定ノ成立ハ喜ハシキ旨述ヘ尙鹽崎課長ノ質疑モアリ「審問」ノ字ヲ除ク

(留保)

(本文)

中國官憲ノ誤解ヲ去リ朝鮮人ニ對スル公正ナル政治ヲ招徠スル爲メ朝鮮警備上絕對ニ不可ナリトスル理由無キ限リ朝鮮人ニ對シ制限的歸化權ヲ認ムルコト但シ中國官憲ニ於テ歸化ヲ強要セサルノ保障ヲ取付クルヲ要ス

(議事)

森岡局長「朝鮮人ノ歸化問題ニ付テハ從來總督府側ニ於テモ種々考究ノ次第アリ理論的ニハ異議ナキ次第ナルモ實際問題トシテ鮮人力歸化ヲ必要トスルヤ否ヤハ滿洲ニ於テモ地方ニ依ツテ異ナリ居リ又鮮内ニ於テハ歸化ヲ承認スルコトハ鮮人ヲ滿洲ニ追ヒ遣ルモノト見ル向アリ又今回法權撤廢ノ結果土地所有權カ認メラルルニ至ラハ歸化ニ依ツテ得ヘキ利益モ無クナル次第ナルヲ以テ旁歸化

充分打合せヲ遂ケ置ク必要アリト思考スル」旨述ヘ永井次官ハ「本件ハ大体ノ方針ヲ定メタルモノニシテ具體的實現ニハ尙細々セル研究ヲ要スヘキ」旨述フ

七、不逞鮮人取締ニ關スル便法

(本文)

民族主義及共產主義不逞鮮人ノ取締ニ付テハ中國側ニ充分ノ責任ヲ求メシメ剴切有效ノ方法ヲ講スヘキコトヲ保障セシムルコト

尙朝鮮總督府又ハ我出先官憲ノ指名シテ請求スル不逞鮮人又ハ不逞團ニ對シテハ中國官憲ニ於テ即時適切ナル取締ノ手段ヲ執ルヘキコトヲ約セシムルコト

又朝鮮側ヨリ遁入セル不逞鮮人ニ付テハ朝鮮官憲カ指名シテ逮捕方ヲ依頼シ來リタル者ハ中國官憲ニ於テ逮捕シ(審問後)必ス之ヲ引渡スヘキ趣旨ノ約束ヲ取付クルコト

(議事)

三浦課長ヨリ總督府ノ意見ヲ訊シタルニ對シ森岡局長ハ大体ニ於テ異議ナキ旨答ヘ尙實際ニ於テハ支那側トノ聯絡圓滿ニ行ハレ越境協力シテ犯人ヲ逮捕シ得ル箇所モア

ヲ認メストモ可ナリトノ理論モ立チ得ヘシ殊ニ法權撤廢ノ結果滿洲ニ於テ司法行政兩方面ニ於テ帝國ヨリ見離サレ其ノ上更ニ歸化ノ許與ニ依リ帝國ヨリ二重ニ見離サルルコトノ鮮内ニ於ケル影響甚大ナラサルヤヲ惧ル素ヨリ歸化ハ制限的ニシテ且各人ノ自由意思ニ基クモノナル以上理論トシテハ反對ノ餘地ナキモ、カカル理論ヲ理解セス乃至理解シテモ故意ニ曲解セントスル民族主義者流カ本問題ヲ捉フル虞モアリ旁本件ハ如何ナル機會ニ如何ナル形式ニ依ルヘキカノ點ニ歸着ス」

永井次官「警務局長ノ論ハ結局尙早論ナリヤ、又鮮人力我方ノ保護ヲ希望スルコトヲ前提トセラレ居ルカ如キ所反對ニ歸化ノ許可ニ依リ喜ンテ國籍ヲ離脱スル如キコトナカルヘキヤ」

森岡局長「尙早論ヨリモ今ヤルカ適當ナリヤ否ヤノ論ナリ、又不逞團ノ一味ハ喜ンテ歸化スヘク良民ノ中ニモ歸化ヲナス者アルヘキモ右ハ一時の現象ニシテ治マルヘシ故ニ問題ハ滿洲ニ於ケルヨリモ鮮内ニ於ケル影響ノ點ニシテ而シテ此ノ點ハ今日ニテモ十年前先キニテモ同様タルヘク旁今日迄ハ尙早論ナリシモ現在ニ於テハ或ハ此ノ機會ニ

實行スルカ可ナラスヤトモ考ヘ居リ此ノ點ヲ歸鮮ノ上篤クト研究シ度ク此ノ趣旨ニテ本件ヲ留保セル次第ニシテ別ノ意味ニテ留保セル次第ニハ非ス」

谷局長「只一言申上度キハ本件ハ此機會ニ於テ必ス持出サルヘク何レナリトモ應答スルノ用意ヲ要スヘシ」

森岡局長「若シ歸化ヲ認ムルコトトスレハ、是非トモ支那側力強要セサルコトノ保障ヲ取付クルコト肝要ニシテ支那側トシテハ土地所有權ヲ認メシ鮮人ニ對シ必ス歸化ヲ強要スルニ至ルヘシ」

谷局長「歸化ト治外法權撤廢トカ理論上無關係ナルハ警務局長御説ノ通ナルモ日支間ノ不自然ナル關係ヲ一掃セントスル此ノ際本問題ノミヲ遺スコトノ可否並國籍法ノ施行ニヨリ鮮人モ内地人ト同一ノ境遇ニ置カルコトトナルヘキ點ハ考慮ヲ要スヘシ鮮内ニ於ケル愚昧ノ徒ヲ如何ニ指導スヘキヤハ朝鮮政治ノ問題ナルヘシ」

森岡局長「國籍法ノ施行ノ結果鮮人モ内地人ト同一ノ地位ニ置カレ從ツテ優遇サルルコトノ議論モ立チ得ルモ、鮮内思想團體ノ今日迄ノ態度ニ鑑ミ歸化ニヨリ鮮人ヲ滿洲ニ追出シ愈國土ヲ取ル考ナリト宣傳スルニ至ル悞アリ昨

フヘク其ノ上歸化許可トナランカ其ノ時ノ拍子ニ依リ何ソテモカテモ支那ニ歸化セストモ限ラス故ニ本件ハ單ニ朝鮮政治ノ問題タルニ止ラス均シク外交問題タリ」

森岡局長「歸化問題ニツイテハ總督府内ニ於テモ從來内務局ハ遣テモヨイト考ヘ警務局ハ尙早論ナリシカ最近ハ何レモ暫ク推移ヲ觀ルコトニ一致シ居レリ」

穗積課長「從來反對論ハ不逞鮮人取締上ノ不便カ主タル理由ナリシ處現在ニテハ何ニカ鮮人ノ眞ノ幸福ナリヤノ點ヲ主眼トシテ研究シツツアリ」

小河課長「昭和三年鮮内支那人逆殺事件善後措置ニツキ外務、拓務、朝鮮、參謀本部各關係當局會合ノ際歸化問題討議セラレタル處其ノ時ハ歸化ヲ認ムルコト不穩當ナリトセラレ（ソレモ外務省側ノ御意見ニテ）ソレカ本件ニ關スル最後ノ打合トナリ居ルト記憶ス」

三浦課長「其ノ時ノ外務省ノ意見ハ間島ト滿洲トヲ區別シ間島ニ於テハ善良ノ分子カ歸化シ惡イ分子カ殘ルト云フ理由ナリ」

九、我警察機關ノ撤退  
(本文)

年拓務省ニ於テ歸化問題討議ノ際鮮内排日新聞中ニモ贊成論アリシ爲メ内地ニテハ朝鮮人ハ歸化贊成ナルカノ如ク誤解セル向アル處右朝鮮新聞ノ論ハ表面ノ論ニシテ内心ハ日本政府ノ羈絆ヲ脱シ居ル好機會ナリトスル捨鉢的態度ニ外ナラス混入ツタ問題ナリ」

谷局長「太平洋調査會ニ於ケル鮮人代表モ何故日本ハ鮮人ノ歸化ヲ認メサルカヲ訴ヘ又金三民カ永井政務官ニ寄せタル長文ノ書翰中ニモ朝鮮内部ニ歸化反對アリト云フハ事實ニ反スル旨述ヘアリ大体ニ於テ一視同仁ヲ欲スル向多カラサル無キヤ」

森岡局長「識者中就中アメリカニ行キタル連中ニハ眞面目ニ内地人ト同シ「レベル」ニ置カレンコトヲ欲スル向アリ」

穗積課長「鮮人ハ事大思想強ク日本ニ着クカ支那ニ着クカ其時ノ勢ノ強キモノニ着クヲ得ト考ヘ旁々從來ハ日本ト離ルルコトヲ何ンダカ損ト考フル向アリタリ然ルニ明治四十二年アレ丈ケ騷イテ第一ノ脊負投ヲ喰ヒ大正十一年日本ノ勢力カ延ヒルト思ヒシニ第二ノ脊負投ケヲ喰ヒタリト思考セシ矢先治外法權撤廢トナレハソレ離シタト考

間島ニ於ケル治安ノ現状及中國官憲ノ保安能力ニ鑑ミ法權撤廢ト共ニ即事且無條件ニ我警察機關全部ノ撤退ヲ許ササルヲ以テ相當期間現状維持ヲ認メシムルコトヲ要ス

(註)

「右期間ハ中國側ニ於テ警察其他ノ制度ヲ改善充實シ治安維持ノ責任ヲ執リ得ルニ至ル迄トシ就中吉會線ノ完成ヲ以テ必要條件トス

右期間中我警察機關全部ノ現状維持ヲ認メシムルコトヲ原則トスルモ間島問題ニ關スル一般交渉ノ行懸上已ムヲ得サル場合ニハ三分署中其ノ存置ノ必要最モ少ク且中國側警察改善ノ實舉リタル箇所ヲ限り撤退スルコト

(議事)

谷局長「本項ハ過度便法トナルヲ可トス尙我方撫育助長施設ノ變更ニ付テモ本便法ニ準シテ考フルコトトシ從ツテ我警察官ノ在ル間ハ助長施設ニ干與スルコトトナルヘシ」

穗積課長「撫育機關ハ警察ニ比シ弱キモノナルヲ以テ準備出來サル内變更スルトキハ支那側ニ押サル悞アリ旁是非トモ警察官ノ現状維持サルル限リ撫育機關モ現状維持

スルコトト致度」

三浦課長「我方警察機關ノ存スル間ハ支那側ヨリ押サル心配ナカルヘシ從ツテ其ノ必要ナカルヘシ」

(本件過渡期間中撫育施設モ警察機關ト同様現狀維持トスヘキヤ否ヤノ點ハ補足的の研究ニ讓ルコトトス)

尙森岡局長ヨリ現狀維持ノ意義ニ關シ右現在ノ人員ヲ其儘維持スル意味ノミナラス一旦治安紊レタル場合ハ増員スルコトヲモ含ムモノナリヤトノ質疑ニ對シ谷局長ヨリ然ル旨答ヘ又鹽崎課長ノ質問ニ對シ谷局長ヨリ警察法規モ日本ノ法規ノ適用サルヘキ旨答ヘ

最後ニ森岡局長ヨリ、間島警察權ノ朝鮮總督府委任方ニツキ警察官ノ失業問題トモ併セ是非考慮アリ度キ旨述ヘ之ニ對シ永井次官ハ治外法權撤廢ヲ前ニシテ急ニ變ツタコトヲ爲スハ動搖ヲ起ス悞アルヘキ旨述ヘ何レニスルモ警務局長ノ御申出ハ充分考慮スル旨附言セリ

(別紙甲案、乙案ハ小委員會記錄ニ添附)

編注一 「一般」の箇所に「ノ全般的」との書き込み訂正あり。

編注二 「シ」の箇所に「ク尚今後ノ形勢如何ニ依リテハ前

記間島ニ關スル一般交渉カ自然全地ニ關スル特殊交渉トナルコトアルベシ」との書き込み訂正あり。

編注三 「著セ」の箇所に「掲ケタ」との書き込み訂正あり。

編注四 「問」の後に「後」との書き込みあり。

編注五 「得シ居」の箇所に「得」との書き込み訂正あり。

編注六 「右」の箇所に「ハ」との書き込みあり。

編注七 「フ」の箇所に「へ」との書き込み訂正あり。

387 昭和6年4月15日 在中国重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)

漢口租界に對シ具體的奮還運動あれば如何に防  
ぐべきか考究すべきとの仏国公使談話について

上海 4月15日後発  
本省 4月15日後着

第三八九號

十四日南京ニ於テ佛國公使ニ會見同公使ノ各種交渉説明左  
ノ通

法權問題ニ付テハ其後發展ナク唯何等主要點ニ觸レサル事

388 昭和6年4月17日 幣原外務大臣より 在中國各公館長宛(電報)

各館管轄内における中国の裁判所、監獄及び  
警察の現状に關シ査報方訓令

本省 4月17日後4時47分発

合第二三九號(暗)

貴館管内ノ中國裁判所、監獄及警察ノ現狀ニ付左記諸項ニ  
關シ成ル可ク詳細調査ノ上至急郵報相成度シ

第一、裁判所

(一)新式法院ノ所在地(一九二六年治外法權委員會以後新設  
ノモノハ其ノ點明示スルコト)其構成(所屬裁判官ノ數  
等)

(二)裁判官ノ俸給其ノ他ノ待遇

(三)裁判官ノ素質教育程度

(四)縣知事法廷ノ所在地

(五)司法運用特ニ裁判ノ獨立ニ關スル一般の考察、治外法權  
委員會以後特ニ目立タル改善ノ實例及不當裁判ノ實例

(六)其ノ他參考事項  
第二、監獄

#### 四 治外法權問題

項ニ付外交部當局ト意見ノ交換ヲシタルノミ租界及租借  
地問題ハ政府トシテ其回收ニ應スルコト能ハス唯臨時法院  
ハ共同租界ノ例ニ依リ還附スルコトトナリ居レリ尙同公使  
ハ漢口租界ニ對スル佛國政府ノ態度ニ付日本政府ニ於テ幾  
分ノ不安アルカ如キ報道ニ接シ居ル處佛國政府ノ前記意嚮  
ハ在本邦佛大使ノ内報ニ據レハ佛國政府ハ三月十一日附ヲ  
以テ本電記載ノ如キ同國政府ノ方針ヲ在支佛國公使ニ訓令  
シタル由確定シ居レリ但自分トシテハ若シ漢口租界ニ對シ  
英國ニ對スルト同様ノ具體的奮還運動アレハ如何ニシテ之  
ヲ防クヘキカ考究セサルヘカラス自分ハ頗ル心配シ居ルモ  
ノナリ日本側ハ如何ナル準備ヲ有スルヤト尋ネタルニ付本  
官ハ日本ニ於テハ民國側ニ於テ妥協的態度ニ出ツル場合ニ  
ハ又同様ノ態度ヲ以テ之ニ「ミート」スルノ用意アルモ暴  
力ヲ受入ルルコトハ絶對ニ不可能ナリ租界還附ノ儀ハ聞知  
シ居ラス若シ中國側カ暴力ヲ以テ回收ヲ計ルニ於テハ我防  
備兵ハ之ニ抵抗スルヲ躊躇セサルヘシ但暴力ヲ以テ回收ス  
ルカ如キハ目下ノ所先ツナカルヘシト答ヘタルニ佛國公使  
ハ全然同感ナリト挨拶シ居タリ

北平、漢口、奉天へ轉電シ上海、南京へ轉報セリ

- (一) 新式監獄所在地（法權委員會以後設置ノモノハ其ノ點明示スルコト）其ノ種類別（普通監、累犯監、少年監、外役監等）及其ノ規模（囚人收容力等）
- (二) 新式監獄ノ建設中又ハ建設ノ計劃アルモノハ其ノ規模及進捗ノ程度
- (三) 舊式監獄ノ所在地及其ノ規模
- (四) 司獄官其ノ他獄吏ノ俸給其ノ他ノ待遇
- (五) 司獄官其ノ他獄吏ノ素質、教育程度等
- (六) 監獄ノ設備、囚人ノ待遇等ニ關スル一般考察
- (七) 其ノ他參考事項

第三、警察（行政警察及司法警察ヲ含ム）

- (一) 警察制度ノ組織
- (二) 警察ノ經費
- (三) 警察署ニ附置スル留置場ノ狀況
- (四) 警察官ノ數
- (五) 警察官ノ俸給其ノ他ノ待遇、任用、賞罰等
- (六) 警察官ノ職務執行ニ關スル制度及運用
- (七) 警察官ノ規律及能率
- (八) 軍憲ト警察トノ關係

上海 4月24日後発  
本省 4月24日後着

第一七五號

貴電合第二三九號ニ關シ

御來示ノ如キ各項目ニ付詳細ナル調査ヲナサントセハ中國側法院監獄警察等ニ付一々實地ニ取調フル必要アル處法權交渉カ世人注視ノ的トナリ國民會議ノ開催モ目睫ノ間ニ迫リ居ル今日在支各館カ本件調査ヲ一律ニ且公然ト開始スルカ如キハ相當「デリケート」ナル問題ニシテ場合ニ依リテハ中國側一流ノ惡宣傳ニ利用セラルル虞アリ又中國側ニ感知セラレサル様内密且慎重ニ調査ヲ進ムルトセハ勢ヒ相當ノ日子ヲ必要トシ調査又完全ヲ期シ難ク御來示ノ如ク詳細且迅速ニ本件調査ヲ取り行フコト困難トナルヘキ處當方調査遂行上ノ都合モ之アリ此ノ點ニ關スル本省ノ御意嚮至急何分ノ御來示相仰キ度シ

北平、奉天、天津、青島、漢口、廣東、南京ニ轉電シ堀内ニ轉報セリ

(九) 其ノ他參考事項

- 間島、管下各分館へ轉電アリタシ
- 奉天、在滿各館（間島各館ヲ除キ赤峰ヲ含ム）へ轉電アリタシ
- 天津、張家口へ轉電アリタシ
- 青島、山東各館へ轉電アリタシ
- 漢口、九江、鄭州及上流各館へ轉電アリタシ
- 上海、蘇州、杭州、南京、蕪湖へ轉電アリタシ
- 福州、厦門、汕頭、廣東へ轉電アリタシ
- 雲南

編注 「但シ在華公使（館及在上海代理）公使ヲ除ク」と  
の但し書き有り

389 昭和6年4月24日

在上海村井総領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

中国司法制度の調査を在中國各公館が一律公然と開始するは相当デリケートな問題である  
ため本省の意向來示方請訓

390 昭和6年4月25日

在奉天林総領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

中国側司法官中に我が方の調査に便宜供与する者もある状態について

奉天 4月25日後発  
本省 4月25日後着

第二七五號

貴電合第二三九號調査ニ關スル上海發閣下宛電報第一七五號ニ關聯シ當館ニ於テハ數日中ニ調査完了ノ豫定ナルカ奉天ノ關スル限り上海ニ於ケルカ如ク何等支那側ノ惡宣傳ニ利用セラルル虞ナク寧ロ支那側司法官中ニハ現制度及施設ノ不完全ト司法官待遇ノ不善等ニ對スル不平ヨリ暗ニ日本側ヨリ之等ノ點ヲ指摘シテ支那政府ノ反省ヲ促サントヲ希望スルカ如キ口吻ヲ洩シ何等憚ル所ナク我方ノ調査ニ便宜ヲ供與スルモノアル状態ナリ御參考迄

公使ヨリ上海へ轉電アリ度シ

391 昭和6年5月1日

幣原外務大臣より  
在上海村井総領事宛（電報）

中国司法制度調査は中国側憲宣伝に利用され  
ず目立たぬ方法により調査方訓令

本省 5月1日後6時36分発

第五九號(暗)

貴電第一七五号ニ関シ

中国側憲宣傳ニ利用セラレサル様然ル可キ目立タサル方法  
ニ依リ御調査アリ度シ  
本電貴電ノ通り轉電アリ度シ

392 昭和6年5月5日

在中国重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

間島在住朝鮮人の土地所有権享有の根拠問合せ

上海 5月5日後発

本省 5月5日後着

第四二六號

我方ニ於テハ間島條約ニ依リ同地方ニ於ケル朝鮮人ノ土地  
所有權ノ享有ヲ認ムルモノトノ主張ナルコト累次ノ貴電及  
方針案等ニ依リ明カナル處右ハ同條約第四條第一項「清國  
官憲ハ右韓民ヲ清民ト同様ニ待遇スヘク云々」及第五條

「韓民所有ノ土地家屋ハ清國政府ヨリ清國人民ノ財産同様  
完全ニ保護スヘシ云々」ノ規定ヲ根據トスルモノナリヤ右  
ノ根據ハ條約ノ解釋上薄弱ナルヤニモ認メラルル處其他ニ  
條約慣行等何等カノ根據アル次第ナリヤ當方參考迄何分ノ  
儀御回示ヲ請フ

393 昭和6年5月13日

幣原外務大臣より  
在中国重光臨時代理公使宛(電報)

間島在住朝鮮人の土地所有権享有に関する根

拠について

本省 5月13日後8時16分発

第一六七號(暗)

貴電第四二六號ニ關シ

間島在住朝鮮人ノ土地所有權ニ關スル明文上ノ根據ハ御來  
示ノ間島協約ノ兩条文ニ求ムルノ外無キモ同協約締結當時  
ノ精神ニ鑑ミルニ間島在住韓民既得ノ權利財産及事業ヲ清  
國ヲシテ確認セシメ之カ保護ノ保障ヲ取付クルコトヲ条件  
トシテ同地方ノ領土權ヲ清國ニ讓リタル次第ニシテ同協約  
第五條冒頭ハ土地及家屋ノ所有權カ韓民ノ既得權タルコト

ヲ確認シタルモノニ外ナラス而シテ右既得權ヲ將來來住ス  
ヘキ朝鮮人全部ニ對シテモ及ホスヘキモノナリヤ否ヤニ付  
テハ明瞭ナル規定ヲ缺クヲ以テ条文上ノ解釋トシテハ同協  
約第四條第一項「右韓民ヲ清民ト同様ニ待遇スヘク云々」  
ノ規定ヲ根據トスル外致方無カルヘキモ將來ニ於テモ從來  
同様朝鮮人全般ニ土地ノ所有ヲ認ムルノ趣旨タリシコトハ  
協約交渉當時ニ於ケル兩國委員ノ應酬ニ關スル記錄並其後  
ニ於ケル支那側ノ態度ニ照ラシ疑無キモノト認メラル現ニ  
大正四年日支條約締結後我方ニ於テ間島協約ノ一部カ右條  
約ニ依リ失効ヲ來スモノナリトノ主張ヲ執リタルニ對シ支  
那側カ同年九月十日附ヲ以テ在支小幡公使ニ致シタル外交  
部覚書中「間島雜居区域内ノ朝鮮人ハ日韓併合後日本國國  
民タルモ他ノ日本人トハ異リ特殊ノ權利ヲ有シ義務ヲ負フ  
モノナリ即チ日本國國民ハ南滿ニ在リテ僅カニ土地ヲ商租  
シ得ルニ過キササルニ朝鮮人ハ間島雜居区域内ニ在リテハ土  
地ヲ所有シ得ルヲ以テ朝鮮人カ他ノ日本人ト異リ支那ノ法  
權ニ服スト鮮シテモ何等不当ナル所ナシ」云々ノ一項アル  
ニ徴スルモ支那側カ朝鮮人ノ土地所有權ヲ認メ居タルコト  
一點ノ疑無ク又間島ニ於ケル實際ノ慣行ヲ見ルモ右新條約

成立後我方ニ於テ間島協約一部失効説ヲ主張シテ以來支那  
側ニ於テハ歸化鮮人ニ非サレハ土地ノ所有ヲ許容セサルノ  
態度ニ出テタルモ右ハ地方官憲ノ事務取扱上ノ手心トシテ  
一方的ニ行ハレタル所タルニ過キス現在地方ニ依リテハ非  
歸化鮮人ニ對シテモ何等支障無ク土地ノ所有ヲ認メ之ヲ登  
記セシメ其權利保全ノ途ヲ與ヘ居ルモノ尠カラス又非歸化  
鮮人カ歸化鮮人名義ニテ土地ヲ獲得スル場合(所謂僱民制  
度)ニ於テモ支那官憲ニ於テハ僱民ノ權利ヲ認メ判例上モ  
僱民ノ所有權ヲ確認シタル例稀ナリトセス  
以上ノ次第ナルニ付朝鮮人ノ土地所有權ニ付テハ貴見ノ通  
リ條約ノ明文上論據聊カ薄弱ナルヤノ嫌ナシトセサルモ実  
際上之ヲ主張シ得ヘキ根據ハ決シテ乏シカラサル次第ナリ  
尚詳細ハ別途郵送スミナル間島問題調書ニ就キ御考究アリ  
度

394 昭和6年5月18日

在間島岡田總領事より  
幣原外務大臣宛

間島地方在住の朝鮮人に限り当分の間領事裁

判權承認との吉林省政府訓令について

機密第五三二號

(5月25日接受)

昭和六年五月十八日

在間島

總領事 岡田 兼一〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

間島地方治外法權問題ニ對シ中國側ノ訓令ニ關スル件  
(本館署長報告)

本件ニ關シ諜知シタル處ニ據レハ吉林省政府首席張作相ハ日本ノ間島地方ニ於ケル特殊の關係ニ鑑ミ一律ニ法權回收ノ困難ナル事情アリトナシ之カ對策ニ付過般隷下各機關ニ宛訓令ヲ發シタル趣ニテ延吉市政籌備處長張書翰ハ更ニ左記譯文要旨ノ如ク所屬一體ニ對シ轉令シタリト何等御參考  
迄

記

吉林省政府首席ノ内訓ヲ奉スルニ我カ國民ノ宿望タリシ民國對列國トノ間ニ締結セル不平等條約ノ一切廢棄實現ニ就テハ民國革命以來國民舉ツテ之ヲ期待シ各地ノ革命闘士ハ其促進ヲ謀ルカ為ニ藩閥政治ノ排除其他ニ多大ナル犠牲ヲ拂ヒタル結果今日ノ國民會議ニ於テハ我國民ハ堂々ト政治

在中公使、北平首席、奉天、吉林、哈爾濱、長春、鐵嶺、安東、通化各總領事、領事

朝鮮總督、咸北、咸南、平北各知事、間島派遣員、關東廳警務局長

朝鮮軍、第十九師團兩參謀長 朝鮮憲兵隊司令官

羅南憲兵隊長 延吉連絡班

管下一般

~~~~~

395 昭和六年六月二十四日 在濟南西田(畊一) 總領事より  
幣原外務大臣宛

東拓對濟南電話公司訴訟事件は高等法院で東  
拓側の全面敗訴となった旨報告

機密第二七五號 (7月4日接受)

昭和六年六月二十四日

在濟南

總領事 西田 畊一〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

東拓對電話公司訴訟事件ニ關スル件

本件ニ關シテハ屢次報告ノ通りナル處其後本月十六日最終

#### 四 治外法權問題

經濟軍事上ノ意見ヲ開陳シ殊ニ我カ國辱タル不平等條約ノ一切廢棄實現ニ就テハ強硬ナル外交ニ依リ諸外國モ法權撤廃ヲ餘儀ナク承認シ獨リ日英兩國カ之ニ反對シ交渉未タ進陟セサルモ何レ中央政府ハ断乎トシテ法權撤廢ヲ實現スル計劃ナルモ滿洲殊ニ間島地方及黑龍江省一部ニハ韓民ノ居住者多ク間島協約ハ滿蒙條約ノ内規的協定ニシテ本條文ハ不平等ノ意味ニ解セラレス民國ハ暫ク之ヲ雜居地トシテ韓人ノ自由居住ヲ認メ滿蒙條約上ノ權利ハ韓人ニハ之ヲ與ヘス唯雜居地韓民ハ我法權ニ照シ我國民同様ノ取扱ヲ為シ間島ヲ限ツテ日本ノ特殊關係ニ鑑ミ當分領事裁判權ヲ認メ韓人ニ對スル保護取締ヲ嚴ニシ極力日本側ノ施設ヲ阻止シ時機ヲ見テ何等カノ辨法定定ノ上解決スルコトニ決定シタルニ付各官ハ右様御諒察ノ上韓民ノ保護取締ヲ嚴ニスルト共ニ嚴密日本側ノ行動ヲ視察シ交渉資料ノ蒐集ニ努メラレタシ云々

右訓令ス  
中華民國二十年五月五日  
延吉市政籌備處長 張 書 翰  
本信寫送付先

辦論アリ全月二十二日愈々本件ノ判決アリタルカ結果ハ別紙判決書主文寫ノ通り

一、原判決ノ被告濟南電話公司カ連帶シテ原告ニ償還スヘキ邦貨四十二万圓及其ノ利息並ニ訴訟費用負擔ノ部分ハ均シク變更ス

二、第一審ニ於ケル被控訴人ノ前項ニ關スル請求ハ之ヲ棄却ス

三、被控訴人ノ假執行申請ハ之ヲ棄却ス

四、第二審ノ訴訟費用ハ被控訴人ノ負擔トストアリテ全然東拓側ノ敗訴トナリタリ

尙ホ最高法院ニ對スル控訴期限ヲ二十日間以内トセリ  
右不取敢報告ス

本信寫送付先

代理公使 北平 青島 天津 南京

(別 紙)

主 文

原判決關於令被告濟南電話公司連帶償還原告日金本洋四十二萬元及其利息並負擔訴訟費用部分均予變更

被上訴人在第一審關於前項之請求駁斥  
被上訴人之假執行聲請駁斥  
第二審訴訟費用由被上訴人負擔

396 昭和6年6月24日

在局子街田中副領事より  
幣原外務大臣宛

商埠地在住朝鮮人に対する中国側の法権行使  
への抗議と我が方対応について

機密第二〇四號

(7月2日接受)

昭和六年六月二十四日

在局子街 副領事 田中 作〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

商埠地居住鮮人ニ對スル中国側法権行使ニ付抗議ノ件  
近來中國側ハ獨リ我方警察官ニ對シテノミナラス金融部民  
會等施設職員ニ對シテモ機會アル毎ニ何等惡名ヲ附シ引致  
拘禁セントスル計劃アルヤノ聞込アル折柄本月三日延吉縣  
公安局ニ於テ當地商埠地居住金融部雇員朴永植ヲ共產黨嫌  
疑(囑呀<sup>ウチヤ</sup>河金融部出張所書記孫弘基ヨリ朴永植ニ宛テ「昨  
年涼水泉子ニテ會飲セル一週年紀念トシテ近ク局子街ニ赴

等我方施設鮮人職員等ヲ中國側ニ於テ引致拘留シタル全様  
事件ノ經過ニ就キ考察スルニ素ヨリ中國巡警ノ態度横暴ナ  
ルニ因ルコト勿論ナルモ我方職員ニ於テ中國巡警ニ對シ往々  
作威又ハ反抗の態度例令ハ金融部又ハ民會ノ職員タル日本  
人ニ對シ中國側ノ手出ハ不都合ナリ云々ノ如キ放言ヲ敢テ  
スル爲メ彼等巡警ノ感情ヲ著シク害スルコトモ亦主タル一  
因ニシテ今回朴永植ノ引致セラレタルモ全ク平素ノ此種言  
動ニ因リ豫テ睨マレ居タルモノノ如シ斯クテ巡警等モ亦此  
等鮮人ヲ敵視シ終ニ本件ノ如ク日本側ノ走狗ヲ打倒スヘシ  
ト叫ハシメ終ニ不覺ノ強制力ヲ加ヘラレルニ至ルモノト認  
メラレ且ツ最近中國側ノ對日態度動モスレハ軌道ヲ脱セン  
トスル形勢アル此際民會、金融部職員等ハ事ノ大小ニ論ナ  
ク徒ニ中國側ノ惡感ヲ招來スルカ如キ無益ノ言動ハ絶体之  
ヲ慎ミ此等巡警トハ平素寧ろ接近シ私交ヲ敦フスル等ノ方  
法ニ依リ事件惹起ヲ豫防スル必要アルニ付此點ニ關シ充分  
戒心方管下職員一般ニ通達シ置キタリ  
右報告ス  
本信寫送付先 問島、奉天、吉林、琿春、頭道溝、百草溝

四 治外法権問題

クニ付軍資金澤山準備シ置ケ一夜會飲セン」トノ意味ノ戲  
文句アリタル書信ヲ途中中國兵ノ爲メ使者ノ懷中ヨリ發見  
セラレタルニ因ル)ヲ以テ引致拘留シ一度保證ヲ立テ釋放  
シタルモノヲ十三日再ヒ引致法院へ移送セル事實アリ依テ  
延吉市政籌備處長ニ對シ商埠地居住帝國臣民ニ對スル法權  
行使及我方施設職員ニ對スル故意的強制力行使ノ不當ニ就  
キ嚴重抗議シ朴ノ釋放ヲ要求シタル處朴永植ハ商埠地居住  
者ナルモ商埠地外ニ土地ヲ所有セル懇民ナレハ發信者タル  
囑呀<sup>ウチヤ</sup>河金融部孫弘基ヲ一應取調ヘタル結果ニ依ラサレハ釋  
放ヲ言明シ難シト稱シ容易ニ我方屢次ノ要求ヲ容レサルノ  
ミカ更ニ孫弘基ヲモ引致セントシ既ニ巡警ヲ囑呀<sup>ウチヤ</sup>河ニ派シ  
張込ミ居ル趣全地分署長ヨリ報告アリタルヲ以テ十八日籌  
備處長ニ對シ朴ノ商埠地外土地所有如何ハ問題ニアラサル  
モ全人ハ商埠地外ニ土地ヲ所有セス今日迄ノ不法ハ敢テ追  
窮セサルカ此上法権行使ヲ繼續スルコトハ看過シ難ク場合  
ニ依リテハ已ムヲ得ス適當ノ手段ヲ執ル外ナシト通告シ成  
行觀望中朴ハ二十二日午後漸ク釋放サレタルヲ以テ本件解  
決ヲ籌備處ニ通告シ尙ホ孫弘基ニ對スル手配ヲ解除シ再ヒ  
問題ヲ惹起セサル様注意シ置キタリ尙ホ從來金融部、民會

397 昭和6年6月27日

在局子街田中副領事より  
幣原外務大臣宛

問島在住朝鮮人に対する国民政府、東北当局  
の対応に關し新任延吉県長の内話について

機密第二〇九號

(7月7日接受)

昭和六年六月二十七日

在局子街 副領事 田中 作〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

新任延吉縣長ノ對問島問題内話ニ關スル件

新任延吉縣々長啓彬二十六日挨拶ノ爲メ來館ノ序ヲ以テ本  
官ヨリ問島最近ノ情勢ヲ説明シ就中中國側ノ商埠地内居住  
本邦人ニ對スル裁判權行使及我方警察官ノ所謂商埠地外行  
動阻止ノ不法ハ常ニ紛争ノ中心ヲ成スヲ以テ之ニ關シ注意  
ヲ喚起シ且ツ所見ヲ質シタル處全縣長ハ

一、日本ハ問島ヲ以テ特種地帯扱セントスルモ國民政府ノ  
訓令内容ハ此種區別ヲ許ササルモノアリ

二、東北省當局ノ對日問題處置振りハ其都度便宜主義ニ則  
ル即チ東北省政府及南京政府ノ訓令ヲ使分ケツツアリ  
三、商埠地内居住鮮人ニ對スル裁判權行使問題ニ關シテモ

政府ノ訓令以外一般輿論トシテ日本カ商埠地外ニ於ケル法權行使ヲ廢セサル限リ中國側ノ商埠地ニ於ケル全一行動モ亦已ムヲ得ストノ主張アリ

其他延邊文武官憲主腦者皆當地ニ駐在シ其他問題毎ニ輿論強ク縣長トシテ頗ル困難ナル立場ニ立ツコトアリ等ノ事情ヲ述ヘタルヲ以テ此際法律論ノミヲ以テ一切ヲ律スル事ハ面白カラス問題ノ紛糾ハ總テ一方の見解ニ依リ實力の行動ヲ敢テスルニ因ル次第ヲ述ヘ今後縣長ト本官ニ於テ腹藏隔意ナキ意見ヲ交換シ問題解決ニ善處スルコトトセリ尙ホ東拓關係ノ土地強制管理問題ニ關シ今日迄ニ既ニ縣ニ於テ華洋裁判ニ依リ判決執行ノ土地ハ引續キ縣ニ於テ管理（法院ニ移管スルコトハ主義上同意シ難キノミナラス實際管理及東拓ノ收益上不利不便多シ）方ヲ希望シ置キタリ  
本信寫送付先 在華代理公使、北平首席  
問島、奉天、吉林、頭道溝、琿春、百草溝

398 昭和6年7月(7)日 在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)

租界問題を含む法權問題交渉の停滞により日

トナリテハ急速ニ進展ヲ見得ス内地開放及滿洲問題等ニ絡ミ極メテ重大ナル局面ニ押詰メラレ之等ノ問題ヲ中心トシテ幾多附帶的事件モ手傳ヒ目下ノ處日支兩國ノ關係ハ漸次惡化シ行クモノトノ覺悟ヲ要シ之ニ向ツテ準備ヲ進ムルノ要アリ

二、右ノ如キ兩國關係ノ特ニ重要問題ニアラサル諸問題ニ付テハ日常幾多ノ懸案アリ之ニ對シテハ我方ノ要求ニ係ル案件寧ロ多數ニ上ル際ナレハ中央地方ニ於テ空氣ノ惡化ヲ出來得ル丈ケ避ケツツ用意周到ニ事務ノ進行ニ便スルヲ要ス而シテ民國側ノ要求ニ係ル問題ニシテ我方ノ應シ得ルモノニ付テハ出來得ル丈ケ努力シテ好意ヲ示シ以テ彼我ノ疏通ヲ心掛ケ大局ノ維持ニ便スルヲ要スヘシ(此意味ニ於テ財務顧問ノ問題、厚田丸事件、青島測候所ノ問題ノ如キ至急解決ヲ要スル事柄ト思考ス) (續ク)

編注 以下に続く文書見当たらず。

399 昭和6年7月18日 在濟南西田總領事より 幣原外務大臣宛

中兩國の關係は漸次悪化の傾向と覺悟し準備を進むる要ある旨意見具申

上海 本省 7月7日前着

第六〇七號(極秘)

最近民國政府方面ノ日本ニ對スル感想ハ往電第六〇〇號宋子文ノ談話ニ依リテモ推知セラルル通日本ハ民國時局ニ大ナル興味ヲ有シ種々ノ策動ヲモ看過シツツアリテ諸般ノ交渉問題ニ付テモ遷延策ヲ講シ居ルモノトノ感想ヲ有スルモノト認メラル(王家楨ノ如キハ特ニ滿洲ニ於ケル日本ノ遣り方ヲ非難ス)

一、交渉問題ノ事實上ノ遷延ニ付テハ日本側單獨ノ責任ニアラサルハ勿論ニテ法權問題ノ如キ大問題ニ付テハ現在我提案ヲ基礎トシテ交渉ヲ促進スルコトハ今日トナリテハ容易ニ先方ノ肯セサル處ナルヘク今秋英米トノ交渉進行ニ連レ適當ノ機會ヲ捉フコトヲ試ムルノ外ナカルヘシ租界問題ハ民國側ヨリ絶ヘス督促アルヘク之ニ對シテハ法權問題交渉ノ促進ヲ計ルヲ以テ前提條件トスル建前ヲ以テ進ムノ外ナカルヘシ要スルニ租界問題ヲ含ム法權問題ノ交渉ハ今日

東拓對濟南電話公司訴訟事件に關し東拓側が第一審判決を不服とし最高法院に上告について

付記 九月二十二日

右事件に關する末弘博士意見

機密第三〇八號 (7月28日接受)

昭和六年七月十八日

在濟南

總領事 西田 畊一(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

東拓對電話公司訴訟事件ニ關スル件

本件ニ關シ當地方高等法院ニ於ケル判決力全然東拓側ノ敗訴ニ歸シタル次第ハ曩ニ客月二十四日附機密第二七五號拙信ヲ以テ報告シ置キタルカ本月十六日吉田辯護士代理藤木泰治本官ヲ來訪シ東拓側ニ於テハ第二審判決ヲ不服トシ今般更ニ最高法院ニ上告手續ヲ取りタル旨報告アリタリ  
本信寫送付先

代理公使 北平 青島 天津 南京

(付記)

東拓對濟南電話公司訴訟事件ニ關スル末弘博士意見  
(昭和六年九月二十二日)

一 本件ニ於ケル主債務者ガ馬官和個人ニシテ濟南電話公司ニアラザルコト、濟南電話公司ハ馬官和ノ債務ニ對スル連帶保證人ニ過ザルコト契約書上一點ノ疑ヒナシ。馬官和ノ借用金ガ實質上電話公司ノ爲メニナサレタリヤ否ヤハ右ノ法律關係ニ對シテ影響ヲ與フルモノニアラズ。

二 故ニ本件ニ於ケル中心問題ハ結局

(イ) 濟南電話公司ハ如上連帶保證ヲ爲ス能力ヲ有スルヤ否ヤ

(ロ) 如上連帶保證ヲ爲スニツキ濟南電話公司ハ適法ニ代表セラレタリヤ否ヤ

ノ二點ニ存ス。

右ノ中第一點ニ關シ控訴裁判所ハ消極說ヲ主張セルモ、ソハ必ズシモ正當ニアラズ。吾民法第四十三條ニ關シテ吾大審院ガ屢々判示セルガ如ク法人ノ能力ハ決シテ法定款ニ明記セラレタル目的事業ノミニ限ラルベキニアラズ、苟モ其目的事業ト矛盾セズ若クハソレニ役立ツモノタル限り目的事業トシテ明記セラレザル事項ト雖モ尙之

#### 四 治外法權問題

(欄外記入)

三 尙公司ガ單ニ保證債務ヲ引受ケタルノ外、物上保證人

トシテ公司所有ノ電話施設等ヲ擔保ニ供シタル點モ別ニ考慮ノ價值アルモ此點モ公司條例第一七五條ヲ右ノ如ク解スル以上無効ナリ。尙判決ノ言フガ如ク電話施設ノ擔

ヲ爲ス能力ヲ有スルモノト解セザルベカラズ。馬官和個人ノ債務ト雖モソレガ實質上専ラ公司ノ爲メニ負擔セラレタルモノナル以上公司ガ其保證人トナルコトハ決シテ之ヲ公司ノ目的ト相容レザルモノト言フヲ得ザルナリ。此故ニ問題ハ寧ロ第二點ニ存スルモノト言ハザルベカラズ。而シテ此點ニ關シテ専ラ問題トナルハ公司條例第七十五條ノ解釋如何ナリ。

今假リニ問題ヲ吾商法ノ下ニ移シテ論ズレバ、商法第一七六條ハ取締役ガ「自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ト取引ヲ爲ス」ニ付監査役ノ承認ヲ要スルモノト規定スルニ過ギズ。而シテ會社ガ取締役個人ノ債務ニツイテ保證債務ヲ負擔スルハ法律上債權者ト會社トノ取引ニシテ經濟上取締役ハ之ニヨツテ利益スル所多々アリトスルモ其所ニハ取締役ト會社トノ間ニ何等ノ「取引」モ存在スルコトナシ。蓋シ保證債務ノ引受ハ債權者保證人間ノ契約ニヨツテ爲サルモノニシテ法律上主債務者ハ何等之ト關係ヲ有セザレバナリ。主債務者タル取締役ト會社トノ間ノ委任關係ハ全然別問題ナリ。此故ニ吾商法ノ解釋ノミヨリスレバ本件會社ノ保證債務引受ハ有效ナリ。(尤モ此

保提供ニ付キ法律上拘束アルモノトセバ此點ヨリスルモ、別ニ物上保證人トシテ公司ノ責任ヲ問フコトモ困難ナリ。

(欄外記入)

此莫ハ會社ニ義務アルヲ認ムル有力ナル莫ナリ

400 昭和6年7月18日 在問島岡田總領事より  
幣原外務大臣宛

朝鮮事件に対する問島中国側動向報告

機密第八〇三號 (7月24日接受)

昭和六年七月十八日

在問島

總領事 岡田 兼一 (印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

朝鮮事件ノ當地方ニ及ホシタル影響報告ノ件

本件ニ關スル當地方最近ノ情勢左ノ通り報告ス

記

一、朝鮮事件ハ當地方一般中國人ニ不勘衝動ヲ與ヘ中ニハ極度憤瀆シ居ル向キアルモ官憲筋及民間有力者ノ意見

ハ依然冷靜ニシテコレカタメ直チニ鮮人ニ對スル民衆ノ報復行爲或ハ鮮支人葛藤ニ依ル兩者對抗ノ氣分ヲ作ルコトトモナラハ鮮人ノ統御操縦ニ破綻ヲ來スノミナラス地方治安ニモ影響シ中國側トシテ甚タ手ニ餘ル事態ヲ招キ遂ニハ日本側ヨリ種々ノ難題ヲ持チ掛ケラルル虞アルニ依リ差當リ可成鮮支人間ニ事端ヲ醸生セシメサル様善處スルノ要アリトシ極力中國側ノ民衆運動ノ惡化ヲ防止スルト共ニ鮮人ノ言動監視取締ニ努メ居ル次第ト觀察セラルル處一方上海、南京其他地方ニ於テハ今後ノ成行如何ニ依リテハ排日運動ノ擡頭ヲ見ントスルノ氣配アリ又遼寧吉林方面ニ於テハ黨部及外交後援會等ニ於テ何等對日運動ヲ畫策シ當地方ニモ參加方勸誘ノ手ヲ伸ハシ來リ居ルヲ以テ最近ニ於ケル當地方中國側ノ空氣ハ民聲報等ノ論調掲載振或ハ延邊農工商學聯合會幹部ノ意見等ニ表ハレ居ルカ如ク朝鮮事件ハ萬寶山事件ヲ導火線トシテ日本カ滿蒙侵略政策ヲ實行セントスル奸策ノ結果ニ外ナラスシテ鮮人ハ單ニ手ニ向ツテ糺彈シ日本ノ滿蒙侵略ヲ防遏シ其勢力ヲ驅逐

401 昭和6年7月23日 三橋(政明)吉林日本居留民會長より  
在吉林石射總領事宛

治外法權撤廢は時期尚早につき断固拒絕方陳情について

發第一六一號  
昭和六年七月二十三日

吉林日本居留民會 會長 三橋 政明  
在吉林日本 總領事 石射 猪太郎殿

最近傳フル処ニ據レハ政府ハ支那ノ法權撤廢要求ニ對シ滿鉄附屬地ヲ除キ即時之ニ應ズルノ意アリトノ事ニ候得共現在ノ如ク司法行政警察共ニ其制度取扱完備セズ殆ド賄賂公行私人ノ情實ニヨリ或ハ地方權者ノ意志ニヨリテ國法ヲ二三ニスルノ状態下ニ於テハ時期尚早ナルノミナラズ吾々在留民トシテハ直チニ生命財産上ノ不安ヲ感ジ引揚ノ餘儀ナキ次第ニツキ此際深甚ノ御考慮下サレ候上支那実情ガ其要求ヲ容ルニ足ルノ時期ニ到達スルマデ断乎拒絕方政府へ御申達被下度居留民會議員會ノ決議ニヨリ近ク陳情ノ爲メ代

シ更ニ治外法權撤廢ヲ促進セサルヘカラストノ筆法ヲ以テ進マントスル氣配現ハレツツアリ  
二、然ルニ一方最近當地方ニ避難シ來レル中國人及學生其他地方ノ不良分子ハ當地方下級中國人ヲ煽動シテ在留鮮人ニ對シ暴力行爲ヲ以テ復讐セントノ計畫ノ下二十三日夜約六十名ノ暴力團ヲ當地ニ組織シ各自棍棒ヲ隠匿シ相互連絡シテ巧妙秘密ニ市内ヲ巡回シ機會ヲ見計ヒ鮮人ニ對シ迫害ヲ加ヘント策動シツツアリトノ聞込アリ又十六日午後三時頃彼等二三名ノ者ハ市内各處ニ於テ取締ノ目ヲ盜ミ中國人ヲ激昂セシメ鮮人ヲ恐怖セシムルカ如キ過激ナル大道演説ヲナシタリトノコトニテ此ノ種不穩ノ行動ハ獨リ當地ノミナラス今後各地ニ於テモ行ハレ其結果動々スレハ不測ノ事端ヲ發生スルノ虞レナキヲ保シ難キニ付中國側ニモ通報連絡シテ嚴重查察警戒シ未然防止ニ努メ居ル次第ナリ  
右報告ス  
本信寫送附先  
在華公使 南京 上海 北平 奉天  
吉林 管下四分館 朝鮮總督 咸北知事

402 昭和6年7月28日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

瀋陽における中國民間各団体連名の万宝山、朝鮮事件に関する宣伝ビラ頒布について

奉天 7月28日後発  
本省 7月28日後着

第四八一號  
奉天中國民間各団体連名ヲ以テ大要左ノ如キ喧傳ヒラヲ頒布セリ  
朝鮮事件ニ關スル日本當局ノ聲明トシテ新聞ノ傳フル所ニ依レハ「直接ノ原因ハ萬寶山事件ニシテ其根本原因ハ滿洲ニ於ケル近年來ノ鮮農壓迫ニ對スル反感ノ鬱積ニシテ終ニ今回ノ報復手段ニ出テタルモノナリ」トノ事ナルカ中國人ハ此說ニ對シ益々了解ニ苦シム萬寶山事件ノ經過ハ衆目ノ看ル通決シテ其曲中國ニ在リト言フ可ラス殊ニ鮮農ニ一

人ノ死傷ナク且現ニ武装日警監督ノ下ニ工事ヲ繼續シ居ルノミナラス近年東北ニ於ケル鮮農移住者ハ約百萬ニ達シ不逞分子ニ對シテハ取締ヲ加ヘ居ルモ善良ノ分子ニ對シテハ毫モ壓迫ノ事實無ク從テ今尙鮮農ノ移住者増加ノ狀態ナルヲ以テ鮮人側ニ於テ反感ヲ抱ク可キ理由無シ之ニ依テ之ヲ見レハ朝鮮事件ハ別ニ動機有ルカ如ク他人力野心ヲ以テ無智ノ民衆ヲ煽動シ且日本及朝鮮新聞ノ捏造記事又與リテ力アリト言フ者アリ中國人民ハ固ヨリ俄ニ之ヲ信セサルモ其跡ヲ辿レハ源ニ達ス可ク有力ナル反證無キ限り中國人ノ疑ヲ免レ難シ

朝鮮ノ警察ハ完全周密ニシテ前例ニ徵シ如何ナル事件ニ對シテモ機敏ニ彈壓シ得タルニ拘ラス獨リ今回ノ事件ハ事前ニ充分豫防セス又事後ニ積極的保護ヲ加ヘス斯ル重大事件ヲ惹起シタル點ニ對シ日本ハ國際慣例上其責任ヲ免ルヘカラス滿洲ニ於ケル鮮農問題ノ難點ハ二重國籍問題ニアリテ鮮農ハ既ニ歸化ヲ願ヒ中國又之カ斡旋ヲ冀フモ獨リ日本當局力鮮人歸化ノ後中國々籍ヲ承認セサル爲時ニ不祥事件ヲ惹起シ外交問題ヲ誘發スルハ遺憾ナリ中國ハ久シク既ニ二重國籍問題ノ根本解決ヲ希望シ唯日本當局ノ誠意協商ヲ待

リ身柄引渡方數回口頭又ハ公文ヲ以テ要求シ四日館員ヲ派遣引取りタルカ同日右ト行違ニ韓主席ヨリ公文ニテ兩人ハ「ヘロイン」一八兩ヲ携帶シタル毒品犯トシテ公安局ヨリ送致アリタルニ付日本人タルヲ知ラスシテ審問拘留シ申譯ナシトテ遺憾ノ意ヲ述ヘ速ニ引渡スヘキ旨回答アリタリ

二、歸館後身柄ヲ取調ヘタルニ逮捕セラレタル翌二十九日朝省政府ニ於テ韓主席ヨリ他ノ中國人ト共ニ訊問ヲ受ケ關係者タリシ中國人高某ハ銃殺ヲ言渡サレ水戸飯高ハ他ノ中國人ト共ニ管刑ヲ言渡サレ軍法會議所員ニ依リ即時大腿部ヲ強打セラレ負傷シ居ル旨申立テタルニ付其傷所ヲ見ルニ飯高ハ大腿部ニ横約三寸巾約一寸五分位ノ黑色ノ血凝アリ周圍ハ充血シ居ル痕跡アリ水戸ハ飯高ニ比シ痕跡少ク薄黑色ニナリ居レリ依テ兩人ノ傷所ヲ寫眞ニ撮リタルカ飯高ノ傷ハ化膿セルニ付入院治療中

三、本官ハ六日右寫眞ヲ携帶シ韓主席ニ會見シ中國官憲ノ右不法措置ニ對シ嚴重抗議シタルニ韓ハ日本人タルコト判明シ居ラハ決シテ審問拘留セサリシニ全ク承知セ

ツノミ之ヲ要スルニ萬寶山事件ト朝鮮事件トハ載然區別シテ混同スヘカラス如何ナル問題モ正當ノ解決方法ヲ講シテ始メテ圓滿ナル結果ヲ見ルヘク徒ニ無謀ヲ事トスルハ有害無益ナレハ日本及朝鮮民衆ハ充分注意ヲ加ヘ奸徒ノ狡計ニ陥ルコトナク以テ政府ヲ監督シ國際陸誼ヲ保持セヨ是レ中日兩國ノ幸ナリ云々

403 昭和6年8月7日 在濟南西田總領事より 幣原外務大臣宛(電報)

濟南在住日本人が禁制藥品取扱いの廉で中国側公安局員に逮捕されたるについて

濟南 8月7日後発 本省 8月8日後着

第一三九號  
一、七月二十八日夕刻當地在住水戸芳見及飯高榮ノ兩名ハ禁制藥品取扱ノ件ニテ中国旅館ニ赴キタル現場ヲ公安局員ノ爲逮捕セラレ翌朝他ノ拘留中國人ト共ニ省政府軍法會議所ニ送ラレタル趣聞知シタルニ付直ニ當館ヨ

サリシ誤解ニ基クモノニシテ誠ニ遺憾ニ堪ヘサル旨ヲ繰返シ早速警官ヲ派シ見舞旁診察セシメ且治療代ノ負擔方等申出アリタル處本官ハ邦人ノ犯罪ハ我法令ニ依リ處斷スヘキモノニ付事件發生ノ場合ハ直ニ引渡サルヘキモノナルニ充分取調ナク非文明ナル答刑ヲ加フルハ重大ナル責任問題ヲ惹起シ貴國ノ法權問題ニ付テモ大ナル支障アルヘキ次第ナリ

追テ公文ヲ以テ交渉スヘキ旨述ヘ置キタル處次テ同日官命ニ依リ軍醫處々長及警官一名來館韓ヲ代表シテ遺憾ノ意ヲ表シ且見舞方申出テタルニ付館員ヲ立會ハシメ兩名ノ傷所ヲ檢分セシメ置キタリ

四、一方水戸飯高ヲ取調ヘタルニ中國人ヨリ「ヘロイン」購入商議ノ現場ヲ取押ヘラレタル旨申立テ居ルモ同人等ハ最初ヨリ言フ二三ニシ符号セサル點アリ取調中本件ニ關シ邦人中ニハ法權撤廢問題ノ起リ居ル今日中國側ノ斯カル不法行爲ハ撤廢後更ニ不安ニ堪ヘサルモノアリト憤慨シ行政委員會ヨリハ當地時局委員會ニ通報シ問題トセルニ付種々通信等ヲナスモノアルヤモ計リ難キニ付不取敢

支ヨリ上海へ轉報アリタシ  
支へ轉電シ北平、青島、天津、南京ニ暗送セリ

404 昭和6年8月15日  
在濟南西田總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

日本人禁制品取扱事件を治外法權撤廢不可  
の理由に居留民大會開催方協議について

濟南 8月15日後発  
本省 8月15日後着

第一四九號  
往電第一三九號ニ關シ

一、邦人二名笞刑事事件ハ去ル七日開催ノ時局實行委員會ニ於テ討議セラレシ處同會ニ於テハ本件ニ對スル中國側ノ覺醒ヲ促シ將來斯カル事件ヲ繰返スカ如キ事無カラシムルト共ニ本件ヲ治外法權撤廢不可ノ理由ニ供セントノ考ヨリ居留民大會ヲ開催スヘク協議シ小川議長ヨリ右諒解ヲ求ムル所アリタリ

二、依テ本官ハ本件ニ付當館ノ執リタル措置及韓主席ヨリ遺憾ノ意ヲ表シ來レル等往電第一三九號ノ次第ヲ述ヘ一面

平穩ニ終リ宣言ト共ニ

一、現下ノ如キ状態ニ在リテハ治外法權ノ撤廢ヲ爲ササルコトニ、被害者二名ニ對シ慰藉ノ方法ヲ講セシムルコト三、將來斯ル不法監禁處罰等ヲ爲ササルコトヲ聲明セシムルコトノ三項ヲ決議シ閣下始メ首相内務陸海軍大臣樞密院議長貴衆兩院議長參謀本部民政黨政友會總裁東京大阪大新聞社等本邦ノ朝野並ニ在華各民團並ニ日本人會方面ニ發送スルコトトセリ

四、右宣言ニ引用シタル二事例(一)ハ六月九日吉田倉太力詐欺的行爲ニ基ク「ヘロイン」取引現場ヲ中國官憲ニ逮捕セラレ十六日當館ニ引渡サレタル事件及(二)本件ニ關スル兩人ヨリ聞込ミタルモノヲ根據トシ作成セシ關係上事實ト相違ノ點モ鮮カラス之ヲ各所ニ配布スルハ事實ヲ誤解セシムル虞有ルニ付宣言等發送ニ先立チ當館ニ提示スヘキ旨ヲ諭示シ置キタル處本月十一日同會ヨリ提示諒解ヲ求メ來リシニ依リ相當訂正ヲ加ヘ且本官力時局委員長大會ニ説明セシ當館及中國側ノ公表ヲモ添附シ發送スルコトヲ説示シ置キタルニ同會ニテハ右ヲ添附センカ本件ノ真相判明シ殆ト宣言決議ノ價值ヲ失フモノト感シタルモノカ本十四日當館ノ措置

#### 四 治外法權問題

本件發生ノ動機ニ付テハ目下取調中ナルモ禁制品取引關係ノ現状ヲ逮捕セラレタルハ明カナルニ事件ノ真相ヲ見極メス殊ニ兩人ハ當地不良青年トシテ名アル人物ナルニ唯該兩名勝手ノ申立ノミヲ根據トシ居留民大會ヲ開クカ如キ事ハ甚シキ輕舉ナルノミナラス禁制品ニ付テハ當館ニテ嚴重取締リ居ルモ若シ中國側ニテ居留民大會等ニテ刺戟セラレ今後一層禁制品取扱ヲ嚴重取締ランカ幾多ノ日本人ハ續々逮捕セラレヘキヲ覺悟セサルヘカラス從テ此ノ種事件ハ時局委員會ニテ研究討議スル方穩當ナルヘキ旨説示置キタル處委員會ハ之ニ從ヒ居留民大會ヲ取止メ十日庚申俱樂部ニ時局委員臨時大會ヲ開催セシ處

三、其前日之カ宣言及決議ノ草案ヲ内查シタルニ非常識ノ決議案アリシヨリ之カ改作ヲ命シ且時局委員長大會ニハ本官ヨリ最近ノ時局並ニ本件ニ付當館ノ執リタル措置並ニ交渉ノ次第ヲ説明シ

事件ノ真相ヲ誤解セサル様注意ヲ喚起スルト共ニ寧ロ斯ル事端ヲ惹起セシメサルコトニ心懸クヘキコトヲ論示シ反省ヲ促シ置ケルカ大會委員始メ多數傍聽者モ相當感ニ打タレタルモノノ如ク見受ケラレ大會ニハ激論ヲ爲ス者無ク至極

等ハ添附スル所ナク宣言決議ノミヲ發送セリト申出タルニ付其不心得ヲ嚴重戒告シ置キタリ委細郵送スヘキモ時局柄不取敢

支ヨリ上海へ轉報アリタシ  
支ニ轉電シ北平、青島、天津、南京へ暗送セリ

405 昭和6年9月2日  
在東京上村領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

立法院が中央政治會議に提出した朝鮮人問題  
に關する対日応急・根本兩弁法について

南京 9月2日後発  
本省 9月2日後着

第五一三號

内密ニ入手セル中央政治會議議事録(今後ハ單ニ政治會議議事録ト稱ス)ナルモノニ依レハ立法院ハ豫テ鮮人問題ニ關スル對日根本方針ヲ討議中ノ處二日ノ中央政治會議ニ『萬寶山暴行案及朝鮮排華案ハ日本カ滿蒙ヲ侵略シ中韓ヲ離間セントスル豫定ノ陰謀ナレハ速ニ法ヲ設ケ自衛ノ要アリ』トシ左ノ如キ辦法ヲ提出セリ

一、應急辦法

(一) 兩案ノ經過ヲ公表シ國民ノ義憤ヲ激發スルト共ニ國際宣傳ニ依リ真相ヲ世界ニ明カニスルコト

(二) 日本ニ對シ正式ノ謝罪、犯人ノ處罰、撫恤及二ヶ月内ニ華僑ノ原狀回復ヲ求ムルコト

(三) 華僑ノ生命財産ノ安全保障及暴動再發ノ豫防ノ爲華僑ノ自衛團組織ヲ認メシムルコト

(四) 地方黨部及地方政府ニ密令シ徹底的對日經濟絶交ヲ斷行スルコト

二、根本辦法

(一) 日本ノ中國ニ於ケル條約ニ根據ナキ一切ノ非法行爲ヲ取締ルト共ニ條約ニ基クモノト雖既ニ否認シタルモノハ之ヲ取締ルコト(特ニ日本軍警ノ撤退ニ重キヲ置クコト)

(二) 日本カ不平等條約ニ依リ取得シタル一切ノ特殊權利ヲ取消スコト

(三) 日本國籍ヲ離脱セサル鮮人ノ歸化ヲ認メサルコト

(四) 中央ヨリ法ヲ設ケ人民ヲ指導シ團體ヲ組織セシメ日鮮人ニ對シ絶對ニ借地ヲ許ササルコト

(五) 速ニ滿蒙發展ノ根本方針ヲ確定シ國內移民ニ注意スルコト

法權行使聲明方提議ヲ撤回セリトノ記録ニ基キ埠内居住者ニ對シテモ其ノ埠外ニ土地ヲ所有スルト否トニ拘ラズ一律法權ヲ行使シ得ズト累次交渉ノ次第ハ屢報「註記、本件交渉ニ關スル經過省略」ノ通りニ有之處昭和五年九月十三日附貴信別紙間島問題ニ關スル日清交渉顛末(明治四十三年三月起草)記録ニ據レバ清國委員ヨリ「商埠地内居住者ト雖商埠外ニ土地ヲ有シ農業ヲ營ム者ヲ越墾ノ民トシテ清國ハ法權ニ服從セシムベキモノナリトノ聲明ヲ爲サンコトヲ提議セルモ在清公使ハ右聲明ノコトハ之ヲ書面ニ上ス必要ナキヲ說キ提議ヲ撤回セシメタリ」トアリ右ニ關シ中國側ノ主張ハ相當根強キモノアリ當時帝國政府ニ於テ書面聲明ニハ同意セラレザリシモ口頭上ノ聲明乃至了解ヲ與ヘラレタル次第ナリヤ小官交渉上心得置キ度キニ付何分ノ義御回訓相仰度シ

407 昭和6年9月7日 在中國重光公使より 幣原外務大臣宛

間島在住朝鮮人に対する裁判権実施に關し從來の取扱振り、根拠など調査回訓方について

(六) 在外公館ヲ整理シ外交ヲ重シ以テ宣傳ニ利スルコト  
(七) 外人ノ登録ヲ行ヒ特ニ中日韓人民相互ニ國境出入ノ護照制度ヲ施行スルコト  
奉天ヨリ長春、吉林へ轉報アリタシ  
支、北平、奉天、哈爾濱へ轉電セリ

406 昭和6年9月2日 在局子街田中副領事より 幣原外務大臣宛

商埠地内居住朝鮮人にして商埠地外に土地を所有する者に対する中国側法權の有無について

昭和六年九月二日附在局子街田中副領事發信幣原外務大臣宛請訓要旨

中國側ノ商埠地内法權行使問題ノ件

中國側ノ商埠地内居住鮮人ニ對スル裁判權行使ニ付キ商埠地内居住者ト雖埠外ニ土地ヲ所有スル者ハ墾民トシテ取扱ヒ中國ノ法權ヲ行使ストノ中側ノ主張ニ對シ我方ハ現行條約竝ニ昭和六年六月十六日附貴信別冊間島問題調書「註記昭和六年四月外務省亞細亞局第二課編纂」第五四頁中清國委員ハ埠内居住者ニシテ埠外ニ土地ヲ所有スル者ニ對スル

機密公第三六七號 (9月15日接受)

昭和六年九月七日

在中華民國

特命全權公使 重光 葵(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

昭和六年九月七日附在間島岡田總領事宛機密公第二七二號 信寫送付

在間島鮮人墾民ニ對スル裁判ノ現狀報告方ノ件

機密公第二七二號

昭和六年九月七日

在中華民國

特命全權公使 重光 葵

在間島

總領事 岡田 兼一殿

在間島鮮人墾民ニ對スル裁判ノ現狀報告方ノ件

在問島朝鮮人ニ對スル裁判ハ從來或ル場合ハ日本側ニ於テ之ヲ爲シ又或ル場合ニハ民國側ニテ爲シツツアリ右ハ「問島條約」及「南滿洲及東部内蒙古ニ關スル條約」ノ當該規定ノ孰レトモ矛盾スル所アリト認メラルル次第モアリ此ノ

際本件ニ關スル從來ノ取扱振及其ノ根據ヲ明確ナラシメ置キ交渉上其ノ他ノ參考ニ資シ度キニ付テハ右ニ關スル調査作成ノ上御送付相成度尙右調書ハ出來ル丈簡略ニシ而モ沿革及現狀其ノ他必要事項洩レ無ク記載セラルル様致シ度シ本信寫送付先 外務大臣 北平 南京 奉天 吉林 哈爾濱 長春

408 昭和6年9月19日 間島琿春十八ヶ所連合民會より 南陸軍大臣宛(電報)

滿鉄沿線における日中兩軍の衝突に關し速に同方面一帯を保障占領区域としたき旨要望について

電報譯 九月十九日 午後七時五五分發 午後九時三六分著

陸軍大臣宛 發信者間島琿春內鮮人十八ヶ所聯合民會 滿鉄沿線ニ於ケル日支兩軍ノ衝突ハ當方面ニ於ケル在住民ノ不安ヲ極度ニ高メ今朝來異常ノ動搖ヲ來シテキルカ元來猛獐ノ性ニ富ム支那軍憲ノコトナレハ如何ナル舉ニ出ルヤモ計リ難キ形勢ニアリ此際間島五十万ノ同胞保護ニ就テハ遺憾ナキ方法ヲ講セラルルコトナランモ速ニ當方面一帯ヲ

410 昭和6年9月20日 中谷關東庁警務局長より 永井外務次官宛(電報)

管内沿線付屬地の治安維持状況について

關東庁 9月20日前發 本省 9月20日前着

前電奉天柳條溝滿鐵線鐵橋破壊ニ起因セル日支兵ノ衝突事件ニ關シテハ現下ノ日支間ノ情勢ニ鑑ミ事態極メテ重大ニシテ慎重ナル態度ヲ以テ臨ムノ必要ヲ認メ直ニ管内沿線附屬地中警備上ノ樞要地點タル奉天撫順瓦房店方面ニ大連、旅順、貔子窩ヨリ應援警察官一三八名ヲ派遣スルト共ニ管下各警察署長ニ宛官民各機關協力シテ極力管内ノ治安維持ニ努メ冷靜ニ事態ノ推移ヲ觀察シ而モ急變ニ對シテ善處スルノ計畫ヲ建テ置ク可キ旨指示シタリ新聞通信關係ニ付テハ軍部ヨリノ依頼ニ基キ軍部發表ノ戰況以外ノ記事ノ掲載ヲ禁止シタリ

唯今迄ノ狀況ハ軍部ハ奉天長春ニ於テ交戦ヲ爲シタル外大體平穩裡ニ附屬地附近一帯ノ支那側軍警ノ武装解除ヲ斷行シタルモノノ如ク管内全般ハ官民ノ努力ニ依リ漸次平穩狀態ニ恢復シツアリテ別段事故ノ發生ヲ見ス尙引續キ各機

保障占領區域トナシ萬全ヲ期セラレンコトヲ要望ス

409 昭和6年9月20日 在奉天林總領事より 幣原外務大臣宛(電報)

中国側警察力消滅の狀態につき日中双方民間有力者による治安維持會組織のため陸軍側と打合せ中について

奉天 發 本省 9月20日前着

第六五八號

當地城内商埠地トモ支那側警察力全然消滅ノ狀態ニ在ル處我方現在ノ兵力ニテハ治安維持ニ充分ナルヲ得ス支那側並ニ外國人側ニ於テモ此點ニ付多大ノ危懼ヲ抱キ居ルヲ以テ日支双方民間有力者ニ依リ治安維持會ヲ組織セシメ我陸軍ノ監督ノ下ニ治安維持ニ當ラシムル様打合せ中ニテ陸軍側ニテモ異存ナキニ付廿日支關係者集合委細協議ノ管支、北平、南京、在滿各領事へ轉電セリ

關協力嚴重警戒中ナルカ各地ノ概況次ノ如シ (一)奉天

十九日拂曉ヨリ支那側兵營北大營ヲ陷レ午前中完全ニ奉天城内ヲ占領シ我憲兵一五〇名ハ城内支那側官公署警備ニ當リ附屬地内ハ應援警察官七八名ヲ加ヘ官民協力警戒ニ努メツツアリ城内避難邦人ノ大部分ハ附屬地ニ無事收容セリ

(二)長春 事件勃發ト同時ニ軍部領事館滿鐵側ト緊急警備會議ヲ開催シ附屬地内ハ在郷軍人團等ノ應援ヲ得極力治安維持ニ努メ城内邦人ノ附屬地避難ヲ命令セリ我軍隊ハ十九日午前十時三十分寬城子兵營ヲ陷レ午後二時南嶺砲兵營ヲ激戦ノ上占領ス城内公安隊ハ武装解除ヲ爲ササルモ總テ我方ノ指揮ニ從フコトナレリ

(三)安東 同地守備隊ノ大部分ハ鳳凰城支那側歩兵團ノ武装解除ニ出動シタルモ各機關協調嚴重警戒ノ結果別段事故ヲ見ス平穩ナリ軍隊ハ午前六時四十五分縣政府公安局等占領同八時三十分前記歩兵團ノ武装解除ヲ行ヘリ (四)瓦房店

事件發生ト共ニ支那側ニ不穩ノ徵候アリシ爲應援警察官三〇名ヲ派シ自衛團等ト協力嚴重警戒中ナルカ軍隊ハ午後三時二十分城内公安局兵ノ武裝解除ヲ爲シ附屬地内外共目下ノ處事故ナシ

(五)撫順

同地ハ撫順炭坑苦力等多數居住シ居レル關係上治安維持上最モ注意スヘキモノアリ應援警察官三〇名ヲ特ニ派遣シ防備隊五〇〇名ト共ニ極力警戒ニ努メツツアリ目下ノ處異狀ナシ

(六)營口

警察官全員非常召集ヲ行ヒ官民協力附屬地ノ警戒ニ當リ居レルカ軍隊ハ二個中隊ヲ以テ支那側軍警ノ武裝ヲ解除シ午九時三十分迄ニ河北驛ヲ占領支那側鐵道ヲ破壊セリ城内ハ我軍ニテ治安維持ニ努メ居ルモノノ如シ

(七)鐵嶺

開原、公主嶺各地共在郷軍人義勇團等六七〇名ヲ召集シ軍警協力警備ニ當リ管内異狀ヲ認メス開原城内邦人ハ危險ヲ慮リ附屬地ニ引上ケタリ

(八)其他沿線附屬地共ニ平穩ナリ

間島方面における各分館主任および分署長に  
対し中国側と連絡協調して在留民保護上遺憾

なき様訓達について

間島

発

本省 9月21日前着

第一七二號

今次ノ事件ハ十九日朝新聞電報ニ依リ當地ニ傳ハリ在留内鮮人及中國側ニ一大衝動ヲ與ヘタルモ今迄ノ處一般ノ狀勢靜穩ニシテ不安ノ狀態無シ當市中國官憲首腦者ハ事件ヲ當地方ニ波及セシメサル事並日本側トノ衝突防止ニ努ムル一方地方治安維持住民ノ保護方ニ付日本側ト一層聯絡協調シテ事端發生防止ニ努メ十九日公安局長ハ末松警視ヲ來訪シテ種々協定ヲ爲ス外商埠局長ハ當館館員トモ不斷ノ接觸ヲ保チ居リ民聲報ノ如キモ事件發生ノ事實ヲ簡單ニ報道シ居ルニ過キス又局子街ニ於テモ鎮守使ハ日本側ト事ヲ構ヘサル様善處シ居ル模様ニ付格別ノ事情發生セサル限リ當地方ハ平穩ナル可シト觀測セラル尙在留内鮮人方面ハ當地方ヘ出兵ヲ希望シ種々策動シ居ル者アルニ付一般ニ對シ其言動ヲ慎ミ冷靜ナル態度ヲ持スル様指導ニ努ムルト共ニ各分

(九)關東州内大連、旅順、貔子窩共ニ多數ノ應援警察官ヲ派遣シ居レルモ各所橋梁發電所、水源地等ノ警戒ヲ爲スト共ニ在郷軍人自衛團共ニ打合セ直ニ出動警戒ヲ爲シ得ル準備ヲ爲シ居レリ目下州内支那人一般平穩何等動搖ノ模様認メラレス

尙時局ノ進展ニ伴ヒ外人新聞通信記者ニシテ狀況視察ノ爲來滿スル者多カルヘキハ豫想ニ難カラサル處ニシテ之等ニ對スル接遇ノ適否ハ延イテ事態ヲ曲解セシメ不利ナル報道ヲ爲サシムルノ因ヲ爲スノ先例ニ乏シカラサルニ徴シ彼等ニ對シテハ懇切丁寧ニ無用ナル惡感ヲ抱カシメサル様各警察署長宛指示セリ又管内居住支那人ノ生命財產等ニ對シテハ之カ保護ニ付萬全ノ力ヲ致スト共ニ時局問題ニ關スル演說會各地ニ開催セラルル模様ナルヲ以テ之等ニ對シテハ特ニ事前責任者ヲ招致シテ支那民衆ニ對スル不必要ナル個人的惡感ヲ激成スルカ如キ言動ヲ慎シムヘキ旨特ニ懇談又ハ警告ヲ與フル様管下各警察署宛通課セリ

411 昭和6年9月(21)日

在間島岡田總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

館主任及分署長ニモ中國側ト聯絡協調シテ在留民保護上遺憾無キ様訓達シ置ケリ御參考迄

支、南京、北平、奉天、吉林、朝鮮總督ヘ轉電シ局子街、頭道溝、琿春、百草溝ヘ暗送セリ

412 昭和6年9月(21)日

在安東米沢領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

我が守備隊の安東市街占領以來一般朝鮮人が中  
国人の反感を誘発する言動あるについて

安東

発

本省 9月21日後着

第一三三號

一、我守備隊ノ安東市街占領以來一般鮮人ノ中國人ニ對スル態度頓ニ傲慢トナリ不必要ニ支那街ヲ彷徨シ或ハ無理難題ヲ吹掛ケテ中國人ノ反感ヲ誘發スルニ至リタルヲ以テ警察ヲシテ晝間無用ノモノノ支那街進入ヲ制限スルト共ニ夜間ハ一切ノ鮮人出入ヲ嚴禁セシムル一方朝鮮人會ニ命シ此際中國人ニ對スル態度舉措ニ一段ノ注意ヲ用ヒ無用ノ反感ヲ抱カシメサル様各自充分ノ自省ヲ爲スヘキ旨ノ傳單ヲ印

刷シ一般ニ配布セシメタリ尙新義州方面ヨリノ鮮人渡來ニ對シテハ同地警察ニ取締方委嘱セリ

二、鴨綠江上下流及奧地居住ノ内鮮人保護ニ關シ廿日縣長ヲ往訪シ各地方當該官憲ニ示達方要求シ置ケリ  
前電ノ通りノ外朝鮮總督、關東長官ニ轉電セリ

413 昭和6年9月21日 在頭道溝松原(久義)分館主任より  
幣原外務大臣宛

間理各地における朝鮮人民會長に対し在留朝鮮人の行動に充分の自重を申入れについて

機密公信一九七號 (9月28日接受)

昭和六年九月二十一日

在頭道溝分館

主任外務書記生 松原 久義〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

昭和六年九月二十一日附機密龍第二四八號寫送付

件 名

奉天事件ニ因ル影響ニ関シ報告ノ件

龍機密第二四八號

昭和六年九月二十一日

在頭道溝

分館主任 松原 久義

在間島

總領事 岡田 兼一殿

奉天事件ニ因ル影響ニ關シ報告ノ件

一、今次突發セル奉天方面ニ於ケル日支兵衝突事件當地ニ報道セラルルヤ内鮮人兩民會長ハ支那側官民惡化ノ懸念アリトシ居留民保護ノ爲局子街其ノ他間理各地ノ内鮮人民會長ト歩調ヲ揃ヘ此ノ際至急出兵ヲ要求シ度キ趣ヲ以テ本官ヲ來訪シ本官ノ同意ヲ得度キ旨申出テタルニ付本官ハ目下ノ處當方面ハ極メテ平穩ナルニ付此ノ際慌テ、出兵ヲ要求スルカ如キハ考ヘモノナリト種々説明ヲ加ヘ引取ラシメタルカ鮮人間ニハ各團體ノ名義ヲ以テ出兵要求ノ電報發出方寄々協議シ居ル趣聞込ミモアリ本二十一日鮮人民會長ヲ呼出シ在留鮮人ノ行動ニ付注意セシムルト共ニ此ノ際在留鮮人ハ充分自重シ支那側ヲ挑發スルカ如キ行動ニ出テサル様申聞ケ置ケリ

二、本二十一日日本官第一營長吳連明及商埠公安局長曹明倫

ヲ往訪シ(商埠局長ハ目下局子街ニ旅行シ不在)大臣

發在支公使宛訓令ノ趣旨ニ基キ奉天事件ニ付一應説明

ヲ加ヘ當地在任内鮮人ニ對スル報復的行動ノ取締方並

在留民保護ニ付適切ナル措置ヲ執ラレ度キ旨申入レタ

ル處何レモ快諾シ當地ニ關スル限り嚴重警戒シ何等事

故ノ發生セサル様取計フヘキ旨言明セリ

右報告申進ス

本信寫送付先

外務大臣 局子街 百草溝 琿春

414 昭和6年9月21日 兎玉(友雄) 朝鮮軍參謀長より  
二宮(治重) 參謀次長宛(電報)

局子街民會學校消防置場放火等の事件に対し

中国側が積極的鎮圧の手段を講ぜず在留朝鮮

人の不安増大について

(編註) 9月21日後發

9月21日後着

朝參報第五〇號(至急)

一、昨二十日十時半ヨリ局子街民會學校消防置場ニ放火セ

ラレ又龍井ニ於テモ鐵道機關庫ヲ暴民ニ襲ハレ輪轉材

料ト共ニ燒キ拂ハレ市内ニハ諸所爆彈ヲ投セラレ危險

刻々迫リツツアリ龍井會寧間電話不通トナリ此等暴民

ハ支那軍人ノ變裝セルモノナリトノ噂アリテ支那側ハ

積極的ニ之カ鎮壓ノ手段ヲ講セス

二、吉林ヨリ支那軍一師團間島ニ増援ノ報アリ一層内鮮人

ノ不安ヲ増大シツツアリ

三、第十九師團ハ益々其ノ警備ヲ嚴ニシ一部ヲ國境ニ近ク

推進シ情況ニ應シ何時ニテモ此等地方ニ出動スルノ準備ニアリ

編註 発着地名記載無し。

415 昭和6年9月22日 在ハルビン大橋總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

事件發生すれば自衛力なき在留日本人は全滅

の危険あり軍隊派遣方申請したきについて

ハルビン 尙  
本省 9月22日前着  
第一九九號

本官發奉天宛電報第一二六號  
當地ノ情勢大臣宛往電第一九六號及第一九七號ノ通ナル處  
萬一當地ニ於テ事件發生スルニ於テハ自衛力ナキ在留邦人  
ハ全滅ノ危險ニアルニ付今暫クノ情勢ヲ見タル上其必要アル  
ニ於テハ軍隊ノ派遣方ヲ申請スルコトアルヘキニ付右御  
含ミノ上準備方御取計ヒ相成タシ  
右軍司令官ニ御傳ヘアリタシ  
大臣、公使、北平、南京へ轉電セリ

416 昭和6年9月24日 在中国重光公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

日本政府は間島地方へ出兵しないことに決定  
した旨在中國閣内各領事宛電報について

上海 9月24日後発  
本省 9月25日前着

第一〇三一號

417 昭和6年9月25日 在間島岡田総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

柳条溝事件に鑑み警察機關拡充方意見具申

☆ 昭和六年九月二十五日在間島岡田總領事發幣原外務大臣宛  
電報要旨

警察機關擴充方ノ件

九月二十二日貴電居留民保護ニ關シ現在ノ治安狀況ニ於テ  
ハ應援警察官ヲ必要トセズ但シ當地方昨年來共匪ノ暴動以  
來常ニ警察官ノ手不足ヲ感シ居レルニ加ヘ南滿洲鐵道沿線  
地方ニ於ケル我軍事行動ニ因リ日支兩國民間ノ感情ヲ刺戟  
シ之ガ爲事件發生ノ虞アリテ民心動搖シ居レルヲ以テ此際  
國境地方ノ事情ニ通ズル巡查五十名ヲ現地採用シ當地方向  
キニ仕立テ尙間島在勤警察官中功勞アル者三名ヲ警部補ニ  
任用シ警備ノ充實ヲ行ヒ以テ萬一ニ備ヘ應援警察官ノ派遣  
又ハ出兵等ノ問題ヲ起サザル様致度ニ付右御詮議相成度シ

418 昭和6年9月26日 在鐵嶺石塚領事代理より  
幣原外務大臣宛(電報)

敗殘兵による暴行放火等により付屬地に避難

本使發在支各領事宛電報  
合第一二五二號

大臣發本使宛電報合第五九五號ニ關シ  
今回ノ事件ニ關シ政府ニ於テハ事態ノ擴大ヲ防止スル方針  
ナル次第ハ既ニ御承知ノ通ナリ然ルニ昨今我軍間島哈爾賓  
へ出兵セリトカ又ハ出兵セントス等ノ報道頻々傳ヘラルル  
處間島地方ニ付テハ事態惡化シ投彈放火等ノ事件アリ同地  
方内鮮人ハ不安ノ餘リ出兵ヲ請願シ居ルモ中國官憲ニ於テ  
モ極力地方治安維持及在留邦人ノ保護ニ努ムヘキ方針ニテ  
同地方帝國領事ト聯絡シテ充分努力シ居ル實情ナルヲ以テ  
政府ニ於テハ同地方ヘノ出兵ハ之ヲナサルコトニ決定セ  
リ將又哈爾賓出兵ニ關シテハ冒頭大臣來電ノ通ナリ  
當方ニ於テハ右ノ次第公使館發表トシテ内外新聞ニ公表方  
取計タルニ付テハ貴官ニ於テモ必要ニ應シ然ルヘク御利用  
相成様致シ度シ  
本電宛先在華各領事、(滿洲ハ奉天ノミ)及香港、大臣へ  
轉電セリ

する朝鮮人のため救済費請求について

鐵嶺 尙  
本省 9月26日前着

第二八號

本官發朝鮮總督宛電報左ノ通

今回ノ事變ニテ敗殘兵ハ奧地鮮人ニ對シ殺害婦女子ニ暴行  
放火等ヲ恣ニシ爲ニ鮮人ハ着ノミ着ノ儘ニテ續々附屬地ニ  
避難シツツアリ目下當地及新臺子ニ約百名ノ避難鮮人アリ  
テ當館ニ食糧支給方ヲ請願シ來レリ其他敗殘兵ノ爲負傷シ  
入院治療ノ必要アルモノアリ尙避難者ハ茲數日中増加スル  
見込ナルニ付此際救済費トシテ二百圓至急支出電送方特ニ  
御詮議アリタシ

外務大臣、奉天總領事へ轉電ス

419 昭和6年9月29日 幣原外務大臣より  
在間島岡田總領事宛(電報)

治安維持のため朝鮮總督府からの応援警察官  
増派手配完了方通知

☆ 昭和六年九月二十九日幣原外務大臣發在間島岡田總領事宛

電報要旨

九月二十三日電報シ置キタル朝鮮總督府ヨリ應援警察官派遣ノ件同總督ヨリ二十九日派遣ノ準備完成ノ旨回電アリタリ

420 昭和6年9月30日 在局子街田中分館主任より 在間島岡田總領事宛

治安維持のため警察官の増員が必要について

昭和六年九月三十日附在局子街田中分館主任發信在間島岡田總領事宛稟請要旨

時局ニ備フル爲警察官増配方ニ關スル件

一 支那側ハ責任ヲ以テ間島ノ治安維持ニ任ズベキ旨言明シ本官ヨリモ不斷支那側ヲ督勵善處セシメ現在ニテハ兎モ角比較氏平靜ヲ保チツツアルモ右ハ全ク今回事件ニ對スル吉林省政府ノ無抵抗主義ニ順應シタルト日本軍ノ進入ニ依ル地方擾亂ノ防止及文武主腦部ノ自己保身策ニ出デントスル一時の辦法ニ外ナラズ而シテ出兵問題ニ關シテハ幾多ノ論議アルモ要スルニ民間ハ右支那側ノ形勢ハ在留民ノ生民財產ニ危險ヲ誘發スル可能性充分アルヲ以テ此際即時政策的出

本大臣發滿洲里宛電報第一二號

貴電第一九號ニ関シ

我軍ガ貴地方ニ進出スルコトナキハ哈尔賓宛往電第六七號等ニ依リ御承知ノ通ニシテ右ノ事實判明スル以上貴地中国官民及我居留民ノ動搖スル差当リノ理由無キニ至リタル譯合ナルニ付居留民ニ對シテハ此際無用ノ危虞ヲ抱カザル様鎮撫セラルト同時ニ中国官憲ニ對シテモ警戒保護方ニ付今後一層督勵セラレ度ク尚此際万一ノ場合ヲ豫想シ蘇聯側ニ避難方ニ付豫メ同国政府ニ申入ルコトハ時局柄相当機微ナル關係モアリ暫ラク情勢ヲ見究ムルコト、致シ度尤突發事件等ノ爲緊急已ムヲ得サル場合ニハ貴電第一八號貴聯領事ノ言明モアリ同領事ニ依頼シテ蘇聯領内ニ一時の避難ノ應急手當ヲ講セラル、ノ餘地アルヘシト存セラル、ニ付右御含ノ上可然御措置アリ度

哈尔賓ヨリ齊々哈尔ニ轉電アリ度

公使、在露大使、北平、奉天ニ轉電セリ

四 治外法権問題

422 昭和6年10月1日

在奉天林總領事より 幣原外務大臣宛(電報)

兵ヲ斷行シ間島問題ヲ解決セヨト主張シ出兵セズシテ萬一犧牲者ヲ出シタルトキノ責任ヲ問ハントスル態度ヲ固執シ依然策動ヲ續ケツツアル形跡アリ一方事件ノ推移ニ注意シツツアル支那一般軍隊、民衆ノ内面ニ潛メル對日感情ハ倍々惡化シ就中事件以來外出禁止ヲ命セラレ居ル軍隊内部ノ不平ハ日ト共ニ表面化セントスル虞アリト見ルヲ得ベク其ノ他内鮮人ノ出兵ヲ促進セントスル第二段の策動及鎮守使ノ態度間隙ニ乗セントスル共匪、馬賊横行竝ニ時局平定ヲ俟テ組織セントスル反日會等ノ行動如何ニ依リテハ我方ノ自衛手段ヲ執ラザルベカラザル事態ハ寧ロ今後ニ生ズルモノト認メラルルヲ以テ此際豫メ警察官ヲ相當増配シ萬一ノ事態發生ニ備ヘラルル様致度シ

421 昭和6年10月1日 幣原外務大臣より 在ハルビン大橋總領事宛(電報)

滿洲里方面の居留民保護方につき訓令

第七六號(暗)

貴電第二六二號ニ關シ、滿洲里ニ轉電アリ度

421 昭和6年10月1日 幣原外務大臣より 在ハルビン大橋總領事宛(電報)

滿洲里方面の居留民保護方につき訓令

本省 10月1日後4時20分發

第七六號(暗)

貴電第二六二號ニ關シ、滿洲里ニ轉電アリ度

避難朝鮮人救済のため政府方針決定方稟申

奉天 10月1日前發 本省 10月1日前着

第八一六號

事變ニ依ル避難朝鮮人救済ノ爲ニ二百圓支出方鐵嶺領事ヨリ朝鮮總督府ヘ電請シタルニ對シ同府外事課長ヨリ當館ニ對シ本件ニ付テハ其所屬ニ關シ中央ト交渉中ナルカ鐵嶺ノ分ハ緊急且少額ニ付不取敢出先官憲ニテ臨機支出アリタキ旨當館ヘ來電アリタルニ依リ不取敢鐵嶺民會ヨリ立替ヘ支出ノコトニ鐵嶺領事ト打合セ置キタリ本件鮮人救済ハ單ニ鐵嶺ノミニ止マラス各地ニ其必要ヲ生スルコトト思考セラレ旁前記總督府來電ノ次第モアリ關係ノ向ト御打合ノ上政府ノ方針至急決定相成様御配慮ヲ得タシ

支、北平、在滿洲各領事、關東長官、朝鮮總督ニ轉電セリ

423 昭和6年10月2日 今井田朝鮮總督府政務總監より 永井外務次官宛

事変による奥地在朝鮮人の被害者、避難民等の救済保護について

昭和六年十月二日

(10月3日接受)

朝鮮總督府政務總監 今井田 清徳〔印〕

外務次官 永井 松三殿

滿洲事變ニ起因スル奥地在住鮮人ノ被害防止等ニ関スル件

今回ノ滿洲事變後支那敗殘兵奥地ニ竄入シ各地ノ鮮農ニ危害ヲ加フルモノ頻發シ為メニ鮮農ハ収獲時期ニモ拘ラズ避難スルモノ相繼クノ狀況ニ有之此状態ニシテ持續スルニ於テハ折角滿洲各地ニ開拓シタル鮮人ノ生活ハ根底ヨリ攪亂セラルルノミナラズ副ニ鮮人ハ稍モスレバ政府ハ内地人ニ厚ク鮮人ニ薄キノ誤解ヲ抱ケル際一般鮮人ノ思想上ニ及ボス影響少ナカラザルモノ有之、朝鮮統治上引ヒテハ國策上不測ノ不利ヲ招来スルノ虞ナキヲ保セズ憂慮ニ堪エザルニ就キテハ此際左記ノ點ニ関シ相當御措置相成ル様致度得貴意候

記

一、奥地在住鮮人ノ保護ニ関シ至急適切ナル措置ヲ講セラレタキコト

二、今回ノ事變ニ依ル鮮人ノ被害者、避難民等ノ救済救護

令

(局子街報告)

四縣行政監督公署密訓令第二九號

延吉縣長ニ令ス

東北邊防軍副司令官公署參謀處ノ公函ニ依レハ現在對日外交危急ノ秋ニ際シ之レニ應付スル方法ハ一ニ穩健慎重ナルヲ要シ日人ニ對シテハ彼力如何ニ挑戰シ來ルモ我方ハ須ク容忍シ反抗シテ事端ヲ醸成スルコトアルヘカラス此旨所屬ニ密飭シテ切實ニ注意スヘシトノ趣ニ付テハ該縣長ニ於テハ所屬各機關ニ命令シ遵照辦理セシムヘシ

民國二十年九月二十六日

監督 張書翰

二、時局ニ對スル日鮮人ノ陰謀查防方延吉市政籌備處長ヨリ隸下各機關宛訓令 (本館署長報告)

吉林延吉市政籌備處長兼延輝和汪行政監督公署訓令第六七一號

四縣々長、同公安局長、商埠公安局長ニ令ス

曩ニ南滿地方ニ於テ勃發セシ中日軍ノ衝突事件モ最近續發ヲ見ス爾來治安恢復ニ努メアル處ナルカ當延邊地

ニ関シテハ内地人側ト同様ニ取扱ハルルコト

三、内地人、鮮人ノ區別ナク何レモ同様ニ保護救済スベキ趣旨ヲ機會アルコトニ宣明セラレタキコト

424 昭和6年10月7日

在間島岡田總領事より 幣原外務大臣宛

間島方面における中国側の時局に対する管下各機關宛訓令につき訳報

機密第一、二〇一號

(10月13日接受)

昭和六年十月七日

在間島

總領事 岡田 兼一〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

中国側ノ時局ニ對スル訓令其ノ他ニ關スル件

本件ニ關シ諜知シタル處ニ據レハ中國側各機關ハ時局ニ對シ隸下機關宛左記譯文ノ如ク訓令シタリト右報告ス

記

一、時局ニ對シ容忍方延吉市政籌備處長ヨリ延吉縣長宛訓

方ハ幸ニシテ各官ノ善處ニ依リ不祥事ノ發生ナク又治安ヲ維持シ日軍ノ出動ヲ防止スルヲ得タルハ國家家人ノ為メ欣快トスル所ナリ

然ルニ時局未タ全ク平靜ニ歸シタルニアラス前途樂觀ヲ許サ、ル時ナレハ各官ハ益々慎重ニシテ善處セラレタク尚此ノ機會ヲ利用シ日鮮人ノ不良分子ハ陰謀ヲ企テ出兵ノ口實ヲ設ケント汲々タルモノアリ過日延邊地方ニ於ケル暴舉ノ怪事件ハ龍井村商埠松公安局長ノ呈報ニ依ルモ其ノ内容畧ホ窺知スルヲ得ル次第ナレハ此ノ際各官ハ所屬一体ヲ戒飭シ日鮮人ノ行動ハ嚴ニ視察シ以テ各種陰謀ヲ未然ニ防止スルト共ニ證據確實ナルモノアル時ハ一應本處長ニ呈報指令ヲ仰ク事トシ聊モ獨斷專行ニ依リ交渉問題ヲ惹起スルカ如キハ極力之ヲ避ケ萬遺憾ナキヲ期セラレタシ云々

中華民國二十年九月二十七日

監督 張書翰

三、時局ニ對スル日本側ノ行動内報方延吉市政籌備處長ヨリ民族派全盛鎬依囑 (局子街報告) 張延吉市政籌備處長ハ八月二十八日民族派全盛鎬ヲ籌

425

昭和6年10月9日

在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

漢口租界に対する仏国の態度は民国側の暴力  
に対しては飽迄防御する積り等との同国公使

關東廳警務局長  
管下一般

在中公使 北平首席  
奉天 吉林 哈爾濱 上海 廣東各總領事  
長春 安東 南京 鐵嶺 通化各領事

本信寫送付先

- 1、治安維持ニ當リタル者ハ時局安定後上司ニ申請シ相當ノ待遇ヲ與フ
- 2、前項ヲ確守スルニ於テハ軍警團ノ討伐隊出動ヲ中止シ相互ノ衝突ヲ避ケシム
- 3、時局ニ對スル重要事件並ニ日軍ノ行動ヲ呈報シタル者ハ時局安定後特賞ス
- 4、流言蜚語又ハ外部ノ策動ニ依リ逃走シタル者速カニ歸順スルトキハ處分ヲ取消ス

備處ニ招致シ今日本ハ滿洲各地へ軍隊ヲ増派シタルハ滿蒙積極政策ノ實行ニ着手シタルモノニシテ當地方ニ於テモ右政策實現化ノ目的ニテ惡辣ナル陰謀ヲ劃策シ既ニ最近多數密探ノ潛入説アリ現ニ日本側軍部及京城方面ヨリ日鮮人思想團體ノ重要人物頻リニ來往シツ、アル趣ニ付此際自治促進會員ヲシテ極力其言動ヲ内査シ急報アリタキ吉依頼シタル趣ナリ

四、時局ニ對スル日鮮人ノ陰謀查防方延吉縣公安局長ヨリ第二分局長宛訓令 (銅佛寺分署長報告)

延邊在住日鮮人ハ今回ノ奉天事件擴大シ當延邊地方ニモ日軍ノ出動ヲ待望スル者、又ハ自己ノ利益ヲ得ンカ為メ出兵運動ヲナシタル者アリト云フカ當地方ハ我方ノ警戒措置適切ナリシ為メ時局ノ安定ヲ見タル次第ナルモノ不良日鮮人及日官憲ノ走狗分子ハ日軍出兵ノ機ヲ逸シタルヲ遺憾トシ目下種々ナル陰謀ヲ企テ居レリトノ情報アリ

一方日軍ハ延邊國境ニ對峙シ侵入ノ機ヲ窺ヒ居ル趣ニ付此際日鮮人ノ動靜ヲ嚴密内査スルト共ニ事變ヲ未然ニ防止シ治安ヲ破壞セラレサル様努ムヘシ

又日軍警ノ行動變化ヲ探知シタルトキハ即報スヘシ云々  
五、日本警察官對鮮人事件ニ對シ不干渉方汪清縣公安局長ヨリ第二分局長宛訓令 (嘎呀河報告)

現下日支衝突事件ヲ機トシテ各地共產分子ヲ某國機關ノ煽動ニ依リ暴動ヲ起サムトスル情報頻々タルモノアリ若シ共產分子カ暴動ヲ惹起シタル場合ハ決シテ武力行動ヲ為サス首謀者等ニ嚴重説諭ヲ加ヘ事件ノ鎮壓ニ努メラルヘシ一般鮮人ニ對スル事件ハ寛大ナル處置ヲ執リ努メテ彼等ニ優遇ヲ與ヘ深ク干渉セスシテ日本側ニ種々ノ口實ヲ與ヘサル様注意セラレタク尚ホ奉天事件ハ漸次終熄ニ向ヒツ、アリ且又凉水泉水管内ニ於ケル鮮人射殺事件モ一段落ヲ告ケタリ目下ノ狀態ヨリ察スルニ日本軍ノ當地方ニ出動スルカ如キコトハ萬ナカクルヘキモ彼等ハ暗々出兵ノ機ヲ窺ヒツ、アルニ付此際日本警察官ノ對鮮人事件ニハ一切干渉セス出兵ノ口實ヲ與ヘサルコトニ留意スヘシ

六、時局ニ伴ヒ日本側ノ馬賊操縱説ニ對シ歸順勸告方延吉鎮守使ノ隷下各機關宛ノ訓令 (銅佛寺分署長報告)  
1、向フ二ヶ月間集團的行動ヲ中止シ中國軍警團ト協力シ

館シヤイエの内話について

南京 10月9日後發  
本省 10月9日後着

第六四〇號

九日佛蘭西公使館「シヤイエ」ノ本官ニ對スル内話要領左ノ通

- (一)漢口租界ニ對スル佛國ノ態度ハ何等變化ナク民國側ノ暴力ニ對シテハ飽迄之ヲ防護スル積リナリ
- (二)南京ノ要人ハ何レモ廣東トノ妥協成立ヲ確信シ居ル口吻ヲ洩シツアル處蔣介石ハ直系部隊及軍需品ヲ續々津浦線方面ニ輸送シツアルニ鑑ミ蔣ハ既ニ南京脫出ヲ考慮シ居ルモノト認メラル

(三)京滬鐵道局員ノ内話ニ依レハ第十九路軍ハ同鐵道局ニ對シ十日迄ニ車輛二百ヲ上海ニ集結スル様命令シ來レル趣ナルニ付同軍ノ南京入ハ近ク實行セラルルモノト思ハル

(四)當地ニハ民國人ト結婚セル佛國婦人約十名アル處何レモ時局切迫シ外國人ノ生命財産危險トナレル旨領事館ニ警告シ來レリ

(五)外交部員ノ内話ニ依レハ萬一日本ノ軍艦多數來攻ノ場合

ハ江陰附近ニ汽船ヲ沈メ上流ヘノ溯航ヲ阻止スル計畫アリトノコトナリ云々

支、北平、奉天、天津、漢口、廣東へ轉電セリ

426 昭和6年10月14日 在間島岡田総領事より 幣原外務大臣宛(電報)

間諜朝鮮人民会連合会会議において治安維持  
機関拡張要求等に関し協議について

間島 発  
本省 10月14日前着

第二二八號

間諜朝鮮人民会聯合會會議ヲ十月十日ヨリ三日間當地民會會議室ニ於テ開催シ(出席民會長十四名)(一)治安維持機關擴張要求ノ件(二)統一的産業機關組織ノ件(三)中國宛被囚同胞釋放要求ノ件(往電第二二〇號参照)ヲ協議セリ委細公信長春ヨリ吉林へ轉電アリタシ  
公使、奉天、長春、朝鮮總督府、局子街、百草溝、頭道溝、琿春へ轉電セリ

シテ避難シタルコトトテ被害モ甚大ナルモノアルベク加フルニ嚴寒ヲ控ヘ居ルコトトテ救助ハ最モ敏速ナルヲ要スベキヲ以テ此ノ點御留意ノ上適當ノ御措置相煩シ度シ  
追而現ニ救助費要請中ノモノ左記ノ通りナルニ付爲念申添フ

記

鐵嶺管内 貳百圓  
全 上 五百圓  
吉林管内 貳千圓  
奉天管内 金額未定ナルモ相當廣範圍ニ救濟ノ要アルモノノ如シ

以上

428 昭和6年10月15日 三宅関東軍參謀長より 二宮參謀次長宛(電報)

清源県長による朝鮮人農民召喚状提出について

陸同文

昭和六、一〇、一六

電報 一〇、一五後四、四五發

427 昭和6年10月14日 今井田朝鮮總督府政務總監より 永井外務次官宛

滿州事變に基因する在外朝鮮人の救助費支出は  
外務省で一括処理方出先官憲に徹底について

外第一三六號 (10月16日接受)

昭和六年十月十四日

朝鮮總督府政務總監 今井田 清徳〔印〕

外務次官 永井 松三殿

滿洲事變ニ基因スル在外朝鮮人ノ救助費支出ニ  
關スル件

今回ノ事件以來中國敗殘兵ノ爲ニ奧地鮮人ノ蒙ル被害ハ日ニ増加スルノ傾向アリ之ガ救濟ニ關シテハ先般小官上京中打合ノ結果今回ノ事件ニ關スル救濟費ハ貴省ニ於テ一括處理セラルルコトニ協議纏リタル處其ノ後ニ於テモ在滿各地ノ領事ヨリ救濟費ノ支出ニ關シ總督府ニ要求シ來ル尠ナカラズ或ハ協議ノ結果ガ出先官憲ニ撤底シ居ラザル爲カトモ存ゼラレ本府ヨリモ救濟費ノ請求ハ直接貴省宛差出スベキ旨各領事ニ送り置キタリ  
今回ノ事件ニ依ル被害ハ相當廣範圍ニ涉リ且ツ收穫期ニ際

參謀次長宛

関東軍參謀長

関参第七二七号

一、瀋海沿線清源縣長ハ關内各村長ニ命シ避難セル鮮農ノ帰還方斡旋中ナルカ去ル十日付ヲ以テ千金堡(撫順南方五籽)日本領事分館警察署宛左記要旨ノ鮮農召喚狀ヲ呈出シ來レリ

左記

事件發生後一般鮮農ハ支那官兵ノ暴虐ニ遭ヒ爲ニ遠ク避難シテ未タ歸ラス斯クテハ不安ノ期ハ何時迄モ續クヘク支那官憲ハ將來絶對ニ日鮮人ヲ保護スル故一日モ早く原地ニ歸還スル様勧誘アリタシ云云ト

二、鮮農ヲ極端ニ壓迫驅逐セル支那官憲力最近日本軍討伐ノ勢ニ怖レ掌ヲカヘス如キ此種好意ハ時日ノ経過ト共ニ各所ニ現ハルヘク將來之カ動機トナリテ鮮農問題解決ノ端緒トスルヲ必要ナリト信ス

三、本十五日午前七時三十分海龍行列車ハ當地保安隊ノ護衛ニヨリ出發セリ沿線土民ニ良好ナル衝動ヲ與フヘク北山城子ニ在ル于芷山モ專ラ日本ニ恭順ノ意ヲ表シ列車ノ開通ヲ期待シアルカ如シ

429 昭和6年10月17日 幣原外務大臣より  
宇垣(一成)朝鮮総督宛(電報)

事変による朝鮮人救済費は外務省より支出方  
決定事情報知

別電 十月十七日後五時五十分発幣原外務大臣より  
宇垣朝鮮総督宛第四七号  
朝鮮人救済費支出の決定事情

本省 10月17日後5時50分発

第四六號(暗)

在奉天林総領事ヨリ「事変ニ依ル朝鮮人救済費ハ外務省ヨリ  
支出ニ決定ノ旨朝鮮総督府ヨリ電報アリタル處事情電報アリ  
度」旨電請アリタルニ付前電第四七号ノ通回電シ置ケリ  
為念

(別電)

本省 10月17日後5時50分発

第四七號(暗)

本大臣發在奉天總領事宛電報第二六五号

(奉天宛往電第二六五号全文)

430 昭和6年10月17日 在奉天林総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

日本・朝鮮人間差別待遇に対する不満朝鮮人  
間に擡頭の傾向につき救済費等の件至急請訓

奉天 10月17日後発  
本省 10月18日前着

第一〇一五號  
往電第九七六號ニ關シ

事變關係鮮人救済ニ關シテハ關係機關ニ於テ全力ヲ盡シ居  
ルモ内鮮人差別待遇ナル不滿漸次鮮人間ニ擡頭ノ傾向モア  
リ又二十、二十一兩日當地ニ於テ全滿鮮人民會聯合會(右  
ハ氣勢緩和ノ趣旨ニテ當地民會長ノ斡旋ニ依リ全滿十六ヶ  
所民會代表者出席)開催ノ次第モアルニ付前記往電救済費  
ノ件至急承知シタク尙往電第九〇九號ノ件モ併せて御回電  
ヲ請フ

間島、長春、鐵嶺ヨリ各分館へ轉電アリタシ  
哈爾濱ヨリ滿洲里へ轉報アリタシ  
在滿各領事へ轉電セリ

431 昭和6年10月18日 幣原外務大臣より  
在間島岡田總領事宛

警察官増員経費の支出承認されたるについて

昭和六年十月十八日幣原外務大臣發在間島岡田總領事宛電  
報要旨

九月二十五日貴電警察官五十名増員ノ件本省ニ於テモ其ノ  
必要ヲ認メ所要経費ハ他ノ事件費ト一括シテ目下豫備金支  
出方手配中ナルモ十月十三日貴電御申出ノ十八日迄ニ確答  
シ得ザル次第ナルガ除隊兵ヲ其ノ儘直ニ採用スルニハ間ニ  
合ヒ難キニ付臨機ノ措置トシテ貴官ニ於テ軍隊側ト内議ヲ  
遂ゲラレ此際五十名ノ採用候補者ヲ豫メ人選シ置キ本件ノ  
経費支出ヲ得タル上採用ノ條件附ニテ各合格者ニ對シ何時  
ニテモ急速貴館ニ集合シ得ル様手配シ置カルルノ外ナシト  
存ゼラル

尙三道溝及甕聲礮子分署新設経費ノ内容電報アリ度シ

432 昭和6年10月21日 幣原外務大臣より  
宇垣朝鮮総督宛(電報)

在東北避難朝鮮人救済費を外務省にて支弁方

430 昭和6年10月17日 在奉天林総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

日本・朝鮮人間差別待遇に対する不満朝鮮人  
間に擡頭の傾向につき救済費等の件至急請訓

奉天 10月17日後発  
本省 10月18日前着

第一〇一五號  
往電第九七六號ニ關シ

事變關係鮮人救済ニ關シテハ關係機關ニ於テ全力ヲ盡シ居  
ルモ内鮮人差別待遇ナル不滿漸次鮮人間ニ擡頭ノ傾向モア  
リ又二十、二十一兩日當地ニ於テ全滿鮮人民會聯合會(右  
ハ氣勢緩和ノ趣旨ニテ當地民會長ノ斡旋ニ依リ全滿十六ヶ  
所民會代表者出席)開催ノ次第モアルニ付前記往電救済費  
ノ件至急承知シタク尙往電第九〇九號ノ件モ併せて御回電  
ヲ請フ

間島、長春、鐵嶺ヨリ各分館へ轉電アリタシ  
哈爾濱ヨリ滿洲里へ轉報アリタシ  
在滿各領事へ轉電セリ

決定の旨回電

付記 高裁案(十月二十日亜細亜局第二課起案)

「在滿朝鮮人救済費中應急ノ分一時立替支  
出方ノ件」

本省 10月21日後6時25分発

第四八號(暗、至急)

在滿避難朝鮮人救済費支弁方ニ關シ十月十四日付外第一三六  
號今井田政務總監發當省永井次官宛御照會並十九日貴電ノ  
趣了承右ハ御申越ノ通り當省ニ於テ支弁スルコトニ可致尙  
出先各領事ニハ此旨電訓シタルニ付御了知相成度シ

(付記)

高裁案

(付箋一) (付箋二)

在滿朝鮮人救済費中應急ノ分一時立替支出方ノ件

今次滿洲事変ニ因ル時局悪化ノ為メ在支内鮮人ノ引揚避難  
續々行ハレ右ノ中困窮者ニ對シテハ相当救済ヲ行フノ必要  
アルニ鑑ミ之カ費用ハ關係各館ヨリノ報告ヲ總括シタル上  
必要額ヲ算定シ事件費中ニ包括シテ豫備金支出請求方目下

銳意手配中ナル處事變ニ依リ直接且最モ深刻ナル影響ヲ蒙リタルモノハ在滿各地朝鮮人ニシテ中國敗殘兵及馬賊ノ脅迫ヲ受ケ收獲期ヲ目前ニ徒手安全地帯ニ避難シ來ル者陸續絶エサル実情ニシテ就中奉天、吉林、鉄嶺、長春等各館管内最モ甚シキヲ見ツ、アリ為メニ是等各地領事館ニ於テハ差当リノ救護及帰還費用ノ支給等ノ為應急ノ支出ヲ餘儀無クセラレツ、アル状態ナリ

元來在滿朝鮮人ノ救護事務ハ大正十年以來外務省及朝鮮總督府間ノ協定ニ依リ總督府ノ所管タルコトニ定メラレタル所ナルカ事變後拓務省及總督府ヨリ今回ノ時局ノ特殊且一般的ナルニ鑑ミ並内鮮人ニ就キ救護ノ恩典ニ差別ヲ設クヘキニ非ストノ理由ニ依リ朝鮮人ノ救護ニ付テモ外務省ニ於テ擔當セラレ度キ旨懇請ノ次第アリ右ハ豫算分擔ノ根本義ニ照ラシ聊カ疑義アル所ナルモ事急ニシテ徒ラニ之ヲ論議スルノ違無キノミナラス内地人ニ關スル救護費ニ付相当ノ豫算外支出ヲ求タルノ必要モアル際際ナルヲ以テ朝鮮人ニ關スル分ヲモ之ニ一括シテ請求スルコト時宜ニ適スルモノト認メ便宜外務省ニ於テ取扱フコト、シタル次第ナリ(別紙<sup>(省廳)</sup>在奉天總領事トノ往復電報参照)

ノ趣旨ニテ總督府ト交渉スルモ別添<sup>(編註)</sup>十四日附政務總監公信ニ徴シ先方ニ於テ容易ニ納得セサルヘク徒ラニ問題ヲ紛糾セシムル虞アリ就テハ豫備金請求ニハ本件立替分ヲモ包括計上スルコト、シテ本省限りニテ支弁相成ル様御再考ヲ切望ス(三浦印)

(付箋二) 本件經費ノ立替支出ハ不得已可キモ豫備金支出トハ離レ奉天總領事宛電報第二六五號末段ノ主旨ニ依リ朝鮮總督府ヨリ回收スルコト然ルヘク右回收ノ交渉ヲ為スニ際シ今後ハ前電末段ノ主旨ニ依リ處理スルコト併セテ總督府側ニ申入ルルコト然ル可キ乎(松宮印)

編注 別添としては見合らずも、四二八文書を指すと思わ

433

昭和6年10月24日

三浦(武美) 亜細亞局第二課長より  
在間島岡田總領事宛

間島在住朝鮮人の苦境を報告し予備金支出を

画策方勧告について

昭和六年十月二十四日起草 同日付發送

然ルニ本件豫備金支出ハ刻下政府ノ財政状態ニ鑑ミ急ニ実現シ難ク猶相当ノ曲折ヲ經ヘキモノト豫期セラル、處前陳通りノ事情ニテ避難朝鮮人ハ出來得ル限り速カニ原住地ニ復歸セシメ收獲<sup>(編註)</sup>ヲ無事ニ終了セシムルノ必要アリ之カ為メ別添<sup>(省廳)</sup>來電寫ノ如ク各館ニ於テ應急ノ費用支出ノ要ニ迫ラレ居ル状態ニシテ特ニ是レ迄避難朝鮮人ニ對スル救護充分行届カサリシ憾アリタル為メ一部朝鮮人間ニハ内鮮人差別待遇ノ不滿ヲ唱フルノ聲漸次擡頭ノ傾向モアリ朝鮮總督府及拓務省ニ於テモ這般ノ傾向ヲ憂慮シ拙速のニ救護費ノ支出方再三要望ノ次第アリ右ハ此際最モ注意スヘキ所ナリト認メラル

就テハ現ニ關係各館ヨリノ請求ニ係ル差当リノ費額ハ今日迄ノ處僅々約三、〇〇〇円ノ程度ニ過キサルトニモアリ前記事件費ノ支出ヲ見タル場合填補スルノ建前ニテ是迄申請ニ係ル分ハ勿論今後モ此種要求額ハ一時本省機密費又ハ其他ノ適當ノ費目ヨリ立替支出相成ル様致度

右仰高裁

(付箋一) 會計課長ノ御意見誠ニ御尤ト存スルモ今日右御意見

岡田總領事宛

三浦書記官

(極秘、親展、私信)

拜啓益々御清適奉恭賀候陳者時局ニ際シ天晴ナル御成功御同慶至極ニ奉存候

曩ニ奉天ヨリ轉電ノ居留民保護ニ關スル調査方電訓ニ對シテモ今迄ノ事情ニ鑑ミ該当事項皆無ノ旨御報告相成リ實情誠ニ結構ノ儀トハ存シ候得共実ニ本省トシテハ此際滿鮮人ニ對スル救助的施設費ヲ時局ニ引懸ケテ一括豫備金支出要<sup>(編註)</sup>求(警備増員ニ關スル分ハ既ニ要求中)ノ腹案ニ有之從<sup>(編註)</sup>テ對鮮人救助並積極的施設ノ中核ヲ為スヘキ間諜カ表面餘リニ無事平穩(時ニ共匪ノ檢挙ハアルモ)ナ状態ノミニテハ(固ヨリ軍部鮮府ノ遣口及之ニ對スル貴官ノ御措置振等ハ之ヲ他ニ公ニスル譯ニモ行カス)大藏省當リノ素人筋ヲシテ右當方ノ計劃ヲ首肯セシムルコト困難ナル事情發生可致歟ト存セラレ候

就テハ表面靜穩ナル間諜モ時局以來中國官辺ノ拱手主義、吉林方面ヨリノ經濟的餘波、赤露、中共党ノ魔手、地元農民協會ノ潛行運動等今回ノ時局ト何等カノ關係ヲ有スル裏面ノ暗流策動等ノ為鮮良農ノ困憊特ニ我民會及金融部力甚

シキ苦境ニ陥リ居ルヘキ実狀ニ關シ隨時可成具體的ニ報告セラルト同時ニ之カ爲緊急措置キ難キ事由ヲ具シ對策上有效適切ナル御計劃ヲ樹テラレ該費用ヲ可成早日ニ御稟請相成リテハ如何歟ト存シ貴官限りノ極秘御含ミ迄ニ右氣付ノ俣御内報旁々此段得貴意候 敬具

編注一 「トシテハ」の後に「時局ニ因ル一般引揚又ハ被害

朝鮮人ノ救護費ト併セ」との書き込みあり。

編注二 「ノ」の所に「ヲ試ミ度キ」との書き込み訂正あり。

編注三 「從テ」の所に「客年共匪事件以來甚シク困憊シ居

ル貴地鮮人ニ對シテモ適當ノ名目ニ依リ相當ノ救助的施設ヲ為スコトヲ得ハ妙ナリト存セラルル」との書き込み訂正あり。

編注四 「該費用」の前に「全然貴方ノ自發的御考案トシテ」

との書き込みあり。

434 昭和6年10月30日 在奉天林總領事より 幣原外務大臣宛(電報)

朝鮮人取締り保護等に関する朝鮮軍等との協

等カ玄益哲ト所見ヲ交換シテ得タル感想ニ依ルモ玄ハ確カニ自己ノ行動ノ誤リ居タルコトヲ認識シ出來得レハ此ノ機會ニ國民府ヲ解散シ更メテ日本側ノ援助ヲ得テ一般鮮農ノ利益保持ニ盡力スル誠意ヲ有スルモノナリト認定セラルルト共ニ玄カ果シテ斯ル心機ノ轉廻ヲナシタリトセハ玄ヲ釋放利用シ國民府ヲ自發的ニ解散セシメ地方民ノ指導ニ至ラシムルコトハ機宜ニ適スル措置ト思考セラル

二、國民府解散後ハ生活ニ苦シムモノハ今後新設セラルヘキ本邦關係ノ農場ニ使用シ或ハ自警團ニ改變スル等適當ノ後始末ヲ爲シ所有武器ハ之ヲ押收スルコトトスヘキ處玄ノ談ニ依レハ國民府ノ解散ハ同志約一〇名ノ賛成ヲ得ハ決行シ得ヘク壯丁ハ約百二十餘ナルモ武器ハ大小約六〇挺ニ過キサレ趣ナリ

三、右ノ爲差當リ玄益哲ノ手ヲ通シ國民府ノ主要人物ヲ適當ノ場所ニ呼ヒ寄セ尹大尉及吳副領事ニ於テ直接面談シ國民府ノ解散乃至國民府員ノ歸順ヲ慫慂スルコト

轉電先、朝鮮總督府、政務總監、吉林

議結果報告

奉天 本省 10月30日後着

第一一四四號

當地方現下ノ情勢ニ應シ鮮人ノ取締保護ニ關スル對策ニ付テハ關係諸機關ニ於テ協議ヲ遂ケ居ル次第ナルカ從來我方ニ對テ數次計畫ヲ立テ乍ラ實效ヲ舉クルニ至ラサル國民府ニ對スル對策モ現下我軍ノ威力ノ存スル間ニ根本的措置ヲ講スルコト機宜ニ適スト認メラレタルニ依リ廿九日朝鮮軍金子中佐尹大尉及福島派遣員等ヲモ加ヘ當館ニ於テ協議ヲ遂ケタル處意見ノ一致セル處左ノ通

一、地方鮮農ハ從來トモ國民府ノ存在ニ不滿ヲ抱キ居リタルハ既報ノ通ナル處他方玄益哲ノ言ニ徵スレハ國民府

モ何等カ局面ノ轉回ヲ計ル必要ヲ痛感シ乍ラモ從來ノ行懸ニ囚ハレ身動キノ出來サル破目ニ陥リ居タル趣ナルニ加ヘ今回ノ事變ニ依リ

日本側ハ必要ニ依リテハ實力ヲ用ヒ國民府ニ對シ壓<sup>(二文字分)</sup>ヲ加ヘ得ル如キ感想ヲ與ヘ不逞鮮人側ニハ甚タシキ恐怖心ヲ與ヘ居ルヤニ觀察セラル加之ニ當館館員及福島派遣員尹大尉

435 昭和6年11月2日 在掏鹿齋藤(孫治)領事分館事務取扱 幣原外務大臣宛

西安県在留朝鮮人が圧迫されているとの陳情は救済費を受けようとしての言動なるものと思われるについて

機密公第二〇二號 (11月9日接受)

昭和六年十一月二日

在掏鹿領事分館

事務取扱 齋藤 孫治(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

昭和六年十一月二日附鉄嶺領事宛

機密公領第一〇七號公信寫送付

件名

一、西安縣鮮人壓迫ニ関スル件

機密公領第一〇七號

昭和六年十一月二日

在掏鹿

分館事務取扱 齋藤 孫治

在鉄嶺

領事代理 石塚 邦器殿

西安縣鮮人壓迫ニ關スル件

十月二十九日附機密第三三號貴信ヲ以テ西安、西豐縣境平崗附近在留一鮮人ノ陳情スル所ニ関シ調査方御申越ノ趣キテ承事実取調タル処右ハ全然無根ニテ該鮮人ハ救済ヲ受ケントスル企テニテ斯ノ陳情シタルモノト思ハル、処最近ニ至リ此等鮮人中今回ノ事變トハ何等ノ關係被害ナキ者ニシテ當館ニ對シ此際貧困者ハ奉天又ハ鉄嶺領事館ニ出頭セハ誰彼ノ別ナク救済ヲ受クルモノナリヤ否ヲ申立テ奉天方面ニ於ケル被害者救済ノ模様ヲ聞知シ種々陳情スル者アリ目下此等鮮人ノ保護及取締中ナルニ付右様御諒承相成度尚御參考迄ニ左記事實併セテ申進ス

追テ穀類ノ運賃ニ関シ当地糧棧筋ニ問合セタル処昨年ト變リナク目下出廻り期ニ入り馬車ノ往来繁ク官憲ハ何等干涉セサル趣ナルモ為念西安縣長ニ對シ馬車夫取締方申入レ置タリ

一、十月廿一日拘鹿鮮人民會長及副會長奉天ニ於ケル全滿朝鮮民會聯合大會ニ參列シテ歸來シ本官ニ對シ該聯合

附近ヨリ拘鹿市街ニ移転シタルカ兩親及弟妹等ハ平崗

ノ自宅ニアリ民會長ノ談ニ依レハ自分ハ直接農業セストモ兩親及弟等カ居ルヲ以テ何等差支ナク冬季農村ニ於テ徒食スルモ市街ニ於テ暮スモ差シタル苦痛ナシト

一、十月三十日平崗附近ノ鮮農雜社官外六名拘鹿市街ニ移転シタルヲ以テ民會長ヲ招致シ其ノ事由ヲ尋ネタルニ右移転者ハ近時吉林省伊通縣ニ敗殘兵一万五千人入込ミ漸時平崗地方ニ襲來スルトノ風説及匪賊ノ徘徊ニ不安ヲ感ジ斯カル危険地ニ在リテ冬季徒食スルヨリモ領事館所在地ニ移転シ当分救済ヲ受ケ明春歸來スル氣込ミナル旨陳情セリ依テ本官ハ救済ヲ要スル者ノ範圍ニアラサルヲ論シタルカ中二名ハ開原ニ赴クト称シテ立去リタルガ貴館ニ陳情セルハ其ノ一人ナリト思考ス

一、中国側ノ鮮人ニ對スル態度事變以來殊ニ皇軍鉄嶺縣及開原、清原縣下ニ出動後中国側ノ鮮人ニ對スル態度全ク一變シ鮮人ノ被害ハ日本軍ヲ誘致スルモノトシテ東邊鎮守使始メ各縣長モ亦專ラ鮮人保護ニ努メツ、アルハ事実ニシテ又鮮支人ノ粉争ヲ避ケンカ為メ各地主ニ對シ本年ハ小作料ハ勿論貸米等ニ至ル迄テ無理ナル取

會ノ決議事項中此際奧地在留鮮農ヲ安全地帯ニ引揚ケ一定ノ期間国費ヲ以テ救済スル模様ナルヲ以テ西豐縣在留鮮人中現在ノ処敗殘兵ノ被害ナキモ今後匪賊ノ出没及盜賊ノ徘徊等不安ノ念ヲ懷ク者ハ拘鹿市街又ハ開原鉄嶺等ニ赴キ救済ヲ受クル者アルヘシト申述セリ

一、十月二十日西豐縣老宮廠當館ヲ去ル邦里約六里鮮農鄭達鎮ヨリ全附近ニ敗殘兵入り込ミ鮮人殺害サレタリト申告セリ右支那側ト協力シ調査ノ結果事實無根ナルヲ確メ申告者ヲ戒ム

一、十月二十八日西豐縣譚家炉當館ヲ去ル邦里約一里半鮮農李周元方ニ敗殘兵ヲシキ者三名侵入シ衣類ヲ強奪サレタル旨申告アリタルヲ以テ取調ヘタル処事實無根ニテ右申告ハ本人ニアラスシテ他ノ者カ世間ノ噂ヲ申告シタルモノナルコト判明セリ

一、十月二十六日西豐縣平崗附近當館ヲ去ル邦里約六里鮮農金相伯方ニ馬賊四名侵入シ驢馬一頭ヲ強奪シテ逃走シタル旨申告アリ支那側ニ通報シ調査シタル処右ハ事実ニテ目下公安隊カ捜査中ナル旨回答アリタリ

一、十月二十八日民會長趙庭來ハ家族及妻等ノ都合上平崗

立ヲセサル様示達シタルコトハ當館ニ於テモ確メタル次第ニテ現在西豐縣ニ於テハ鮮人ノ借家、転居、新移住歸還等隨意ニ行ハレ居ルノミナラス一度鮮人ヨリ取上ケタル水田モ近年ノ穀安ニ地主側カ耕作シテモ利益薄スク再ヒ鮮人ノ小作ニ歸シツ、アリ

若夫レ時局ノ推移ニ伴フ治安狀況及匪賊ノ襲來、官憲ノ無力等ヲ豫想センカ何人モ不安ヲ感スルナランモ救済ヲ當テ込ミニ移転スル者ニ對シテハ相当注意ヲ要スルモノト思考ス

因ニ西安、東豐、兩縣長ニ對シ電話ニテ敗殘兵ノ有無及鮮農ノ安否ヲ尋ネタル処何レモ敗殘兵ナク鮮農モ別段ノ異狀ナク專ラ保護ニ努メ居ル旨回答アリ元ヨリ支那側ヲ依頼スル次第ニアラサルモ農村居住者ハ可成足止メスル方得策ト思考ス

本信寫送付先

外務大臣、奉天總領事

436

昭和6年11月4日

在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

485

朝鮮總督府が外務省をさしおき被害朝鮮人救助のため金一万円支出見込みについて

奉天 11月4日後発  
本省 11月5日前着

第一一九三號

森島ヨリ三浦課長へ

事變ニ依ル避難鮮人ノ救濟費ハ本省ヨリ御支出ノコトニ主義上ノ御同意ヲ得タルニ拘ラス未タ應急ノ費用トシテ各館立替ヘノ分ニ對シテスラ如何御取計相成タリヤ御通報ニ接セサル處本四日朝鮮總督府ヨリ事件ニ依ル被害鮮人救助ノ爲金一萬圓窮民救護費ヨリ至急支出ノ見込ニ付在滿鮮人民會代表奉天居留民會長ヲシテ至急救助人員食料衣服等單價及總額ヲ具シ電報ニテ申請方照會ノ次第アリ鮮人應急救濟ニ直(面)シ居ル外務省側出先機關トシテ其立場上甚タ機微ナル關係モアリ本省ノ分至急何分ノ御措置決定方切望ニ堪ヘス

437 昭和6年11月5日

在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

ト緊要ト思考スル處之カ爲ニハ此際早キニ臨テ在滿各公館ニ於テ現地ノ事情ニ基キ具體案ヲ考究シ置クコト肝要ト存セラレ當館ニ於テモ目下折角考究中ナルニ付テハ右貴館ニ於テモ御考究ノ上具備案御回報ヲ請フ  
大臣、公使ニ轉電セリ

438 昭和6年11月12日

在安東米沢領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

生活因窮の輯安および寬甸県移住朝鮮人に対し農業資金融通、保護方面朝鮮人会支部長陳情について

安東 11月12日後発  
本省 11月12日後着

第一八五號

輯安及寬甸縣移住鮮農ノ狀況ニ關シ右兩縣朝鮮人會支部長昨今相踵テ來安本官ヲ來訪シ同地方ニ於ケル鮮農ハ合計約四千五百戸二万五千人ニ達スル處時局以來支那人地主ハ農資金及貸付食糧ヲ回收シタル儘新規貸付ヲ拒絶スル爲來春ノ耕作ニ對スル準備ハ勿論其日ノ糊口ニモ窮スルノ實情ニ

朝鮮人避難民に対する具体的救護案考究の上回報ありたき旨在東北各領事宛電報

奉天 11月5日後発  
本省 11月5日後着

第一一九八號

本官發在滿各領事宛電報

合第八四八號

事變ニ依ル各地多數ノ避難民ヲ何時迄モ應急的救護状態ノ儘ニ置キ難キハ勿論ナルニ顧ミ此際原住地方面ノ治安回復セル者ニ付テハ成ルヘク早日ニ歸還セシムルコト肝要ナルモ現住地ノ治安状態右歸還ヲ許サル者ニ付テハ單ナル應急措置ノミナラス今後ノ生活安定ニ付少クトモ半永久的ノ方策ヲ講セサルヘカラス右ニ關シテハ或ハ之等避難民ヲ移住セシムル爲既買收地乃至借用地ヲ利用スルトカ從來地主トノ契約關係ノ不確定ナリシモノニ付此ノ際之カ調査ヲ計ルトカ種々ノ考案アルヘク何ノ途之等鮮農ニ對シテハ來春種蒔時期ニ先チ從來ヨリ寬大ナル條件方法ヲ以テ農耕資金ノ貸付ヲ行フノ必要アルヘク更ニ進テハ在滿鮮人自作農ノ創定ニ主力ヲ用ヒ以テ在滿鮮人問題ノ根本的解決ニ進ムコ

シテ此ノ際何等カ應急策ヲ講セラルルニ非サレハ舉テ餓死スルノ外ナキ旨ヲ訴ヘ左記二項中ノ一ノ實行ト共ニ農資金トシテ一戸當リ約百圓ノ融通方法方陳情セリ

(一)目下鮮農急迫ノ爲不逞鮮人及馬賊ノ危害ナキモ農資金ノ融通ト共ニ直ニ彼等ノ襲撃ヲ見ルヘク支那官憲ノ取締ノ如キ此際特ニ依頼シ難キヲ以テ軍隊又ハ警察官ニ依リ現地保護ヲ行ハレタキコト

(二)若シ右不可能ナルニ於テハ自警團ノ組織ヲ容認シ(輯安縣内ニ七箇所寬甸縣内ニ四箇所何レモ五十名ヲ以テ一團トシ且各團ニ二名乃至三名ノ邦人ヲ置キテ之ヲ監督セシム)之ニ武器ヲ所持セシメラレタキコト

右ハ何レモ實行殆ト不可能ナル申出ニシテ其儘ニテハ考慮ノ餘地ナキヤニ認メラルルモ鮮農ノ困窮ハ豫想外ニ甚シキカ如ク此際早急ニ之カ緩和方ニ付何等適當ノ具體案ヲ考究實施スルノ必要アリト思料セラル本官ニ於テモ折角右考慮中ナルモ不取敢

(朝鮮總督)奉天へ轉電セリ

439 昭和6年11月20日 在長春田代領事より  
幣原外務大臣宛

満鉄による朝鮮人救済のための水田用地買収  
計画につき報告

機密公第五五五號 (11月30日接受)

昭和六年十一月二十日

在長春

領事 田代 重徳〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

満鉄ノ鮮人救済ノ爲水田用地買収計畫ニ關スル件

本件ニ關シ公主嶺地方事務所員談話トシテ同地警察署ノ報告スル處ニ依レハ満鉄ニ於テハ鮮人救済方ニ付絶ヘス腐心シ居ル次第ニテ當事務所トシテモ大楡樹附屬地外ニ元農學校農場トシテ借り受ケ居タル水田四天地ヲ本年四月同校ノ廢校ト共ニ一應地主ニ返還セルモ同地方一帯ハ最モ水田ニ適シ尙相當開墾ノ餘地アルヲ以テ鮮人救済ノ見地ヨリ先ツ前記農場ヲ事務所ニ使用シ居タル鮮人某ヲシテ引續キ供用水田ヲ經營セシムルコトトシ漸次鮮農ヲ誘致開墾セシムル方針ナリシカ偶々今次ノ事變トナリ奥地ヨリ鮮農陸續トシ

第六五六號

滿洲里發本官宛電報

第四三號

大臣へ電報アリタシ

第六一號

閣下發奉天宛電報第三二八號ニ關シ

當管内朝鮮人集團地タル滿洲里及海拉爾ノ在留鮮人ハ大部分醜業婦ニシテ他ハ農業及漁業ニ從事スル極メテ資力乏シキ者ナルヲ以テ唯其成行ニ委セ年々在留鮮人減少ノ傾向ニアルニ付此際右兩地ニ民會ヲ開設シ篤ト彼等ノ保護發展助力ヲ策スルコト最肝要ナリト思考セラル就テハ右實現ノ場合ニ加入スヘキ鮮人ハ滿洲里ハ六十名ノ内四十六名海拉爾百三名ノ内三十八名合計八十四名ノ見込ナルカ右加入者ニシテモ前記ノ如ク資力乏シキ者多キヲ以テ補助費年額トシテ滿洲里約一千六百五十圓海拉爾約一千五十圓(兩地共外ニ初年度開設費各百十五圓ヲ要ス)計二千七百圓ヲ得ルニ非サレハ折角ノ民會モ持續經營スルコト困難ナルヘシ尙當管内最大ノ集團地タル海拉爾ハ御承知ノ適當地方ニ於ケル政治的經濟的中心地ニシテ四圍ノ事情ヨリ見ルモ現在ノ

テ附屬地ニ避難シ來リ現在公主嶺、四平街、長春ノ三地ノミニ於テモ千數百名ニ上リ居ル狀況ニテ至急大規模ノ救済方法ヲ講スル必要アリ之カ方法ニ付本社ニ意見ヲ提出シ此際先ツ大楡樹附近一帯ノ土地ヲ買収シ漸次從來鮮農ノ經營シ來レル懷德縣五家子、八屋、十屋、河套方面ニ迄及ヒ尠クモ之等ノ地方ニ一万户以上ノ鮮人大部落ヲ建設シ逐次保護教育等ノ施設ヲモ完備セシムル計畫ニテ既ニ本社ノ諒解ヲ得居リ當所主管トナリ時局落着次第關東廳朝鮮總督府トモ打合セノ上本件實行ニ着手スヘク大楡樹方面ハ近ク土地實測ノ豫定ニテ目下時局ノ推移注意中ナリト  
右何等御參考迄報告申進ス

本信寫送付先 奉天 吉林 閭島 鄭家屯

440 昭和6年11月21日 在ハルビン大橋總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

滿洲里および海拉爾の在留朝鮮人保護のため  
兩地に民會を開設方意見具申

ハルビン 11月21日前発  
本省 11月22日前着

處當地方ニ於テ最發展スヘキ諸條件ヲ具ヘ居リ且在留邦人モ五十名餘ニ達シ居ルニ付曾テ前任田中領事ヨリモ昭和五年二月三日附機密公信第三七號ヲ以テ同地ニ館員駐在方票請ノ次第アリタルモ經費ノ都合上警察官一名ヲ毎月交代出張セシメ現在ニ至レル處何分同地ハ蒙古中國及蘇支關係錯綜シ殊ニ蘇聯ノ「コミンテルン」代表等モ同時ニ常駐シテ密ニ政治的經濟的躍進ヲ策シ居ル次第ニシテ當管内中事件頻發ノ殆ト同地ニ限ラレタル實情ニ鑑ミ之カ必須ノ對策ヲ確定スル見地ヨリスルモ右警察官ノ出張位ニテハ到底所期ノ效果ヲ收ムルコトヲ得サルニ付此際同地ニ鮮人民會設立ノコトトモナラハ勿論設立ナクトモ是非トモ同地ニ我分館開設實現方希望ニ堪ヘス  
哈爾賓ヨリ奉天ニ轉電アリタシ  
奉天、哈爾賓へ轉電セリ

441 昭和6年11月22日 亞細亞局第二課高裁案

滿洲事變に伴う在中國居留民救護費支出について  
昭和六年十一月二十二日

高裁案

滿洲事變二件フ在支居留民救護費支出方ノ件

滿洲事變二件ヒ中國朝野ノ排日風潮俄然全土ニ波及シ殊ニ滿洲ニ在リテハ皇軍ノ出動ニ會ヒ潰散セル敗殘兵匪ハ中國官憲ノ警備力ノ喪失ニ乘シ跳梁セル馬賊ト混合シテ我實力ノ及ハサル奥地一帶ニ出沒横行シテ兇虐ノ限リヲ盡クシ在留邦人ハ其ノ堵ニ安セスシテ續々避難ヲ行ヒ殊ニ朝鮮人ノ力厄ニ逢フ者夥シク目前ノ收穫ヲ拋棄シ折柄ノ寒天ニモ不拘纒力ニ身ヲ以テ安全地帯ニ避難シ來レル者ノ延人員約六、八〇〇名ニ及フ而シテ是等避難民ノ大多數ハ來春農耕季ニ至ル迄殆ソト自活ノ資ヲ有セサルモノニ屬ス又支那本部地方ニ在リテハ數年來世界の不況及屢次ノ排日貨運動ニ禍セラレ既ニ經濟的ニ相當深刻ナル打擊ヲ蒙リ居タル居留民ハ今次事變二件フ空前ノ排日貨運動ニ會ヒテ其ノ生業ヲ根底ヨリ覆サレ剩ヘ暴民ノ激越ナル反日運動ノ爲屢々生命財產ノ安全ヲ脅カサレ永年開拓ノ歩地ヲ抛チテ引揚ケタル者既ニ約一、八〇〇名ニ達シ辛ウシテ現地ニ留マル者モ一部俸給生活者及少數ノ例外ヲ除キテハ自活ノ能力ヲ有スル

トアルヘキニ鑑ミ右ノ場合ニ處スル經費ニ關シテハ改メテ追加豫算ニ計上要求スルコトト致度

右仰高裁

左記

圓

(A)立替拂濟額 一九、三五四、八三

内 譯

(一)引揚及送還費

支那本部 六、二六〇、〇〇

滿洲 一、七三七、七七

計 七、九九七、七七

(二)收容費

支那本部 一

滿洲 一、三五七、〇六

計 一、三五七、〇六

(B)今後ノ救護費見込額 四八七、六四一、七五

内 譯

(一)引揚及送還費

支那本部 一〇、〇〇〇、〇〇

者殆ソト稀ニシテ既ニ引揚ケタル者モ多クハ引揚ノ費用ハ固ヨリ米鹽ノ資スラ自ラ辨シ得ス拱手他力ノ救濟ヲ渴望シツツアル狀況ニシテ是等窮境ニ沈淪シツツアル者ノ數約三、四〇〇名ニ達スル見込ナリ

本省ニ於テハ事變後在支各公館ニ命シテ各地居留民ノ生命財產ノ安固ニ關スル萬全ノ措置ヲ講セシムルト共ニ關係民團又ハ民會ヲ指導シテ極力是等罹災者及困窮者ノ救護ニ當ラシメ緊急臨機ノ措置トシテ之ニ要スル費用ハ一時本省豫算中ヨリ立替支出シタルモ此ノ狀態ハ今後尙ホ當分持續スルモノト觀測セラレ右ノ如キ姑息ノ手段ニテハ政府トシテ到底救護ノ責任ヲ果シ得サル次第ナリ就テハ經費節約ノ折柄ニハアルモ左記立替拂濟ノ金額金一九、三五四圓八三錢及今後五ヶ月間(大体昭和六年度末ニ至ル期間)ノ救護費見込額金四八七、六四一圓七五錢合計金五〇六、九九六圓五八錢ヲ豫備金又ハ國庫剩餘金等ヨリ至急支出方大藏省ニ交渉致シ度尙右金額ハ大体十一月中旬現在ノ諸般ノ材料ニ基キ出來ル限リ精確ヲ期シテ概算計上シタルモノナルモ今後事態ノ推移ニ依リテハ更ニ之ヲ超過スルコト無キヲ保シ難ク又本年度經過後ニ於テモ救護ヲ繼續スルノ必要起ルコ

滿洲 三、〇〇〇、〇〇

計 一三、〇〇〇、〇〇

(二)收容費

支那本部 二三一、六一六、五〇

滿洲 二四三、〇二五、二五

計 四七四、六四一、七五

救護費總計 五〇六、九九六、五八

以上

(欄外記入)

昭和六年十一月廿七日

高裁濟

442 昭和6年11月24日 在奉天森島總領事代理より 幣原外務大臣宛(電報)

関東庁より警察官増員につき外務省側の助力を依頼について

奉天 11月24日後発  
本省 11月25日前着

沿線附屬地ニ對シテハ事變以來關東廳ヨリ州内ヨリ警官ヲ臨時増派シ居ルモ尙警備力ノ不足ヲ免カレス臨時在郷軍人又ハ青年團等ノ助力ヲ得居ル次第ナルカ警備力ノ不足ハ附屬地外タル領事館警察管内ニ於テモ同様ニシテ當館ニ於テハ臨時四十六名ノ増員(内約三十名ハ當館應接室等ニ宿泊中)ヲ得居ル處二十三日關東廳森本警務課長來訪ノ上關東廳ニ於テハ警官増員計劃ヲ立テ目下政府ニ折衝中ニ付外務省側ヨリモ右實現ノ爲充分ノ援助ヲ得度旨申出アリ事情尤モニ付林總領事ヘモ御傳ヘノ上可然御取計願ヒタシ

443 昭和6年11月25日 在安東米沢領事より 幣原外務大臣宛(電報)

避難朝鮮人が近く大挙して安東に引揚げ来る 形勢につき救護方法回示方請訓

安東 11月25日後発 本省 11月25日後着

第一九五號 往電一八五號ニ關シ

ニ實質上多ク區別スルノ理由ナカルヘシ唯後者ノ場合ニ於テハ右救助ノ範圍及程度ニ付嚴密ナル調査ヲ遂ケ絶對必要ノ限度ヲ超ヘサル様細心ノ注意ヲ加フルノ要アルハ勿論ナリ就テハ冒頭敍説ノ如ク差迫リタル事情ニモアリ本件至急御考慮ノ上何分ノ儀御回示相成様致度シ 支、北平、奉天、朝鮮總督、關東廳へ轉電シ哈爾濱、吉林、長春、牛莊、遼陽、鐵嶺へ暗送セリ

444 昭和6年11月29日 三浦重細重局第二課長より 在安東米沢領事宛(半公信)

朝鮮總督府と内議の上避難朝鮮人の朝鮮内送 還方取計らいについて

昭和六年十一月廿九日 (安東鮮人救護ノ件) 在安東 米澤領事宛

重細重局第二課長

三浦書記官

(半公信) 必親展

拜啓益々御清穆奉慶賀陳者貴地避難鮮人救護費支出方ニ

輯安寬甸移住鮮人ノ状態ハ日ニ窮迫ヲ告ケ居ルカ如ク昨今弗々避難民現ハレ始メ近く大舉シテ當地ニ引揚ケ來ルノ形勢アリ本官ニ於テハ朝鮮人會長ト協力シ極力之カ慰撫ニ努メ居ル次第ナル處奧地鮮農ニシテ時局ノ爲地主ヨリ食糧ノ貸付ヲ拒絶セラレ他ニ何等ノ貯モナク其日ノ糊口ニモ窮スルモノニ對シ其沿線附屬地へ避難シ來ラサルノ故ヲ以テ何等救濟ノ方法ヲ講セサルハ餘リニ無慘ニシテ彼此公平ヲ失スルコト甚シキノミナラス

安全地帯ニ於ケル避難民ノ收容ハ結局事態カ原住地ヘノ歸還ヲ可能ナラシムル迄ノ臨時應急ノ措置ナルニ鑑ミレハ奧地鮮農ノ避難ハ出來得ル限り之ヲ阻止スルヲ得策トスヘク就中生活窮迫ノ爲ノ引揚ニ對シテハ此ノ際差當リノ生活費ヲ補給シ以テ現地在留ヲ繼續セシムル事最モ必要ノ儀ト思考セララ然ラサレハ避難民ノ救護ハ徒ニ奧地鮮農ノ引揚ヲ慫慂スルニ等シク殊ニ現地引揚ニ依リ後日ノ歸還ヲ困難ナラシムル地方ニアリテハ爲ニ一朝ニシテ多年經營ノ成果ヲ失ハシムルノ結果トナルヘク

此場合特ニ避難カ直接匪賊敗殘兵ノ脅威ニ因リタル時局ノ爲間接ニ窮迫ニ陥リ生活ノ資ヲ失ヘルニ因リタルトノ間

関シ昨廿八日重ネテ大臣宛御電請相成候處御承知ノ通此種救護費ハ何等本省豫算ニ計上セラレアルモノニ無之是迄緊急已ムヲ得サル臨機ノ措置トシテ本省既定經費中ヨリ不取敢立替支出ヲ行ヒ一面本件經費ノ捻出方ニ關シ目下折角詮議中ニ有之候而シテ其ノ遠隔ニシテ到底朝鮮ヘノ帰還至難ノ土地ニ在リテハ現地收容救護モ已ムナキ次第乍ラ貴地ノ如キ江一重ニテ容易ニ鮮内ノ土地ヲ踏ミ得ル場所ニ於テマテ均シク在滿鮮人ナルノ故ヲ以テ極メテ心細キ財源ニ依リ向フ數ケ月間ヲ徒食ノ儘塾居の冬眠ヲ貪ホラシムルヨリ寧ロ之ヲ對岸鮮内ニ送還シ來ル春耕期マテ郷土舊境ノ間ニ在リテ生産的ニ經過セシメ同時ニ鮮府ノ文化的善政ノ実状ヲ体験詠歌セシムルコト相互ノ為ナルヘク右ハ固ヨリ厄介拂ト云フカ如キ意味ニテハ毫頭無之次第ニ付此点篤ト御考慮ノ上鮮府筋トモ角立タサル様内議ヲ遂ケラルル様御取計相成リテハ如何乎ト被存候尚救護費ノ支出ニ付テハ極力手配中ニ有之候得共政府ノ財政状態ヨリ按スルニ或ハ追加豫算ヲ待ツノ外ナキニ非スヤトモ被存候處本省經費ヲ以テノ立替ハ追々年度末ヲ招ヘ會計課ニ在リテモ經理上至大ノ困難ヲ感シ居ラルル実状ニ付貴官ノ困難ナル立場ハ深く諒察申

上クルモ右ノ事情御賢察ノ上可成民間募捐金等ニ依リ一時急場ノ切抜ヲ劃セラルル方針ニテ此際奉天總領事館トモ御打合相成様致度依命此段内報申進候  
敬具  
本信寫送付先  
在奉天森島領事

~~~~~

445 昭和6年12月2日 幣原外務大臣より  
在局子街田中副領事宛

中国側の間島商埠地内法權行使に対する一般  
的対応ぶり指示について

昭和六年十二月二日附幣原外務大臣發信在局子街田中副領事宛回訓要旨

中國側ノ在間島商埠地内法權行使問題ノ件  
本年九月二日附貴信御請訓ノ件當方ノ記録ニ依レバ間島協約第四條ノ商議ニ當リ伊集院公使ヨリ中國側ニ對シ口頭ヲ以テ了解ヲ與ヘ居リ(別紙間島協約第四條商議ニ關シ伊集院公使來電參照)從テ協約商議當時我方ノ意嚮ハ商埠地内居住者ト雖居地内ニ土地ヲ所有シ農業ヲ營ム者ニ付テハ一般墾民ト同様ノ取扱ヲ受クル趣旨ニシテ又土地所有權ヲ認

埠外」ノ一句ヲ削除スルコトヲ提議シ伊集院公使ニ於テ右先方ノ要求ヲ容レ結局之ヲ削除スルコトニ同意セル處右ニ關シ伊集院公使ヨリノ來電左ノ如シ

雜居區域内韓民管轄權ノ箇條ノ冒頭「圖們江北地方」ノ下ノ「通商々埠外」ノ一句ヲ削除センコトヲ請求シタルニ付試ニ其ノ理由ヲ叩キタルニ要スルニ所謂越墾ノ民ハ清國ノ法權ニ服スベキモノナリトノ前提ニ基キタルモノニシテ聽テ開放セラルベキ通商地ノ數モ多キコトニ鑑ミ結局越墾者ノ多數ハ商埠外ニ土地ヲ有シ清民同様ノ權利ト利益ヲ享有シツツアルニ拘ラズ清國ノ法權ニ服セザルノ實況ヲ生ズベク折角日本ヨリ得タル裁判權ノ讓歩モ空文ニ歸スベシトノ憂慮ニ出デタルモノニシテ是非共右等ノ現象ノ發生スルコトヲ豫防シ度シトノ趣意ニテ之ト同時ニ書面ヲ以テ商埠内居住者ト雖商埠外ニ土地ヲ有シ農業ヲ營ム者ヲ越墾ノ民トシテ清國ノ法權ニ服從スベキモノナリトノ聲明ヲ爲サント申出デタリ右清國ノ主張ハ條理ニ照ラシ尤モノ次第ニシテ之ニ反對スルトキハ又々根本論ニ付論争ヲ再演スルコトナルベク(越墾者ハ清國ノ法權ニ服從スルガ故ニ雜居及土地所有ノ權利アリ若シ

メラレタル者ヲ墾民ニ限りタル同協約ノ精神ヨリセバ賣買ノ目的ヲ以テ土地ヲ所有スル者ニ付テモ農業者ト同様ニ取扱ハントスル先方ノ主張ニ相當ノ理由ナキニアラズト雖御承知ノ通り從來我方ハ間島協約ノ效力問題ニ關シ其ノ法理的根據ハ兎ニ角實際上ハ明治四十三年韓國合併ニ依リ朝鮮人ハ帝國臣民トシテ中國ニ於テ治外法權ヲ享有スルコトトナリ又間島協約ハ滿蒙條約ニ依リ一部變更セラレタリトノ立前ヲ取り間島在住ノ朝鮮人ハ商埠地ノ内外ヲ問ハズ我方法權ニ服スベキモノナリト主張シ來リ現ニ事實上間島内地居住鮮人ガ中國ノ法權ニ服從スルコトアルモ右ハ何等我方ニ於テ中國ノ管轄權ヲ認メタル次第ニアラザルニ付本件ノ如キ商埠地内居住者ニ付我方法權ヲ主張スルニ當リテモ埠内居住ノ點ヲ餘リニ強調スル結果先方ヲシテ埠外ノ者ニ付テハ中國ノ管轄權ヲ容認シタルノ印象ヲ與ヘザル様御留意セラレ度シ

間島協約第四條商議ニ關シ伊集院公使來電摘要

間島協約第四條ハ明治四十二年八月二十一日ノ彼我委員ノ會合ニ於テ大體成案成レル處八月三十一日ノ會合ニ於テ支那側委員ヨリ右成案冒頭「圖們江北地方」ノ下ノ「通商々

商埠内ニ居住スル故ヲ以テ清國ノ法權ニ服從セズトセバ商埠外ニ於テ土地ヲ所有スルヲ得ザルハ當然ノ道理ト謂フベク要スルニ越墾者ハ他ノ通商及遊歴等ノ韓人トハ一種異ル資格ヲ有スルモノニシテ此ノ資格ハ其ノ居住地ノ如何ニ依リ變更セザルモノト見ル方正當ナリト認ム)本官モ右ノ趣意ハ大體ニ於テ異論ナク從テ之ヲ書面ニ上ボスノ必要ナルベク況ンヤ日本ハ斯カル些末ノ脆計ヲ用ヒテ條約面ニ與ヘタル讓歩ヲ畫餅ニ歸セシメントスルモノニアラズト懇々説得ノ結果先方ハ漸ク書面ヲ撤回スルコトヲ言明シタルモ「通商々埠外」削除丈ケハ是非聞入レラレ度シトノコトニテ右ハ敢テ意味ニ變化ヲ及ボサザルモノニテ此上論争ヲ重ヌル程ノ價値ナキニ付遂ニ之ヲ容諾シタリ

446 昭和6年12月2日 中谷関東庁警務局長より  
永井外務次官他宛

避難朝鮮人等の今後における保護対策樹立上

の参考事項について

關機高鮮第五四〇一號ノ二 (12月7日接受)

昭和六年十二月二日

關東廳警務局長

- 拓務次官殿
- 内閣書記官長殿
- 外務次官殿
- 内務省警保局長殿
- 朝鮮警務局長殿
- 間島哈爾濱吉林各總領事殿
- 關東軍參謀長殿
- 關東憲兵隊長殿
- 關東州在勤海軍武官殿
- 滿鐵調査課長殿

避難鮮人等ノ今後ニ於ケル保護要求事項

目下新賓盤石鐵嶺清源各縣下ヨリ撫順ニ避難セル農民ニ付時局問題其ノ他ニ關シ其ノ僞ラサル告白ヲ聽取スルニ大要次ノ如ク今後鮮人保護對策樹立上ノ資トスルニ足ルモノアリト思料セラレ候條御參考迄

記

一、時局安定スレハ各移住地ニ歸還スルヤノ問ニ對シ

變サヘ解決セハ歸還スルノ意思アリ

二、如何ニセハ諸君ノ期待ニ添フヤノ問ニ對シ

吾々ノ期待スルコト從來ノ例ニ鑑ミ如何ニ支那官憲及地主ニ於テ移住鮮人ヲ優遇スルト稱スルモ信ヲ置キ難ク時日ノ經過ニ連レ依然壓迫ハ免レサルヲ以テ左記ノ如キ保護對策ヲ講セラレタシ

記

一、鮮人ノ移住地ハ各所ニ散在シ居リテ少數ノ日本官憲ニテハ保護至難ナルヲ以テ要スレハ水田ノ最モ多キ地域ヲ撰ヒ鮮農ヲ集メ同所ニ派出所ヲ設ケ教育機關ヲ設置スルコト

二、鮮農對地主ノ小作契約ハ專ラ日本官憲ニ於テ干涉シ相互ノ爲妥當ナル契約ヲ締結セシムルコト

三、國民府其ノ他共產黨員等ノ不逞團體ハ此ノ際歸順セシムルカ然ラサレハ徹底的掃蕩シ移住鮮農ヲシテ後顧ノ憂ヲ無カラシムルコト

四、從來地主ヨリ借用スル農業資金ハ其ノ利子極メテ高率ナルヲ以テ此際法定利子若クハ年二割以下ニ引下クル様官憲ニ於テ努力スルコト

吾々ハ永キハ十幾年前ヨリ移住シ其ノ間不法ナル支那官憲及地主ノ壓迫ヲ受ケツツモ漸クニシテ土地ヲ開墾、今日ニ及ヘルモ其ノ間日本國民トシテノ徹底セル保護モ受ケス且鮮匪國民府ヨリハ義務金、軍資金ト稱シテ多額ノ金錢ヲ搾取セラレ之ニ應セサル時ハ虐殺ノ憂目ヲ見ル等極メテ悲惨ナル生活ヲ持續シ來リタリ加フルニ今回ノ事變勃發スルヤ敗竄兵ノ爲放火掠奪ハ勿論慘殺セラレタルモノサヘアリ

若シ果シテ該事件カ日本ノ爲有利ニ解決シ移住鮮農ニシテ後顧ノ慮ナキニ至ラハ歸還スルモ可ナルヘク從來ノ經驗ヨリスレハ今後幾年移住スルモ收獲ノ全部ハ地主ヘノ負債整理ト小作料ノ納入ニ充ツル外何等ノ餘裕ナク加フルニ國民府又ハ中國官民ノ壓迫ヲ受ケルニ於テハ何ノ爲僻地ニ移住シテ勞苦スルヤ各自覺醒セサルヲ得ス寧ロ此ノ機ニ於テ撫順又ハ他ノ安全地帯ニ定住若クハ歸國スルヲ得策トスルモ前移住地タル奧地ニハ全ク歸還スルノ意思ナシ云々

然レトモ撫順縣下ノモノハ土地柄附屬地ニ接近シ居リ危險モ比較的少ク且日本官憲ノ保護モ行届キ居ル爲事

右至難ナリトセハ現在ノ鮮人金融會ヲ擴張シ貸付ノ範圍ヲ廣クスルカ若クハ之ニ代ハル金融機關ヲ新タニ設置スルコト

五、農業創庫等ノ如キモノヲ設置シ鮮農ノ收獲セル穀物ハ之等機關ニ依リ成ルヘク高價ニ賣却ノ方法ヲ講セラレ度コト

以上

447 昭和6年12月8日 在安東米沢領事より 三浦重細重局第二課長宛(半公信)

避難朝鮮人を漫然と朝鮮内に帰還させるのではなくあくまで救護が必要について

拜復時局多端ノ折柄愈々御清勝ノ段奉慶賀候陳者十一月二十八日附拙電ヲ以テ避難鮮人救護費支出方ニ付大臣宛懇請致シタルニ對シ同月二十九日附貴翰ニ接シ御垂示ノ趣篤ト拜誦仕候然ル處今回ノ事變ニ因ル鮮人避難民ノ救濟ニ關シテハ當地トシテハ御來示ヲ俟ツ迄モナク江一重ニテ容易ニ鮮内ノ土地ヲ踏ミ得ル場所ナルニ鑑ミ當地朝鮮人會長ト協力ノ上當初ヨリ避難民ノ一人一人ニ付身元素行等嚴查ヲ遂

ケ少シニテモ郷里ニ身寄りナドノアル避難民ハ片ツ端ヨリ  
鮮内ヘ歸還セシムルノ方針ヲ執リ一面當地ニ於ケル收容カ  
他地方ヨリノ避難ヲ誘致スルノ結果トナルヲ避ケルト共ニ  
他面心細キ財源ニ依リ向フ數ヶ月間ヲ徒食ノ儘蟄居の冬眠  
ヲ貪ラシムルコトナカラシムル(當地ニモ失業鮮人多數ア  
リ之カ授産ニ困惑シ居リ徒食鮮人ノ存在ハ最モ忌ム所ナリ)  
ニ努力シ來リタル次第(十月十五日附拙電)項及十一月十  
一日附拙電收容開始ノ事情参照)ナルモ元來在滿鮮人ハ殆  
ト其ノ全部カ郷里ニ於テ衣食ヲ得ルノ途ナキカ爲渡滿シタ  
ルモノニシテ今日無一物ニテ滿洲ヲ追ハレ鮮内ヘ歸ルモ古  
ク郷里ヲ去リタルモノハ固ヨリ然ラサル者モ郷里トハ名ノ  
ミニシテ何等寄ル邊モナキモノ大半ナルノミナラス鮮内自  
體ニ三十數萬ノ失業者ヲ有スル今日此等避難民カ郷土舊境  
ノ間ニ在リテ生産的ニ經過シ又ハ鮮府ノ文化的善政ノ實情  
ヲ體驗謳歌シ得ヘシトハ想像ノ外ニ有之候然レトモ當地ト  
シテモ避難民ノ收容ハ前記ノ理由ニ依リ極力之ヲ避ケヘキ  
必要アリ人情忍ヒ難キヲ忍ヒテ鮮内ヘ送還シタルモノモ少  
カラサル數ニ上ル處(十二月三日附大臣宛拙信普通第七〇  
九號報告ノ如ク十一月末迄ノ避難者ハ別表<sup>(省表)</sup>ノ如ク累計三七

請ノ通可然御取計相煩度右貴酬旁々御依頼申進候 拜具

昭和六年十二月八日

在安東

領事 米澤 菊二

亞細亞局第二課長

三浦 書記官 殿

本信寫送付先 在奉天森島領事

448 昭和6年12月10日

在奉天森島總領事代理より  
幣原外務大臣宛(電報)

避難朝鮮人救済費の未だ送付なきところ臨時事件

費等適當の費用中より同救済費支出方意見具申

奉天 12月10日後發

本省 12月10日後着

第一五一三號

一、避難朝鮮人救済ニ關シテハ本省ニ於ケル經理上御苦心ノ  
段拜察ニ難カラサル處本省ニ於テ主義上支出方御決定相成  
タルニ拘ラス救済費ヲ御送付相成ラサルニ依リ已ムヲ得ス  
十一月廿九日附三浦書記官發安東米澤領事宛書面末段ノ方

五名ニ上ルル鮮内歸還者ハ三一二名ニ達シ收容中ノ者ハ四  
五名ニ過キス。避難民中ニハ着ノミ着ノ儘ナルカ上ニ鮮内  
ニ身ヲ寄スヘキ親族故舊等全然ナク何トシテモ歸郷ヲ肯セ  
ス絶對收容ノ外ナキ者モ相當ノ數ニ達スル狀況ニテ此等ニ  
對シテハ經費ノ點モサルコトナカラ救護ノ途ヲ講スルハ止  
ムヲ得サル所ニ有之候此種避難民ノ數ハ十二月ニ入り刻々  
増加シ昨六日現在ニ於テ避難者累計七一五名内鮮内歸還者  
累計五六八名現ニ收容中ノ者一四七名ニ達シ其ノ増加率ハ  
十一月末日以來六日ヲ出スシテ既ニ倍加シ今後酷暑ノ襲來  
ト共ニ更ニ激増ノ趨勢ニ有之候之カ對策ノ一トシテ今回小  
官ヨリ在滿各領事ニ對シ鐵道沿線ヨリ鮮内ニ歸還セントス  
ル避難民ハ從前ノ如ク漫然當地ニ下車セシメサル様夫々電  
報依頼ヲナシ又鮮府方面トモ交渉シテ安東新義州間ノ汽車  
賃割引ノ便ヲ新ニ拓キ鮮府ニ其ノ經費ヲ負擔セシムル等  
(從來朝鮮側ニテハ新義州府尹ノ證明ヲ以テ新義州ヨリ乘  
車スルニ非サレハ鐵道割引ノ取扱ヲ爲サス爲ニ當地ニ下車  
ノ避難民ハ一日又ハ數日ノ滞在ヲ餘儀ナクセラレ之カ爲衣  
食費ニ相當ノ費用ヲ要シ居レリ)極力便法ヲ講シ居ル次第  
ニ有之候間當方ノ所要經費ハ紋上ノ事情御賢察ノ上這般電

法ニ依リ急場ヲ切抜ケ居ルモ他方總督府側ニ於テハ支那ニ  
於ケル鮮人統治上本件救済ヲ重要視シ當館ニ對シ臨時ニ事  
務官以下三名ノ職員ヲ派遣シ居ルニ反シ外務省ニ於テ應急  
の救済費ノ御送付ナキ爲本省ノ遣口ヲ以テ不信行爲ナルヤ  
ノ感想ヲ懷キ居ルカ如ク朝鮮總督府派遣員駐在シ居ル各地  
領事ノ立場極メテ苦シキモノアリ此ノ儘ニシテ推移センカ  
在滿鮮人政策上二重機關併立ノ爲サラテタニ機微ナル關係  
ニ立テル在滿領事館ノ立場ニ累ヲ及ホス事無キヤヲ懼ル  
二、避難朝鮮人ニ對シテハ各館トモ出來得ル限リ原住地ニ歸  
還セシムル方針ヲ採リ居ルモ現在ノ狀態ヨリ推察セハ來春  
種播ニ至リ原住地ニ歸還スルヲ得ス糊口ノ途ヲ失フヘキモ  
ノ尠クトモ三、四千ヲ下ラサルヘク何時迄モ國費ヲ以テ救  
済スルカ如キハ不可能不得策ニ付目下當方ニ於テ東亞勸業  
等關係ノ向ト既得土地ノ利用又ハ水田豫定地ノ新規取得等  
ニ依リ  
前記多數鮮人ニ對シ生計ノ途ヲ得セシムル爲折角研究ヲ進  
ムルト共ニ他方農耕資金ニ付テモ三十萬圓限度ヲ要スヘシ  
トノ見込ノ下ニ總督府東亞勸業等ト資金ノ捻出ニ苦心シ居  
ル次第ナリ

三、前記ノ通鮮農部落設定ニ至ラハ自然保護取締ノ爲警官派出所ヲ又助長事務ノ爲民會ヲ設置スルコト肝要ナルヘク目下本省ニ於テ各館ニ報告ヲ徴シ居ラルルモ右趣旨ニ依ルモノト思考ス又醫療並教育機關設置ニ付テモ既ニ朝鮮總督府側ニ於テ考慮中ノコトト察セラルルモ先般來同府外事課長ト數次會談セル際ノ印象ニ依レハ義捐金ノ一部ヲ右ニ差向ケ又ハ義捐金ヲ以テ應急の救済ヲ行フ以上ハ外務省支出ノ救済費ヲ右ニ差向ケタシトノ意嚮ヲ有シ居ルカ如ク旁外務省ニ於テ救済費支出方總督府ト協議セラレタル以上右ハ財政ノ關係モアルヘキモ主義上義捐金ノ高如何ニ左右セラレヘキ筋合ニ非サルヘク前記(一)ノ通當館ニ於テ義捐金ヲ以テ急場ヲ切抜ケツツアルハ將來外務省ヨリ追加豫算其ノ他ニ依リ支出セラルヘキコトヲ前提トシテ處理シツツアル次第ニ付前述諸般ノ事情並出先機關ノ困難ナル立場ヲ御諒察ノ上臨時事件費等適當ノ費目中ヨリ各館請求ニ係ル救済費ヲ御支出相成度卑見重ネテ電稟ス  
公使、北平、在滿各領事へ暗送セリ

回電セシメラル様致度シ  
右訓令トシテ避難民救済從事中ノ關係各公館ニ轉電アリタシ

450 昭和6年12月16日 在奉天林總領事より  
犬養外務大臣宛(電報)

東亞勸業奉天農場に匪賊來襲に對し朝鮮人現地保護のため警察官派遣方関東長官宛請訓

奉天 12月16日後発  
本省 12月17日前着

第一五四三號

本官發關東長官宛電報

第一八三號

東亞勸業奉天農場(公太堡板橋子、五家口)ハ同社經營農場中最重要ナルモノニシテ公太堡ニ於テハ鮮農約二千五百名又板橋子ニ於テハ鮮農約一千名ヲ算シ何レモ奉天ニ最モ近接シ且當館管内鮮農部落ノ中心地タル處最近兩農場ニ對スル集團的匪賊ノ襲來頻繁ニシテ本月ニ入りテモ十九日公太堡ニ於テハ七回五家口ニ於テハ四回ニ及ヒ鮮農ノ動搖甚

449 昭和6年12月12日 幣原外務大臣より  
在奉天森島總領事代理宛(電報)  
在東北朝鮮人救済費支出方に關し最小限度の救済費にて支出抑制方訓令

本省 12月12日後8時30分発

第三六五號(暗)

貴電第一五一三號ニ關シ

各館ノ困難ナル事情ハ能ク推察シ居ル次第ニシテ本省ニ於テモ救済費ニ付テハ夙ニ年度未迄ノ大体ノ豫定ヲ作成シ先般來種々苦心ヲ重ネ居ルモ政府ノ財政狀態上之カ捻出ノ困難ナルハ到底貴方ノ想像外ニシテ豫備金支出ハ到底見込立タス目下ノ處追加豫算ニ俟ツ外ナキ狀態ナルカ一方本省ニ於テモ事變以來各般ノ差繰支出モ多額ニ達シ既ニ其ノ餘裕モ殆ト尽クルニ至リ自然各館ノ要求ニ對シテモ圓滑ニ應シ得サル破目ニ在ル次第ハ諒セラレ度尤モ貴館及各館ノ立場ニモ鑑ミ更ニ極力繰合セ此際十二月末日迄ノ分ヲ不取敢支出シ得ルノ見込モ漸ク著キタルニ付關係各館ニ於テ年内ニ要スル最小限度ノ救済費(十一月末日マテノ分ニシテ未タ當方ヨリ送金未済ノ向ハ之ヲ十二月分ト区分シ)金額至急

タシク當地方ニ引揚クル者増加ノ兆アリ若シ同地農場蹂躪セラレ多數鮮農ノ引揚ヲ見ルトキハ畜ニ之カ救済ニ多大ノ費用ヲ要スルニ止マラス來春ニ於ケル農耕全然見込無キニ至ル虞レ大ナルモノアリ又東亞勸業ノ事業ノ中樞ヲ破壊セラルルノ結果トモナルヘキニ鑑ミ當館ニ於テハ現在公太堡ニ五名板橋子ニ八名ノ警官(右兩地ヲ防禦シ得ハ五家口ハ地理的關係上大體安全ト認メラル)ヲ増派シ居ルモ右ヲ以テハ現地保護ニ不充分ナル爲警察側ト打合セノ上更ニ増員方手配中ナルカ少クトモ兩地ニ當分各々二十名宛ノ警官ヲ常置セシムルニ非スンハ現地保護上完全ヲ期シ難シト思考セラル而モ當地ノ實情ニ於テハ右ノ如ク多數ノ警官ヲ割クトキハ治安上ノ懸念モ鮮カラス且事變後商埠地並城内居住邦人増加ノ傾向ニ鑑ミ右方面ヘモ警察官派遣ヲ必要トシ居ル次第ニ付公太堡及板橋子ヘ増派二件ヲ缺員補充方至急御配慮願度ク已ムヲ得サレハ朝鮮總督府ニ對シ應援警察官派遣ヲ求ムルモ一案ナルヘク必要ニ應シ本官ヨリ直接外務省ニ協議スルモ差支無キニ付何分ノ儀至急御返電ヲ請フ  
大臣へ轉電セリ

451 昭和6年12月28日 在間島岡田総領事より  
犬養外務大臣宛(電報)

間島地方における小作朝鮮人の生活難厳しき  
折から本省補助金支出方意見具申

間島 12月28日後發  
本省 12月29日前着

第三一一號

這般ノ滿洲事變以來敦化、寧安、樺甸、安圖縣方面ニテ支那敗殘兵及匪賊等ノ脅威ヲ受ケ間島地方へ避難セル鮮人ハ約二百名ニ過キサレモ間島地方ハ昨年來共產黨ノ兇暴並ニ隨所ニ出沒スル部隊ノ馬賊又ハ支那軍警ノ非行等ニ依リ在住鮮人ノ蒙レル損害ハ相當多額ニ上リ昨年十二月以來本年十月迄奥地不安ノ爲鮮内地ニ引揚ケタル鮮人ハ咸鏡北道ノ調査ニ依レハ實ニ一萬九十名ニ及ヒ殊ニ本年ノ農作ハ平年ニ比シ何レモ三、四割ノ減收ヲ示シ而モ財界不況ノ爲穀價ノ暴落ヲ見鮮人農家ノ過半ハ其全收穫ヲ賣拂フモ尙一年ノ生計ヲ支フルニ足ラス一方支那地主ハ時局ノ不安ニ怯ヘ從來ノ如ク其小作鮮農ニ對スル食糧前貸ニ應セサルノミナラス却テ舊債權ノ督促過酷ヲ極メ又支那側ノ納稅督促或ハ下

上セリ

本案ハ滿洲事變後地價低落シ支那側ノ態度軟化並ニ將來吉會線開通後鮮人ノ地位變遷ノ機會ニ牢固タル鮮人ノ地盤ヲ作ラシメ置ク上ニ必要ニシテ土地買収ニ目下絶好ノ機會ト認メラルルニ付是非此際實施致シ度シ

(甲)耕牛保持費補助(金四萬圓)

右ハ本年機密第二五一號拙信ノ趣旨ニ依リ各民會ノ畜産會ニ二萬圓宛ヲ補助シ窮民救濟ヲ爲サシムルヲ緊要ノ措置ト認ム

(乙)實費宿泊所設置費補助(金二萬圓)

右ハ十一月機密第一四一一號拙信添附ノ第八號朝鮮人民會對策案中ノ(八)ニ依リ各民會ニ金千圓宛ヲ補助シ之ヲ實施セシムルモノニシテ現下ノ時局ニ鑑ミ緊急已ムヲ得サル必要ノ施設ト認ム

(丙)種改良費補助(金一萬五千圓) 右ハ間島農園ニ於テ滿鐵ヨリ借入レ鮮農ニ配布セル大豆優良種カ農民窮迫ノ結果來年度用種モ市場ニ逸散セントシテ折角苦心シ來レル本豆改

級軍警ノ誅求モ加ハリ鮮農ハ生活苦ニ喘キツツアリ從テ鮮人民會トシテモ會費ノ徵收殆ト不可能ニシテ未曾有ノ難局ニ逢着シ鮮民ノ窮狀ハ昨年ニ比シ更ニ一層深刻ナルモノアリ殊ニ凶作ノ折柄食糧ノ貯藏殆トナク此儘ニ推移センカ其多數ハ來春耕期ニ至ル迄ニ糧食缺乏ヲ告ケ其間共產黨ノ策動行ハレ遂ニ食糧暴動等ノ不祥事ヲ惹起セサルヲ保シ難ク一般ニ憂慮セラレ居ル有様ナリ

(イ)金融部増資補助(金二十萬圓)

右ハ來春耕期ニ於テ鮮農ノ必要ナル食糧種、農具、購牛費トシテ十萬圓ヲ補助スル外客年九月機密第一〇二九號拙信稟請ノ土地獲得案ニ依リ自作農創定ヲ致シ度キモ財政緊縮ノ際ヲ考慮シ十一月機密第一四一一號拙信ノ朝鮮總督府案ニ依リ此際(東)拓會社二十萬圓補助シ之ニ二、三倍スル金額ヲ同社ヨリ金融部ニ貸出サシメ度キモ議會解散等ノ爲右朝鮮總督府豫算不成立ノ場合ヲ考慮シ合計二十萬圓ヲ計

良事業ノ上ニ一大蹉跌ヲ來ス虞アルニ付此際來春配布ノ種用トシテ三千石ヲ限り買上ケントスルモノニシテ應急必要ノ措置ナリ

(丙)朝鮮人民會救濟補助(金三萬一千八百圓)

右ハ現下鮮農ノ窮乏ニ伴ヒ民會ハ會費ノ徵收不能ニ陥リ南陽坪外四民會ヲ除キ他ハ總テ會務ノ續行スラ困難ノ事情ニアリ在任鮮人唯一ノ結合機關ニシテ其根幹タル民會カ今ヤ時局ノ爲大ナル危險ニ瀕シ居ル次第ニ付當面ノ救濟トシテ其未拂債務及來ル三月年度末迄ノ經費不足額十民會分合計額前記ノ通り此際臨時補助ノ上之カ苦境ヲ救濟スルハ最モ緊要ノ應急措置ト認ム

尚鮮人免囚歸郷旅費補助方ニ關シテハ貴信第三九七號御回訓ノ次第モアリタル處右ハ本件補助ト一併御支出アリタシ奉天、吉林、局子街、頭道溝、琿春、百草溝、朝鮮總督へ轉電セリ